シテ彼ノ分割保險（リー、インシユアレン）ノ方法ヲ設ケタリ。此方法ニ依レバ多額ノ保險金ハ皆數會社ニ分割シテ之ヲ引受ケ、以テ負擔ヲ輕減シ且ツ船主及ビ荷主ヲ保護シ、以テ此業ノ發達擴張ヲ圖リタリ。然ルニ爾今我邦ニ於テ航路ヲ擴張シテ盛ニ外國ノ商港ニ往復スル以上ハ、其船舶及ビ貨物モ亦歐米ノ制ニ則リ保險ヲ附セザレバ內外人ノ信用ヲ得ルコト能ハズ。然レドモ此ノ如キ保險ハ獨リ內國ノ保險會社ニ於テ悉ク負擔シ能ハザル大事業ナルガ故ニ速ニ歐米ノ保險會社ト連絡ヲ附ケ、又ハ特約ヲ結ビ、以テ內外相應ジテ保險ノ事業ヲ經營シ、將來ニ於ケル日本ノ船舶及ビ貨物ヲ安全ノ位置ニ置クコト本邦ノ海外貿易ヲ擴張スルニ付キ最モ急務ナリトス。今之ガ實施ノ方法ハ先ヅ一方ニ於テハ政府ニ於テ確實ナル保險會社ニ勸誘シ、外國ノ保險會社ト連絡ヲ附ケ、又ハ特約ヲ結バシメ又他ノ一方ニ於テハ政府ハ其會社ニ對シ政府ノ證明書ヲ交付シ、以テ外國ノ保險會社ヲシテ我保險會社ヲ信用セシムルコトヲ力ムベシ。

航路ヲ擴張シ又保險ノ連絡ヲ附クルト同時ニ輸出入品ニ對スル荷爲替ノ途ヲ開キ以テ金融ノ機關ヲ備ヘザルベカラズ。

## 第三　海外ニ於ケル金融

現今正金銀行又ハ其他ノ銀行ニ於テ外國ニ設置シタル支店又ハ出張所ノ數ハ實ニ僅少ニシテ、將來發達スベキ我邦外國貿易ノ金融機關ニ十分ナリト云フ能ハザナリ。故ニ政府ハ正金銀行日本銀行其他ノ銀行ニ勸誘シテ外國ノ銀行ト「コルレスポンデンス」ヲ取結ハシメ、以テ我邦ノ輸出品ニ對スル爲替ヲ附シ、又彼國ヨリ輸入スル貨物ニ對シテハ直チニ外國ノ銀行ニ於テ之ガ仕拂ヲナシ、又ハ外國ニ於テ荷爲替ノ金員ヲ交付スルノ途ヲ開カシメザルベカラズ。又本邦ノ銀行モ亦歐米ノ銀行ト連絡ヲ附ケ信用證券（レターオフ、クレデツト）ヲ發行シテ歐米諸國及支那、印度濠洲等ニ於ケル貿易ノ金融機關ヲ具備スルノ途ヲ開カザルベカラズ。

既ニ航路擴張及ビ海外ニ於ケル保險幷ニ金融ノ三機關ヲ具備シテ後始メテ我邦ノ海外貿易ヲ隆盛ナラシムルコトヲ得ルモノナリ。故ニ之ニ繼イデ着手スベキモノハ海外ニ支店ヲ設ケ又ハ外國人ト組合營業ヲ爲スニアリ。

## 第四　海外ノ支店及組合營業

海外貿易ヲ盛大ニセント欲セバ現今行ハルヽ、委托販賣ノ方法ヲ廢止シ、直接ニ取引ヲナサヾルベカラズ。現ニ外國商人ガ我邦ニ於テ委托販賣ノ方法ニ依リタルハ、全ク維新後尙未ダ我邦ノ貿易發達セザルガ爲メナリシガ、今日ハ我邦ノ貿易モ亦宇內貿易ノ軌轍ニ隨伴スルノ現象ヲ呈シタルガ故ニ、歐米ノ商人ハ多クハ橫濱又ハ神戶ニ於ケル委托販賣ノ割ヲ廢シテ、日本ニ支店ヲ設ケ又ハ日本

人ト共ニ組合營業ヲ爲サントト計畫シツツアリ。故ニ我政府ハ日本商人ニ勸誘シテ外國ニ支店ヲ設ケ、彼市場ニ於テ直接ニ我貨物ヲ需要者ニ賣込ミ、又ハ其註文ヲ引受ケ併セテ外國市場ノ情況、需用ノ區域及ビ嗜好ノ變遷等ヲ視察シ、以テ益〻我貨物ノ販路擴張ヲ圖ラシムベシ。又之ト同時ニ我商人ヲシテ外國人ト組合營業ヲ爲サシメ、以テ外國人ハ海外ニ於テ我貨物ヲ需要者ニ賣込ミ或ハ其注文ヲ引受クル等總テ海外ニ於ケル營業ヲ擔任セシメ、又我商人ハ內地ニ於テ物品ヲ買入レテ之ヲ海外ニ輸送シ、彼我相應シテ我貿易ヲ擴張スルコト今日ノ急務ナリ。已ニ我邦モ亦宇內ノ貿易界ニ進入シタル以上ハ早晩內外人結社シテ組合營業ヲナサヽルベカラザルナリ。故ニ今日其準備ヲ爲スコトモ亦貿易擴張ノ上ニ於テ最モ必要ナリトス。

## 第五　海外實業練習生

海外ニ支店ヲ設ケ又外國人ト組合營業ヲ爲スニ於テハ、外國貿易ニ從事スル必要ノ人物ヲ養成セザルヲ得ズ。故ニ政府ニ於テ實業家ヲ勸誘シテ其少年子弟ヲ海外ニ派遣シ、彼國ノ商店又ハ工場ニ就キ實地ノ練習ヲ爲サシメ、其費用ノ如キハ政府ヨリ其幾部分ヲ補助スルヲ可トス。

第一ヨリ第五ニ至ル海外貿易擴張ノ準備整ヒタリト雖モ宇內ノ貿易ハ年ヲ追フテ膨脹シ、昨日ノ情況ハ今日ノ實際ト異ナルモノナレバ、常ニ海外貿易ノ實況ヲ視察セザルベカラズ。



## 第六　海外視察

海外ニ於ケル商工業ノ視察タルヤ極メテ重大ナル任務ナルガ故ニ經濟ノ學識アリテ、內外ノ情況ニ通曉シ、又ハ本邦ニ於ケル農工、商業ニ經驗アル者ヲ選拔シテ每年又ハ隔年之ヲ海外ニ派遣シ彼ノ國ニ於ケル農工商ノ實況ヲ視察シテ其意見ヲ政府ニ報告シ、及ビ之ヲ當業者ニ通知セシムルコト亦最モ緊要ノ事ナリトス。

第一ヨリ第六ニ至ルノ六項ハ專ラ外國ニ向テ計畫施行スルモノニシテ之ヲ實施スルト同時ニ、內地ニ向テ經營スベキ事項數多アリト雖モ、今其概要ヲ略記セバ左ノ如クナラントス。

## 第一　同業組合

外國貿易ノ機關悉ク具備シ、彼國ノ市場ニ於テ我貨物ヲ盛ニ販賣セント欲セバ先ヅ內地ニ於ケル輸出品ノ品質ヲ一定シ、外國ニ於テ多額ノ注文ヲ受クルモ聊カ供給ニ差支ナキマデノ準備ヲナサヾルベカラズ。然ルニ我工業ノ現況ニ依レバ小資本家各々自己ノ意見ヲ以テ輸出品ヲ製造スルガ故ニ品質ノ一定ヲ期スルコト難ク、又粗製濫造ノ弊多ク到底外國ニ於ケル多額ノ注文品ヲ供給スルコト能ハズ故ニ輸出重要品ニ付テハ同業組合ヲ設ケ組合ノ規約ニ依リ一定ノ品質ヲ保續シ、粗製濫造ヲ

防止スルコト目下ノ急務ナリ。然ラバ則チ多數ノ製造人ノ手ヲ經ルト雖モ、其産出ノ物品ニ至テハ同一ノ品質ニシテ海外ノ需要ニ供給スルコトヲ得ルニ至ラン。

同業組合ヲ設置シ、輸出品ノ製造法ヲ一定ナラシムルト雖モ、製造者ニ資金ヲ供給スルノ途ヲ開カザルベカラズ。其資本ヲ供給スルノ途ハ興業銀行ヲ創立スルヲ以テ第一トス。

## 第二　興業銀行

同業組合ヲ設ケタル後、政府ハ興業銀行ヲ起シテ農工、商品ノ資本ニ充ツル爲ニ低利ノ資金ヲ貸與シ物産增殖ノ途ヲ開キ、以テ外國貿易ノ隆盛ヲ計ラザルベカラズ。但シ其低利ノ資本ハ力メテ一己人ニ貸與スルコトヲ防止シ、同業組合ニシテ其基礎ノ確實ナルモノニ限リ之ヲ保護スルノ方針ヲ取ルベシ。

既ニ同業組合ヲ設置シ、又興業銀行ヲ創立シテ貿易品ヲ製造スルニ至ラバ、其次ハ之ヲ一堂ノ中ニ陳列シテ外商ノ觀覽ニ供シ、併セテ內商ニ輸出品購買ノ便ヲ與ヘザルベカラズ。

## 第三　貿易品陳列所

商工業隆盛ナル土地ニ於テハ貿易品陳列所ヲ建設シ、其特有ノ商品ヲ一堂ノ中ニ陳列シ外商ノ觀



覽ニ供シ、併セテ內商ニ輸出品購買ノ便ヲ與ヘ以テ我貿易品ノ販路ヲ擴張スルコトヲ謀ラザルベカラズ。而シテ陳列シタル商品ノ側ラニハ參考品トシテ他府縣又ハ外國ニ於テ製造スル同一ノ商品ヲ竝列シ、商工業者ヲシテ彼我製造品ノ優劣ト其代價ノ高低等ヲ比較シ益々之ガ改良進歩ノ方法ヲ研究セシムルコト緊要ナリトス。

## 第四　工藝學校

外國貿易ニ適スル商品ヲ製造シ、又之ガ改良進歩ヲ謀ラントス欲セバ、學理ヲ應用シ又ハ各種ノ機械ヲ使用セザルベカラズ。故ニ貿易品ヲ製造スル土地ニ於テハ工業學校ヲ設立シ、工業ニ必要ナル學術ヲ教授シ、工藝技術家ヲ養成シ以テ工業ノ進歩ヲ圖リ將來ニ於テハ外國輸出ニ供スル製造品ハ一定不變ノ品質ヲ保續シ、需要ノ程度增加スルモ毫モ差支ナキ基礎ヲ作ラザベカラザルナリ。

## 第五　商業學校

外國ノ貿易ヲ盛ニセント欲セバ日本在來ノ商習慣ニ拘泥シテ字內貿易ノ情況ニ後ルヽノ不利ナルコトハ今玆ニ喋々スルヲ待タザルナリ。故ニ商業隆盛ノ土地ニ於テハ商業學校ヲ設立シ、外國貿易ニ關スル歐米諸國ノ歷史及之ニ必要ナル學術ヲ教授シ、將來商業ニ從事スル子弟ヲシテ深ク宇內貿

易ノ原則及方法等ヲ修習セシムルコト亦今日ノ急務ナリトス。

## 第六　商業會議所

同業組合ヨリ商工業學校ニ至ルノ機關已ニ整備シテ將來我貿易ヲ盛大ニセント欲セバ、商業會議所ヲシテ政府ト人民トノ中間ニ立テ相互ノ意見ヲ疏通セシムベシ。故ニ海外貿易ニ關スル法按又ハ事項ニ付テハ政府ヨリ商業會議所ニ諮問シテ其意見ヲ具申セシメ、又商業會議所ニ於テモ其意見ヲ上申シ、依テ政府ノ旨趣ハ之ヲ經由シテ當業者ニ周知セシメ、又實業者ノ希望モ此機關ニ依テ政府ニ開申セラルヽニ至リ、以テ商業會議所ノ本分タル貿易ノ機關トナルコトヲ得ントス。

## 第七　輸出品商況報告

內外ニ於ケル我商品ノ情況ヲ迅速ニ熟知スルハ我海外貿易ヲ擴張スルニ當リ尤モ緊要ナルモノトス。故ニ政府ハ外ニ於テハ在外領事ニ訓令ヲ發シ、外國ニ於ケル我輸出商ノ商況ニ付キ今一層心力ヲ盡シテ精細適切ナル報告書ヲ送ラシメ、又內ニ於テハ地方長官ニ命ジテ其商品ノ製造及販賣方法其他必要ナル事項ヲ報告セシメ、農商務省ニ於テ之ヲ一括シテ一小冊トシ每年之ヲ在外領事館、府縣廳商品會議所又ハ實業者ニ頒布スベシ。



以上列記スル事項ハ我邦現今ノ情況ニ付キ又外國ノ貿易歷史及ビ現況ニ照シ熟考スルニ、實ニ一日モ猶豫スベカラザル緊急ノ事件ナリトス。然レドモ前文ハ只其概略ニシテ其詳細ノ如キハ別ニ說明セントス。而シテ今其事項ヲ實施スルノ目的ヲ以テ其管轄廳ヲ區別スレバ左ノ如シ。

海外ニ對スル計畫

第一、航路ノ擴張

第二、內外ニ於ケル船舶及貨物ノ保險

右ハ遞信省ノ主管ナリ

第三、海外ニ於ケル金融

右ハ大藏省ノ主管ナリ

第四、海外ノ支店及組合營業

第五、海外實業練習生

第六、海外視察

右ハ農商務省ノ主管ナリ

內地ニ對スル計畫

第一、同業組合

第三、貿易品陳列所
第六、商業會議所
第七、輸出品商況報告　（一部ハ外務省ノ主管ナリ）
右ハ農商務省ノ主管ナリ
第二、興業銀行
右ハ大藏省ノ主管ナリ
第四、工業學校
第五、商業學校
右ハ文部省ノ主管ナリ
以上ノ各項ハ數省ノ主管ニ跨リタルガ故ニ、先ヅ政府ニ於テ大體ノ方針及順序ヲ一定シ、之ニ基キテ主務省ハ各々互ニ協同熟議シテ其主管ノ事項ヲ實施シ、戰後ニ於ケル海外貿易策ヲ確定スルコト目下最大ノ急務ナリトス。



# 絹織物輸出ニ關スル意見

拜呈
伊藤首相公閣下

金子堅太郎

## 絹織物輸出ニ就テ（上）

### 日本絹織物ノ進歩

回顧スレバ明治十六年ノコトナリキ。予ハ公命ヲ以テ滋賀福井新潟山梨埼玉栃木等ノ諸縣ヲ巡廻シ、順路桐生ヲ過リ其地ニ於ケル織物工場ヲ巡視シ、且ツ當業者ト一樓ニ會シ、一場ノ談話ヲ試ミシコトアリ。當時桐生ノ機業者中、既ニ「ジャカード」機ヲ使用シ、且ツ多少眼ヲ海外輸出ニ注ギ染法ノ如キモ西洋法ノ用フベキヲ知レル人アリシト雖ドモ、是等ハ眞ニ少數ニシテ曉天ノ星ノ如ク其多數ハ、仍ホ在來ノ機ヲ用キ、傳來ノ染法ニ據リ、毫モ改良ニ着手スルノ意ナキモノノ如シ、サレバ將來盛ンニ海外輸出ヲ奬メ「ジャカード」機ヲ以テ在來ノ地機ニ代ヘ、西洋ノ染法ヲ採テ紅花

若クハ藍染ヲ改良スル予ノ意見ハ、桐生多數ノ人ニ排斥セラレ、幸ニ染法ヲ修メテ新タニ里昂ヨリ歸レル平賀技師アリ、就テ染法ノ改良ヲ謀ルベキ予ノ忠告ハ、桐生人ニハ祖先傳來ノ染法アリ、西洋ノ染法何物ゾ、彼ノ劇藥ヲ用キル徒ニ織物ヲ傷ルノミト答ヘラル、程ナリキ。余ハ實ニ失望シテ桐生ヲ去レリ。而シテ足利ヲ巡視セリ。當時ノ足利ハ桐生ヨリモ尚ホ一層未開ニシテ、月六回ノ夜市ニ內國需要ノ足利太物ヲ賣ルヲ見ルノミ。夫レスラ極メテ粗惡ノ品ニシテ、固ヨリ「ジヤカード」機ノ使用サルルアルナシ、況ンヤ西洋法ノ染メ方ヲヤ。予ハ實ニ我國絹織物ノ前途果シテ如何ナルベキヤ、窃カニ大息スル所ナキニアラザリキ。

爾來十有二星霜、今歳桐生ニ赴キ其ノ工場ヲ視ル。機ハ悉ク「ジヤカード」染方ハ皆ナ西洋改良法、予ガ昔年豫言シテ排斥セラレシ所、悉ク之ヲ今日ニ用キラルヽニ至ル。今昔ヲ比較スルトキハ眞ニ其ノ地ヲ異ニセルノ感ナクンバアラズ。明治二十六年ノ統計ニ據レバ、同一ケ年間、桐生ノ絹織物ニシテ外國ニ輸出シタルモノ、原價百五十八萬圓ニ達セリ、其進歩決シテ少々ニアラザルナリ。殊ニ足利ニ至テハ同年間ニ於ケル海外輸出ノ絹織物ハ實ニ桐生ノ倍額以上ニ上リ、原價三百六十萬圓ヲ算セリ。十一年以前內國需要ノ粗惡ナル太物ノミヲ産セシ地ニシテ、斯ノ如キ海外輸出ヲ爲ス、其進歩モ亦タ著シカラズヤ。桐生足利ノ名、海ノ內外ニ稱セラル偶然ニアラザルナリ。

我ガ國ノ絹織業ハ進歩セリ、著シク進歩セリ。然レドモ是レ十幾年前ニ比シテ爾カ云フノミ。今之ヲ世界織物進歩ノ上ヨリ觀察シ來レバ、未ダ遼カニ滿足ヲ表スル能ハザルナリ、夫レ織物ヲ高度ニ進歩セシメ、眞ニ我ガ國民ノ利益ヲ圖ルニハ、海外輸出ヲ盛ンニセザル可ラズ。輸出ノ業言ヒ易クシテ、行ヒ實ニ難シ、如何ニシテ其ノ額ヲ增加シ、如何ニシテ其ノ損失ヲ避クベキカ、日本絹織物ノ前途尙ホ遼遠ナリ。

## 英米ニ於ケル織物發達ノ歷史

歷史ハ繰リ返ス、否繰リ返ヘサヾルベカラズ。日本織物本場ノ人々ガ既往ノ經歷及ビ將來ノ進行モ亦タ歐羅巴ノ歷史ト其轍ヲ同フセン。且ツ日本人ニシテ、海外輸出ヲ盛ンニシ、卽チ歐人ト同一ノ物品ヲ製シ、同一ノ市場ニ販路ヲ求メ、更ラニ競爭ヲ生ズルニ於テハ、同一ノ市場ニ販路ヲ求メ、更ラニ競爭ヲ生ズルニ於テハ、矢張リ歐人ガ經過シ來レル順序方法ニ由ラザル可カラザルナリ。之ヲ外ニシテハ良途アルベカラズ。若シ之ニ由ラズンバ必ズ損失ヲ招キ、販路ヲ擴張ス可カラザルナリ。然ラバ則チ我當業者ハ須ラク先ヅ歐米ニ於ケル織物發達ノ歷史沿革ヲ知ルヲ要ス。

歐洲ニ於ケル各國ノ織物沿革、之ヲ叙スルハ頗ル煩ナレバ、單ニ英國ノ歷史ニ就テ之ヲ觀ルニ、英ニ於ケル織物ノ發達ハ由來久クシテ既ニ數百年ヲ經タリ。當初ハ皆ナ毎戸製造ノ法ニシテ、原料ヲ買ヒ之ヲ染メ、自カラ之ヲ織ル。而カシテ皆ナ英ノ內地向キノ織物ナリ。恰モ我ガ桐生等ニ於テ

內地向キノ織物ヲ織ルニ、生絲ヲ買ヒ來テ之ヲ染立テ、自家ノ機ニ上ボセルト異ナラザルナリ。其ノ數凡ソ百人若クハ二百人ニ過ギズ。其ノ織リ上グルヤ、之ヲ肩ニ負ヒ或ハ車ニ積ミ以テマーケツトニ出デ之ヲ販ギ仲買之ヲ買フテ需用地ニ轉輸セリキ、宛モ我ガ桐生足利市場ト同ジク、毎戸ニ之ヲ織テ、夜市若クハ晝市ニ携ヘ行キ、仲買之ヲ買テ日本全國ニ鬻グト異ナラザリキ。英國ニ於ケル古昔織物發達ノ狀、何ゾ日本ノ現時ニ似タル哉。而シテ其ノ需用ハ皆ナ英ノ內地ニ在テ、供給モ亦タ毎戸製造ヲ以テ十分ナリトセリ。是ヲ第一ノ工業時代トス。

織物ノ需用ハ廣マリ、獨リ內地ノ注文增加スルノミナラズ、亦外國ノ販路サヘ開ラケタリ。今ハ自家ノ手間仕事ハ以テ需用ニ應ズルニ足ラズ、一手ニ何千反何萬反ノ注文引受ケバ毎戸製造ノ堪フル所ニアラザルニ至レリ。マサニ如何カ之ヲ處セザルベカラズ。其ノ方法ハ求メラレ遂ニ案出セラレタリ。乃チ有力ナル製造人ハ十人若クハ二十人相團結シテ組合ヲ組織セリ同業組合製造ノ法初メテ成ル。十人乃至二十人ノ組合ハ、百臺乃至二百臺ノ機ヲ備ヘ、同一ノ原料選バレ、一定ノ縞柄立チ、同一ノ色染トナリ、一定ノ形ハ印セラル。卽チ各戸相分レテ製造セシモノ一種ノ物品ニ纏メラレ、組合ノ製造品ハ一定ノ品柄ヲ以テ內外ノ需用ニ應ズルニ至レリ。是レヲ第二ノ工業時代トス。需用ハ倍々增殖シ來レリ。同業組合製造モ亦タ之ニ應ズルニ足ラザルニ至リヌ。加フルニ製造人自己ノ資本ヲ以テ繼續シ來リシモノ、今ハ是レノミニテハ不足ヲ感ズルノ止ムヲ得ザルニ至レリ。新規ノ方法ハ求メラレタリ。卽チ信用ヲ以テ貴族若クハ富豪資本ヲ借リ來リ、彼等ト組合ヲ爲シ以テ事業ヲ擴張セリ。而シテ製造人ト資本家ノ合資會社ハ成リヌ。是レヲ第三ノ工業時代トス。

世ハ倍々進ミ人智ハ愈々開ケ蒸汽機關ハ發明セラレヌ。一面ニハ外國ニ於ケル織物ノ販路ハ倍々擴張シ行キ、歐洲大陸ハ言フマデモナク、亞米利加ニ輸出セラレ、亞細亞諸國ニマデ販路ヲ得、今ヤ織物ハ宇內ノ貿易品タル位置ニ進メリ。組合ノ製造以テ應ズルニ足ラザルナリ。蒸氣機關ハ玆ニ利用セラレタリ。株式會社ノ法ハ玆ニ備ハリヌ。是ニ於テ乎一日數千反又ハ數萬反ノ絹布ハ織リ出サルヽニ至レリ。是レ第四ノ工業時代ニシテ、以テ機械製造ト言フ今日ニ迄進歩シ來レルナリ。

英ノ織物沿革ハ斯クノ如クナリ。第一毎戸製造、第二同業組合、第三合資會社、第四株式會社ノ四段ニ進ミ來リ、今ヤ機械製造ノ全盛時代ナリ。機械製造ハ機械ヲ用テ織リ出スヲ以テ、人工ヲ要スル所太ダ寡クシテ、其ノ十分ノ一ニモ上ラザルナリ。而カシテ織出ス所ハ一定ノ種類一定ノ品質ニシテ、又外國ノ需用ガ如何ニ增進シ來ルモ、之レニ應ズルニ澁滯ヲ見ルコトナキナリ。

英ヲ去テ亞米利加ニ航シ、其ノ工業發達ノ跡ヲ觀察スルニ、其ノ成立全ク英國ト異ナルヲ見ルナリ。蓋シ米國ハ獨ホ新開ニ屬シ多ク英國ノ殖民セルモノナリ。英國ニ於テ機業ニ精キ者北米ノ地ニ移住シ、本國ノ資本家ト結托シテ米國ニ機場ヲ創ム。是レ實ニ米國機業ノ濫觴ナリ。而カシテ一方

ニハ其ノ需用增加シ、一方ニハ蒸氣機械發明セラレテ終ニ今日ノ盛大ヲ見ルニ至レリ。故ニ米國ハ毎戶製造ノ時代ハ既ニ本國ニ於テ經過シ、合資會社ノ時代ニ始マリ、直チニ株式會社ノ時代ニ進ミ來レルナリ。

今英米兩國ノ信用多少ヲ比較スルニ、英ハ毎戶製造ヨリ順序ヲ逐フテ進ミ宛モ地ニ生ズルモノノ如キナリ。而シテ米ハ新開國ニシテ英人ガ合資會社ノ製造方法ヲ輸シ來レルモノニカ、リ、殊ニ本國トハ遠ク隔リ、資本家ト製造家ト密接セザルヲ以テ、米ノ織物工業ノ基礎ハ英ノ如ク鞏固ナラズ。米國人ノ言フ所ニ據レバ、同國織物製造家ノ潰ルヽモノ、毎年總數ノ二割ニ及ベリト。英ハ之ト異ナリ、宇內ノ得意ヲ引受ケテ商賣シ、且ツ當業者ト資本家ノ結托實ニ固シ。資本家ハ製造家ノ失計忽チ自家財產ノ蕩盡ヲ來タスヲ以テ、製造家ヲシテ危險ヲ踏マシメズ。製造家モ亦タ資本家ノ出資ヲ得ザルトキハ、其ノ業ヲ繼續スルヲ得ザルヲ以テ、敢テ自カラ危險ヲ冒サズ、彼是互ニ相箝制シテ製造場ノ信用確實ナルヲ致ス、念フニ英ノ斯ノ點ニ就テハ恐ラク他ニ比類ナカラン。

## 日本機業者先ヅ同業組合法ニ依ルベシ

今ヤ我ガ桐生機業者ノ如キハ、一ノ時代ヨリ他ノ時代ヘ移ル過渡時代ニ立ツモノナリ。故ニ未ダ毎戶製造時代ヲ全ク脫セザル如キ所アリ。或ハ既ニ組合製造ノ時代ニ入レル如キ所アリ。或ハ其中間ニ立ツ折衷ノ時代ノ如キ所アリ。當業者ガ心中ニ畫スル所ノ前途ノ方針モ亦タ未ダ一定スルヲ得ズ。組合製造ニセンカ、毎戶製造ニセンカ、是レ其ノ惑フ所ナリ。而シテ或ハ一躍シテ株式會社ヲ組織セザルベカラズトスルモノ生ズルニ至レリ。嗚呼果シテ何レニ向テ變遷スベキカ。其ノ去就ハ實ニ織物ノ上ニ大影響ヲ來スコトヲ覺悟セザル可カラザルナリ。其步武ヲ誤リテ確實ナル方法ヲ定メ得ザランカ、獨リ產地ノ盛衰ニ關スルノミナラズ、國家經濟ノ盛衰ニ關スル事少ナカラズト思フナリ。

予ヲ以テ之ヲ見レバ毎戶製造ヨリ一躍直チニ株式會社ノ製造ニ移ルコトハ危險ノ業ニ非ラザルカヲ懼ルヽナリ。元來桐生ノ如キハ毎戶製造ニ依リ內地ノ需用ヲ充スガ爲ニ織物ノ發達ヲ來タセリ。而シテ外國ノ販路亦タ開ラケテ織物ノ需用ヲ增スコト非常ナルニ至リ、最早毎戶製造ヲ以テシテハ供給ニ堪ヘザルヲ示セリ。是ニ於テ乎借リ得ル程ノ資本ヲ運轉シテ橫濱若クハ米國ノ注文ヲ引受ケント企ツ、而カモ尙ホ充分ナラザルナリ。故ニ株式會社ノ企畫忽チ案出セラレシナリ。然ルニ株式會社ナルモノハ凡テノ事業株主ノ決議ニ基クモノニシテ、素人ノ株主モ亦タ喙ヲ事業ニ容ルヽヲ得ルモノナリ。夫レ實業ハ素人ノ容喙ニ遭フテ其發達ヲ見ルモノ稀ナリ。素人ノ株主ヲ會シテ織物ヲ計畫セシム、是レ策ノ得タルモノニアラザルナラズシテ英國工業ノ經過ニ則トリ、先ヅ組合組織ヲ完フスルニ在リ。例ヘバ米國ヨリ絹織ノ注文至

ルトキハ組合ニ於テ之ヲ引受ケ、組合ノ人々ハ其所有ノ機場ニ於テ、經緯共ニ同一種類ノ絲ヲ用キ練リ方モ一定シ、又共ニ「一ヤード」何匁ノ重サニ織リ立ルト云フ如キ規約ヲ結ビ、尚ホ例ヘバ縞織ハ何レノ組合、紋織ハ誰々ノ組合ト云フ如ク、豫メ其ノ分擔ヲ定メ、凡ソ注文ハ同業組合ニ引受ケ製造ハ各製造人ニ分配シ、各自ノ財力ト技倆トニ應ジテ之ヲ製出スルニ在リ。而カシテ織物既ニ製出セラレ、之ヲ海外ニ輸出スルヤ、產地ノ印紙ヲ附シ彼レヲシテ其ノ製造元ヲ知ラシメ、歲ヲ經ルモ其ノ種類品質ヲ粗雜ニセザルベシ、誠ニ斯ノ如クナラバ幾十萬反ノ注文モ同業組合ノ一手ニ引受ケ得、幾百萬圓ノ金圓モ同業者ニ收メ得ベキナリ。否ラズシテ每戶製造ノ法ニ據リ、稍々其ノ規模ヲ擴スルノミニシテ米國ナドノ注文ヲ引受ケントス、是レ赤手江河ヲ支フルト同ジク、大勢ニ當ル所以ニアラザルナリ。然ラバ則チ一躍シテ株式會社ヲ設ケンカ、素人ナル株主ニ掣肘セラレ、製造家ノ志ヲ伸バス事能ハザルベキナリ。

## 海外ニ於ケル絹物需用ノ現況

人或ハ云ハン、現ニ何處ノ誰某ハ橫濱ノ外國商人ト幾十萬圓ノ取引ヲ爲シ居ルニアラズヤ、又何某ハ充分ナル機場ヲ有シ、外國ノ注文ヲ一手ニ引受ケ居ルニアラズヤ、易ンゾ組合ヲ要セン、從來ノ每戶製造ノ法ヲ擴張セルモノニテ可ナルヲ證セルニアラズヤト

然リ外國ノ販路ヲシテ今日ノ現況ニ止マラシメバ實ニ然ルベシ。然レドモ世界ノ大勢ハ現況ニ止マラザルヲ如何セン。誠ニ我ガ對岸ナル米國ニ就テ之ヲ視ヨ、其ノ絹物ヲ需用スルノ莫大ナル實ニ想像シ能ハザル程ナリ。昨明治二十六年ニ我ガ國ヨリ米國ニ向テ輸出セル絹物ハ原價八百四十二萬餘圓ニ過ギズ。然ルニ米國ニ於ケル絹物ノ消費ハ一千八百八十七年ニ於テ一億二千萬圓ト算セリ。是レ七年以前ノ統計ノミ、想フニ今日ハ既ニ二億萬圓以上ニ達スルナラン。斯ノ巨額中僅カ八百餘萬圓ノミ、我ガ進步ノ現況ニ止マルベカラザル昭々トシテ明カナラズヤ。猶ホ西曆一千八百八十一年ヨリ一千八百八十七年ニ至ル七年間、佛米兩國ニ於ケル絹織物需用金額ノ一ケ年平均ヲ調査セシニ佛國ハ一億四千萬圓ニ當レリ。且ツ一千八百九十年、卽チ今年ヨリ四年前ニ於ケル米國機場ノ景況ヲ察スルニ、絹織工場五百二十四ケ所、同資本金六千百四十六萬餘圓（是金貨ナリ）之ヲ銀貨ニ換算スレバ一億二千萬圓以上トナル）、同職工人數五萬二千六百五十八人職員職工給料二千〇六十九萬餘圓（銀貨四千萬圓以上）ナリトス。絹物ノ需用モ亦タ莫大ナラズヤ。

歐米ニ於ケル絹物消費ハ何ヲ以テ斯ノ如ク多額ナル、他ナシ絹物ハ今ヤ其ノ必要品トナリタレバナリ。今ヲ去ル百年以前迄ハ、歐米ニ於テモ絹物ハ奢侈品ニ屬シタリキ。贅澤物ノ一ナリキ。其ノ殖產工業ノ發達スルヤ、隨テ國家ノ財力ヲ增加シ、人民ノ財本モ繁殖セリ。懷煖カナレバ贅澤心ヲ

發ス、是レ人情ノ常ナリ。故ニ人民生計ノ度大ニ進ミ、今日マデ絹物ヲ着ケザルモノ之ヲ着クルニ至リ贅澤品タリシ絹物ハ竟ニ必要品ニ變ズルニ至レルナリ。而カシテ絹物ハ今日和蘭若クハ伊太利ノ專賣品ニアラズシテ、宇内各國ノ商品トナルニ至レリ。故ニ日本產ニセヨ、支那產ニセヨ、價ヒノ廉ナルモノ大ニ勢力ヲ得、製造費ノ廉ナル所ノ國產ガ到底絹織物市場ヲ壟斷シ專有スル大勢ナリ抑モ日本ノ羽二重及ビ甲斐絹ノ廉價ナル宇内其ノ比ヲ見ズ。故ニ歐洲、米國、至ル處勢力ヲ得ルナリ。蓋シ日本ト歐米トハ生計ノ程度懸隔セリ、故ニ縱令米人ニシテ、此絹織物ヲ製造シテ我日本人ト競爭セント欲スルモ、到底能ハザルナリ。夫レ斯クノ如キ現況ナリ、絹織物ハ既ニ必要品トナレリ。一タビ必要品トナル、之レヲ廢止スルコト太ダ難シ。去ラバ本邦製ニシテ其ノ需用ノ倍々增加スルコト疑フベカラズ。且ツ之レニ應ジテ如何ニ絹織ヲ發達セシムルモ、其ノ需用ノ途ヲ壅塞スル憂ヒハ今日ニ看出サレザルナリ。去ラバ彼ノ每戶製造者ナルモノモ、今ニ於テ進一步スベキニアラズヤ、是レ最大急務タルナリ。

## 日本絹布ハ如何ナル目的ニ於テ使用セラル、カ

日本ノ羽二重及甲斐絹ハ、歐米ニ於テ如何ニ使用セラル、カ、是レ製造者ガ是非トモ知ラザルベカラザルコトナリ。如何ニ「ジヤカード」機ヲ用キ、西洋ノ改良染ヲ學ビ粗製濫造ヲ防ギ、同業組合ヲ組織シ、產地全體ニ於テ外國ノ注文ヲ引受ケント欲スルモ、其絹物ニシテ如何ニ用キラルヽカヲ知ラザルトキハ、適當ナル產品ヲ出スコト能ハザルナリ。然ルニ當業者ハ製造ニ汲々タルモ、需用ノ情狀ニハ頗ル迂ナリ。當業者ニシテ自ラ彼國ニ行クモノ少ナケレバ。彼ノ實際ヲ知ルモノ頗ル少ナキガ如シ。予ガ彼ノ國ニ於テ見聞スル所ヲ以テスレバ、絹織物ハ贅澤品ヨリシテ必要品ト爲ルニ隨ヒ、日本ノ羽二重又ハ甲斐絹ハ專ラ上等社會ト中等社會トノ間ニ於テ需用セラル。上等社會ノ婦人ハ、佛伊英米ニ於テ製出セラル、綺絹麗帛ヲ上衣ニ、其ノ下ニ日本ノ羽二重又ハ甲斐絹ヲ着ルナリ。彼國ノ婦人ハ長裾ヲ着ク、故ニ下ニ綿服ヲ着クルトキハ止趨ニ便ナラズ。且ツ絹ノ上衣ト綿ノ下着トハ其ノ重ネ工合好カラザルナリ。若シ綿布ト同ジキ廉價ヲ以テ購ヒ得ル絹綿アラバ、誰レカ之ヲ拜バザラン。日本ノ羽二重又ハ甲斐絹ハ此ノ點ニ於テ所謂誂へ向キナリトス。之レヲ下ニ着クルトキハ上衣ト下裳トノ落附キ好キノミナラズ、步趨太タ便ナリトス。是レ羽二重又ハ甲斐絹ノ重ナル需用ナリ。次ニ男女ノ服裏又ハ袖裏等ニ用フ、加之上流社會ノ婦人ノ室內着卽チ日本ノ寢衣ニ相當スルモノ、又ハ避暑地ノ裳衣ニ用キルガ如シ。去リナガラ此ノ上衣ハ多クハ縞又ハ形附ノ絹物ヲ用キルモノナリ。故ニ上流社會ノ婦人ハ日本ノ絹ヲ以テ室外ノ衣裳ニ用キルモノ實ニ鮮ナカリキ。然ルニ近頃橫濱ヨリ注文スル絹物ノ見本ヲ觀、又曩日桐生足利ノ機場ヲ一覽セシニ、從來上流社會ノ婦人ノ下着ニ用キラレシモノ、漸ク上衣ニ用キラレントスル傾向アルヲ發見セリ。曩日予ガ足利ニ

於テ一見シタル絹織物ハ、華盛頓又ハ新約克ニ於テ、夜會或ハ晩餐ノ席ニ衣ル所ノ織物ナリト認定スル品アリキ。斯クノ如ク日本ノ織物ハ下着ヨリ上衣ニ進歩シ居レリ、羽二重甲斐絹ノ類ガ彼國上流婦人ノ上衣ニマデ進歩スルニ於テハ、米國婦人ノ衣服ハ上下共ニ我ガ機業者ノ手ニ成ルト云フモ可ナリ。是ニ至テ日本織物ノ販路ハ將來如何ニ擴張セラルヽカ豫測ス可カラザル程ナリ、日本絹織物ノ前途モ亦タ多望ナルカナ。

實ハ予モ絹織物ニ就テ多年注視シタリキ。近來歐米ニ於ケル絹物ノ需用漸ク增加シ來ルヤ、窃ニ其將來ヲ慮ル所アリ、彼ノ國ニ向テ其ノ情狀ヲ問合セリ。抑モ我ガ日本ニ於テハ一度調ヘタル衣裳ハ永ク之レヲ保存シ、祖母嫁時ノ新衣孫女新嫁ノ服ニ讓ラレ、阿母ノ嫁衣ハ榮譽トシテ女ノ嫁時筐中ニ納メラルヽト雖ドモ、彼ノ國ニ在リテハ大ニ之ニ異ナルナリ。一衣千金ヲ懸ケ、一裳二千金ヲ投ズルモ、其ノ用ハ久シカラザルナリ。斯ノ保存スルヤ否ハ日本絹織ノ上ニ於テ最モ攻究スベキ所ナリトス。予ハ此事ニ關シ窃ニ彼國上流ノ婦人ニ質セル事アリキ。然ルニ英米ノ上流婦人ガ幾千金ヲ投ジテ得タル夜會ノ鮮衣モ、一ケ年ノ交際期ニ於テ三回之ヲ衣ルニ過ギザルナリ。卽チ同ジ衣裳ヲ三タビ着クレバ衣服ノ壽命ニ於テハ最モ長キモノタルナリ。彼ノ國ノ諺ニ始終同一ノ服ヲ衣テ交際社會ニ出ヅル婦人ヲ稱シテ「ブリーウ、レイデイ」(青色婦人)ト曰フ、蓋シ青天ハ往ク處トシテ同一色ナラザルナキヲ謂フナリ。斯クノ如キ綽號ヲ附セラルヽハ、是レ上流社會ノ嫌フ所ニシテ、婦人ガ其夫ヲ要シテ常ニ新衣ヲ調フル所以モ、亦タ彼ノ汚名ヲ免カレンガ爲メノミ。絹帛ノ彼ノ上流社會ニ需用セラルヽ殆ンド湯水ニ齊シク、其需用ノ區域誠ニ廣大ナリ。

新衣ノ其ノ用ヲ經タルモノハ如何ニ成リ行クカ、或ハ之ヲ侍女ニ或ハ整衣化粧ノ手傳ヒヲ爲ス家婢ニ附與スルヲ例トス。侍女家婢輩ハ新衣ヲ調フルノ資ナキヲ以テ、惠與セラレタル衣服ヲ裁縫師ニ附シ彼是取換ヘテ更メ仕立テ或ハ新規ノ絹切レヲ補足シテ仕立シメテ衣ヲ着ル。其ノ侍女家婢輩ニ附與セザルモノハ之ヲ古着商ニ賣ルナリ。古着商ハ之ヲ劇場ノ衣裳方ニ賣ルヲ以テ、概シテ女俳優ノ着衣トナリ、都市ノ女俳優ヨリ田舍ノ女俳優ニ移リ、竟ニ眞ノ古着トナリ、若クハ屑物トナリテ終ルナリ。日本ノ之ヲ子孫ニ傳ヘテ保存スルトハ遙ニ其風ヲ異ニセルナリ。彼女等ハ實ニ豫想外ノ贅澤ヲナセリ。其ノ贅澤ノ織物ハ卽チ機業家ノ製出スル所、我ガ機業家ニシテ勉メテ懈ラズンバ、其ノ需用ノ擴張セラルヽハ毫モ疑ヒヲ存セザルナリ。

中等社會ノ婦人ニ至テハ多少異ナル所アルナリ。彼女等ハ絹綿ノ下着ハ其ノ財力ヲ耐ヘ得ザル所ナリ。故ニ綿衣ノ下着ニ綿帛ノ上衣ヲ着ク、我ガ國ノ機場ニ於テ織リ出ス紋織羽二重、若クハ種々ノ縞甲斐絹ハ以テ中等婦人ノ上衣ヲ製スルナリ。卽チ安息日ニ會堂ヘ赴ク時公園ヲ散歩スル時親類等ニ招カレテ賓客トナル時、纏フ所ノ晴レ着ナリ

日本絹「ヘンカチーフ」ハ上流社會ノ婦人ハ夜會又ハ晩餐ニハ用キザルナリ。彼等ハ斯ル場合ニ

ハ專ラ「レース、ヘンカチーフ」ヲ用フ。但シ其ノ日常ノ用ニハ男女共ニ日本絹「ヘンカチーフ」ヲモ用キルナリ。日本ノ羽二重又ハ甲斐絹ノ「ヘンカチーフ」或ハ頸巻ハ、多ク中等人ノ用キルモノナリ。下給ノ官吏、會社ノ事務員、學校ノ女教師、若クハ中等社會ノ妻娘等ノ需用品タルナリ。去レバ此ノ織物販路ノ擴張何ノ邊マデ至ルベキカ實ニ將來多望ナル織物ナリトス。

以上ハ卽チ絹織物製造家ノ事業上ヨリ是非共明ラカニセザルベカラザル所ノモノナリ。我ガ國ノ機業者ニシテ彼ノ國上流社會ニ需用セラルヽ絹物ヲ製造セント欲セバ、先ヅ第一ニ覺悟セザルベカラザルコトアリ。品柄極メテ善ク二代モ三代モ衣ラレ、二年セ三年モ保テル品ヨリモ、寧ロ高尙ナル縞柄高尙ナル色合、高尙ナル意匠、卽チ高尙ナル織物ヲ製出スルト云フ點ニ着眼セザルベカラザルナリ。唯徒ラニ價ヲ廉ニスレバ足ルト思フハ決シテ適當ノコトニアラザルナリ。

彼女等ハ長ク同一ノ衣服ヲ纏フニアラズ、彼女等ハ長クモ三タビ衣レバ之ヲ棄ツルナリ。上流社會ニ於テハ單ニ交際社會ニ於テ『誰某夫人ハ今回新タニ日本ヨリ輸入シ來レル新奇ノ縞絹ヲ衣タリ』ナド譽メラレ、又新聞紙ニ於テ『某孃ノ纏フ所極メテ鮮麗ナル日本絹ナリキ』ト評セラレンコト、彼女等ノ最大目的ニシテ、其ノ調達費ノ如キハ彼女等ノ顧ル所ニアラザルナリ。上流社會需用ノ絹物ヲ製造スル人ハ此ノ情ヲ諒セザルベカラザルナリ。

裏絹ニ就テハ縱令短日月ノ間、纏フ所ノ上等社會ノモノト雖トモ、丈夫ナル物ヲ製出スルコトヲ務メザルベカラズ。蓋シ歐米ニ於テハ着衣ノ裏ノ緋縅、若クハ破綻セル程、卑下セラルヽモノアラズ。斯クノ如キモノヲ着セルハ婦女ノ嗜ミ惡シキモノトセラルヽナリ。男子モ亦タ然リトス。故ニ裏絹ハ縞若クハ色ノ高尙ナルト與ニ破レザルベク製造セザル可カラザルナリ。

機業者ハ其ノ織物ガ彼國ニ至リテ如何ニ使用セラルヽカヲ諒知セザルベカラズ。之ヲ知ラズシテ徒ラニ改良々々ト叫ブ、其ノ效ナキヤ知ルベキノミ。機業者ハ絹ヲ織ルニ方リ、先ヅ第一ニ其ノ織物ハ上流社會ノ需用ナルカ、將タ中等社會ノ需用ナルカ、上衣カ裏絹カヲ詳ニシ、而カシテ其ノ用途ニ應ジテ適當ノ品ヲ製出スベシ。是レ萬全ノ良策ナリ、然ラズンバ殆ンド暗夜若クハ的ナクシテ發砲スルニ類センノミ。

## 海外ニ於ケル絹布需要ノ季節

日本絹ハ一歲中、何ケ月ニ於テ專ラ需用セラルヽカヲ知ル亦緊要ノ事タリ。米國ニ於テ日本ノ羽二重若クハ甲斐絹ノ着物ヲ見掛クルニ、專ラ四月頃ヨリ十月頃マデナリトス。上流社會ノ婦人ハ冬ハ日本ノ羽二重又ハ甲斐絹ヨリモ一層厚クシテ暖カナル物ヲ着ク、羽二重又ハ甲斐絹ハ實ニ肌觸リ好ク、且ツ薄クシテ輕キヲ以テ、時候ノ溫暖ニ赴クト共ニ、厚キ衣服ヲ脫シテ日本絹ヲ衣ルナリ。斯ノ時ヲ以テ日本絹ノ需用最多ノ時ナリトス。故ニ寒季五ケ月ヲ除キ、殘餘四月乃至十月ノ七ケ月

間ヲ以テ羽二重及甲斐絹需用最盛ノ時ナリトス。

## 日本絹ハ重モニ如何ナル土地ニ需用セラル、カ

茲ニ又タ一問題アリ、何レノ土地ニ販賣店ヲ開ラク可キカ、卽チ此ノ絹ハ何處ニ需用セラレ居ルカト云フコト是レナリ、今米國ニ於テ新約克ヲ中心トシテ日本絹ノ販路ヲ觀察スルニ、其ノ北部ニ輸セラルヽモノヨリモ南方ニ送ラルヽモノ頗ル多シ。予ガ斯ノ事ニ關スル判斷ヲ確カメント欲シ、之ヲ曾テ該地ニ在留シ絹物販賣ノ實際ニ通ゼル堀越善重郎氏ニ諮問セリ。果シテ予ノ觀ル所ニ差ハザリキ。曩ニ桐生ニ於テ一會社ヲ組織シ、店ヲ米國ニ開キ、甲斐絹及羽二重ヲ直輸出セント企ツルノ人アリ。英領加奈太ノ「モンツレヲール」ト云フ北部ノ市街ニ店ヲ開クコトニ決シ、既ニ人ヲ彼ノ地ニ派遣セリト。予ハ之ヲ聞テ其事業ノ成功ヲ危ムモノナリ。夫レ加奈太ノ北部ニ於テハ一歲中輕涼ノ服ヲ纏フモノハ僅々三ケ月乃至四ケ月ニ過ギズ。斯ノ土地ニ向テ日本羽二重及甲斐絹ノ賣捌店ヲ開ク、是レ恰モ北海道ニ薩摩上布ノ賣捌店ヲ開クニ類セズヤ。商品ニ就テハ先ヅ何ノ處ニ向テ販グモノナルカヲ考究セザルベカラザルナリ。

## 彼ノ國ノ時好ニ注意スベキ事

日本ノ羽二重及甲斐絹ハ大ニ進歩セリ。既ニ彼ノ國ノ必要品トナリ、又上衣ノ料トナルニ至レリ。然ラバ則チ最早此絹物ハ彼ノ國ノ時好卽チ流行ニ伴ヒ行フベキモノタルヲ覺悟セザルベカラザルナリ。當業者ハ意匠ヲ盡シテ縞ヲ立テ染メザルベカラズ。若シ彼ノ國ノ流行ニ後クレンカ、如何ニ立派ナル製品ヲ出シ、如何ニ精巧ナル紋織ヲ製出スルモ、之レヲ需用スルモノハアラザルナリ。歐米需用地ノ流行ニ適スルヤ否ヤハ、機業者ガ深ク考察ヲ費スベキ所ナリ。米ト云ヒ、歐ト云ヒ、其流行ハ春夏秋冬ノ季節毎ニ更マル、卽チ一歲中四回變遷スルナリ、今歲流行ノ色柄ハ來年流行スルモノニアラズ。斯ノ時好ニ伴フガ爲メニ、佛國ニハ「ラ、モード」ト名クル流行雜誌アリ。今年ノ流行斯クノ如クナラント報ズ。米國ニモ「フアシユン、マガジーン」ト言ヘル如キ雜誌アリ、染色、模樣、又ハ縞柄等ノ事項ヲ記シテ、工業者ノ參考ニ供スルナリ。是ヲ以テ英獨佛若クハ米國ニ於テハ、一方ニハ流行雜誌ヲ讀ミ、一方ニハ自己ノ腦髓ヲ以テ意匠ヲ作リ、以テ絹物ヲ製造スルナリ。我ガ絹織產地ニシテ佛ノ「ラ、モード」米ノ「フアシユン、マガジーン」ヲ讀ムモノ果シテ幾バクカアル。是等流行雜誌ヲ讀マズシテ、縞ヲ立テ、色ヲ附ケ、外國ニ輸出スルハ、有用ノ財產ヲ徒ラニ蘆盡スルモノト何ゾ擇バン。凡ソ需用地ノ有樣ヲ知ラズシテ絹物ヲ製造スルハ黃金ヲ泥土ニ投ズルニ似タリ、幸ニシテ彼レノ需用ニ遭フ寧ロ僥倖ノミ。

## 人ヲ海外ニ派遣スベシ

我ガ國ニ於テ絹織物ノ製造ヲ充分擴張シ、海外ニ向テ大ニ輸出セント欲セバ第一需用ノ目的ヲ知リ、第二需用者ノ階級ヲ識リ第三需用ノ土地ヲ究メ第四需用ノ季節ヲ考ヘ、第五其ノ時好ヲ察スルコト最モ緊要ノ事タリ。此ノ五者ヲ知ル方法ハ如何、日本ノ新聞紙ニハ未ダ歐米ノ流行ハ記セザルナリ。工業學校モ之ヲ知ラザルナリ、府縣廳モ、農商務省モ之ヲ知ラザルナリ。然ラバ之ヲ如何セントスルカ、予ハ考フ、我ガ機業者自身親シク海外ノ機場若クハ呉服店ニ赴キ彼ノ國ノ縞、色又ハ模樣等ニ就キ、其流行ノ變遷等ヲ實地視察シ、若クハ其ノ子孫ヲシテ身ヲ投ジテ彼國ノ番頭又ハ使丁トナラシメ、實際ニ就テ研究スルコト七八年ナラズンバ到底之ヲ詳カニスルコト能ハザルヲ、誠ニ我ガ機業者ニシテ彼ノ國ヲ視察セバ必ラズ得ル所アラン。其ノ子孫ニシテ行テ研究セバ必ラズ其商機ヲ詳ラカニスルヲ得ン、我ガ機業者ニシテ志ヲ決シテ之ヲ實行センカ、産地ノ機屋ヨリシテ、一軒幾十錢ノ醵金ヲ爲シテ其ノ費ヲ辨ズルモ亦タ可ナラズヤ。其子孫ノ海外ニ行クモノ、彼ノ地ニ於テハ機場若クハ呉服問屋ノ雇人トナルベシ。是レ第一ノ良策ナリ。去リナガラ斯クノ如ク實行スルモ其效ヲ見ルニ至ルハ多少歲月ヲ要シ短カクモ五六年ノ後ニアラズンバ、適當ナル人物ハ得ラレザルナリ。堀越善重郎氏ハ、自ラ米國呉服問屋ノ番頭ト爲リテ、實地ノ經驗ヲ積メリ。彼レガ斯ク



決行シタルハ實ニ七年以前ニ在リ、我ガ産地ノ當業者ニシテ、今日斯ノ決行ヲ爲スニ於テハ、七年ノ後ニハ其ノ人物ヲ得ベシ。而カモ斯ル人物ナクンバ産地ニシテ絹織會社ヲ組織シ、機場ヲ改良シ又タ同業組合ヲ設クルモ其效ナク、斯ル人物ナクンバ我ガ本場ト稱スル機業家ノ技倆ヲ海外ニ顯ハシ、又其ノ名譽ヲ海外ニ博スルコト覺束ナケン。

去レド萬一ニモ、斯ル人ヲ出ダス能ハズトセンカ、他ニ窮策ナキニアラズ。「ラ、モード」又ハ「フエシユン、マガジーン」或ハ織物ニ關スル報告等ヲ得、人ヲシテ之ヲ飜譯セシメ、之ヲ讀テ之レヲ研究スルガ如キ是レナリ。然レドモ斯クノ如クニシテ眞ニ彼レノ實情ヲ悉クス能ハズ。實ニ隔靴搔痒ノ感ナクンバアラザルナリ。是レ誠ニ姑息ノ策ノミ、須ラク當業者自身行テ親シク視察シ、或ハ其子孫ヲシテ奮テ彼ノ國ノ機場或ハ呉服店ノ番頭又ハ使丁ト爲リ、以テ研究ノ功ヲ積マシムベキナリ。將來我ガ産地ニ於テ、幾千萬反ノ絹織物ヲ一手ニ引受ケ、今日ニ十倍セル若クハ二十倍セル機場ト爲サント欲セバ、今日ヨリシテ其ノ業ニ適當セル人物ヲ養成スルヲ要ス、是レ機業家ノ最大急務タリ。

人物既ニ養成セラレ、彼レノ商機ニ通ジ、當業者ノ意匠ハ以テ彼ノ國ノ時好ニ投ズルニ足リ。米佛英諸國ニ於ケル絹物ハ我ガ産地ニ引受ケ、卽チ一面ニ販路開ケ一面ニハ荷爲替ノ方法モ完備シ、當業者ノ織リ出セル絹物ハ、寸毫モ澁滯スルコトナク、需用地ニ流行スルニ至ラバ、我ガ絹織業ノ

爲メニハ實ニ滿足ナリ。

## 産出品ヲ齊一ニスベシ

予ハ更ニ一歩ヲ進メ、且ツ繰リ返ヘシテ論ゼザルベカラザルコトアリ。其ノ産地ノ製品ヲ齊一ニスル事是レナリ。我ガ當業者ニシテ縱令ヒ彼ノ國ニ赴キ、其ノ商機ヲ知リ、縞、色形等、時好ノ變遷ニ通ジ、需用地ノ區域、人種及ビ季節ノ如何ヲ悉クスト雖ドモ、其ノ生産ニシテ彼レノ需用ニ應ズル能ハズンバ蓋シ徒爲ノミ。例セバ米國ニ於ケル絹物需用ノ額ハ二億萬圓ナリ、其ノ内三千萬圓ノ絹物供給ヲ我ガ本場ノ機業者ニ托セン、機業者其レ之ニ應ジテ終歲間斷ナク製出シ得ルヤト問ハバ如何、予ハ其ノ能ハザルヲ察スルナリ。斯クノ如ク多額ノ需用ヲ引受ケント欲セバ、之ニ應ズル準備ヲ必要ナリトス。是レ前ニモ論ゼシ所ノ同業者團體ヲ必要トスル所以ナリ。卽チ同業者ガ一致團結シテ、産地ヲ一ノ團體トナシ、以テ外國輸出ニ從事スルヨリ善キハナシ、是ヲ外ニシテ良策アルベカラズ。今夫レ桐生ノ如キ産地ニシテ三五百ノ機業家ガ、各々一個ノ考案ヲ以テ此大事業ニ當ラントス眞ニ徒爲ノミ。

嗚呼予ヲシテ畫策ヲ爲サシメヨ、予ハ實ハ桐生、足利、伊勢崎等ヲ以テ關東絹製ノ根據トナシ、之ヲ中心トシテ同業者ノ大團結ヲ爲シ以テ歐米各國ノ大需用ニ當ラントスルガ如キ考案ヲ有スルモノナリ、(關西ハ京都ノ西陣ヲ其ノ根據トシテ別ニ精巧ナル錦絹ノ需用ニ應ズル考案アリ他日開陳スルノ期アルベシ)然レドモ其ノ實行ハ他日ヲ期スベクシテ今日先ヅ桐生足利各々其ノ産地ニ於ケル同業組合ヲ設ケ、米國ノ需用ニ當ル團結ヲ爲スヲ必要トスルナリ。斯ノ團結タル固ヨリ團結ノ爲メニ團結スルニアラズシテ、其ノ産品ヲ齊一ナラシメ、連帶シテ彼レニ當ルガ爲メニ團結スベキナリ。卽チ團體ノ各製造家ガ製出スル所ノモノハ、一定ノ縞柄、染色、模樣、及種類タルコトヲ必要トスルナリ。不齊一ノ物品歐米ニ於テハ擯斥セラレテ殆ンド需用ヲ得ザルニ至ルモノト覺悟セザルベカラザルナリ。

## 白地絹ニ加工スベシ

本邦産ノ羽二重又ハ甲斐絹ハ、白地ニテ米國ヘ輸出セラレ、其ノ米國商人ノ手ニ達スルヤ、彼レハ荷造リヲ解テ之ヲ檢査シ、例ヘバ是レハ何ノ形ヲ打ツベシ。彼レハ何ノ形ヲ附クベシト云フガ如ク、其ノ品質ヲ選ミ再ビ荷造リシテ、之ヲ佛國里昂ニ輸送シ種々ノ形ヲ打タセテ、再ビ米國ニ運ビ還ヘスナリ。夫レ米ヨリ佛ニ至ル、大西洋上三千里、輸シ去リ、輸シ來リテ始メテ需用者ノ手ニ屬グ、其ノ煩勞ト其ノ費用ト果シテ幾何。我ガ當業者ニシテ其團體等ノ準備ヲ成就シ、米國ノ時好ニ投ズル絹物ヲ製出シ得ルニ至リ。産地ニ於テ縞ヲ立テ之ヲ織ルカ、若クハ米國ノ注文ヲ受ケ、其

見本ニ依テ我ガ國ニ於テ形ヲ打ツニ至ラバ如何。米人ガ大西洋ノ波濤ヲ越テ之ヲ三千里外ノ佛國ニ携ヘ去ルノ煩勞ヲ免ル、ノミナラズ、又タ善ク佛國往返ノ費用ヲ省クヲ得ルナリ。然ラバ則チ需用者ハ廉價ニ絹ヲ購ヒ得、我ガ當業者モ亦タ彼レニ省ケルモノヲ懷中ニ收メ得ラルベシ。是ニ至テ彼我ノ利益勝テ言フベカラザルナリ。形ヲ附ケ所謂加工ヲ爲スニ豈ニ至難ナランヤ。里昂ノ氣候、里昂ノ水分學理ニ依リ我ガ産地ト比較セバ、我レ豈ニ遽ニ彼レガ下ニ出デンヤ、只彼レハ我レヨリモ化學的ノ作用ニ富ミ、又高尙ナル意匠ヲ有セン。去レド化學的作用ノ如キハ、念フニ技師ヲ聘セバ之ヲ爲スニ足ラン。我ガ氣候、我ガ水分等、里昂ト同一ナリト云ハバ、我ガ産地ニ於テ之ヲ織リ、之ヲ染メ之レニ形ヲ印シ、直チニ米國ノ需用ニ應ズベキナリ。誠ニ斯クノ如クナラバ彼レハ煩勞ナクシテ廉價ニ之ヲ購ヒ、我レハ多額ノ金ヲ收ムルノミナラズ、併セテ其ノ工藝ノ名譽ヲモ占メ得ベキナリ、當業者宜ク斯ル點ニ着目シテ彼ノ國ノ事情ヲ研究スベシ、其ノ手ヲ下スベキ事業ノ多キ、蓋シ驚クニ堪ヘザラン。

## 外商ト絹物取引ニ關スル現今ノ實況

夫レ我ガ機業者ハ將來多望ナル職業ヲ有セリ。我ガ國ノ爲メ無盡藏ノ富源ヲ所持セリト言フモ溢言ニアラズ。然ルニ現今ノ有樣ヲ觀ルトキハ實ニ嘆息ニ堪ヘザルモノアルナリ。今我ガ機業者ニ向テ問ハン、米國ニ向テ直輸出ヲ爲スカ、佛國ヨリ直チニ注文ヲ受クルカ、嗚呼其答ハ如何、竟ニ否ノ一語ヲ出デザルベシ、然ラバ則チ現ニ如何ナル方法ニ依リツツアルカ。

横濱ノ商人ハ先ヅ郵便若シクハ電信ヲ以テ機業者ヲ招ク、機業者至レバ斯ノ如キ地ニシテ斯クノ如キ品幾千匹ヲ織レト注文ス。機業者之ヲ了シ其ノ見本ヲ携ヘ歸リテ之ヲ織ル、而カモ機業者ハ、其ノ品ガ如何ナル需用ニ充テラルヽカ、婦人ノ服カ下衣カ上衣カ將タ男子洋服ノ裏カ敢テ知ラザルナリ。

我ガ織リタル品ガ需用地ニ達シタル後チ何物ニ使用セラルルカヲ知ラズ。需用者ノ好惡モ知ラズ其ノ品ガ何地ニ向テ輸セラルヽカサヘ知ラズシテ、只管改良ト叫ビ、直輸出ヲ論ズルモ、殆ド徒勞ニ屬シ、其ノ目的ヲ達セザルコト、木ニ緣テ魚ヲ求ムルノ愚ニ類センノミ。我ガ機業者タルモノハ外商ノ店頭ニ彼等ノ注文ヲ受クルコトヲ脫シ去リ、速カニ機業者ガ直チニ外國ニ赴キテ賣買ヲ爲スカ、然ラズンバ産地ニ居テ直接ニ外國ニ自製ノ見本ヲ送テ賣買スルニ至ラズンバ眞ノ利益ヲ得ルモノニアラザルナリ。生産地ト需用地トノ中間ニ幾多ノ人ヲ置キ、其レ等ノ手ヲ經レバ經ル程、賣價ヲ高カムルヲ以テ、我ガ機業者ガ如何ニ生産ニ改良ヲ加ヘ如何ニ廉價ニ生産スルモ、中間ナル外國仲買商ニ幾多ノ手數料ヲ收メラル、ヲ以テ、織物ノ彼ノ呉服商ノ店頭ニ飾ラル、ニ至ルマデ、幾バクノ高價ニ至ルカ知ルベカラザルナリ。米國ニ一呉服商アリ、初メ四千五百弗ノ資本ヲ以テ、僅

カニ九尺間口位ノ店ヲ開テ、絹物ノ小賣ニ從事セリ。斯ノ微々タル小賣商日本ノ羽二重及甲斐絹ヲ賣リ出スニ至リテ。大ニ利益ヲ占メ、九ケ年間ニ七十萬弗ノ財産ヲ造リ出スニ至レリ、中間商人ノ利益アル之ヲ觀テ知ルベシ。今日ハ彼レノ如ク巨利多益ヲ收メ能ハザルベシト雖ドモ、商家ノ言ニ據レバ猶ホ生産者ガ內地ニ於ケル商賈ヨリモ遙カニ利益多シト云フ。予ハ切言ス、我ガ機業者ハ速ニ中間幾多ノ手ヲ經由スルコトヲ脫セザルベカラズ。斯クナランコトヲ欲セバ、之ニ堪ヘザレバ收メ得ベキ利益ヲモ收メ得ベカラザルナリ。之ヲ以テ予ハ當業者ノ子孫ヲ彼ノ國ニ遣ハシテ、使丁トナリ番頭トナリ、又タ當業者自身モ、親シク彼ノ國ノ現況ヲ視察セヨト云フナリ。

予ハ桐生ニ至リテ、機場ヲ巡視シ、一機場ノ入口ニ『得意先ノ約束ニ依リ縱覽ヲ謝絕ス』ト云フガ如キ標札ヲ揭グルヲ發見セリ。蓋シ橫濱居留商人ガ機場ノ製造品ヲ悉ク一手ニ買ヒ、專ラ利益ヲ壟斷センガ爲メニ、斯クノ如キ約束ヲ爲スモノナリト推セラル。想フニ其ノ外商ハ本邦ニテ「ヤード」四十錢位ノ價ヲ以テ織物ヲ買ヒ、外國ニ於テ之ヲ二弗位ニ賣ルモノナラン。彼レハ或ハ他ノ外商來テ其ノ機場ヲ見斯クノ如キ織物ナラバ一「ヤード」一圓ヲ以テ買ヒ去ラント言ヒ出ルモノアラン事ヲ恐レ、縱覽禁止ノ契約ヲ爲スモノナリト察セラル、ナリ。夫レ斯クノ如シ。我ガ機業家ニシテ直輸出ノ途ヲ開カズンバ、當業者ハ人ニ愚ニセラレテ其ノ收ムベキ正當ナル金モ其ノ懷中ニ收メ得ザルナリ。



予ハ尙ホ絹物賣買ノ現況ニ就テ、歎息ニ堪ヘザルモノアリ。他ナシ我ガ機業者ハ橫濱ニ於テ絹物ヲ賣リ渡スニ斤目ヲ用ヰルコト是レナリ。絹ノ織物ノ一斤幾圓トシテ賣リ渡スモノ世界ノ何處ニカ在ル、是レ恐ラクハ我日本國ノミナルベシ。世界何ノ地カ幾多ノ人々ノ辛苦勞働ヲ經テ繭ヲ作リ、絲ヲ紡ギ、練リ、染メ、整理シテ織リ上ゲタル絹物ヲバ一斤幾バクトシテ賣リ渡ス國ノ存在スルモノアルベキヤ。之ヲ念ヘバ我ガ當業者ガ商賣上ニ損スル所ノ莫大ナル推察ニ勝ヘザルナリ。請フ試ニ考ヘヨ、我ガ機業者ガ意匠ヲ凝ラシテ、模樣ヲ織リ、縞柄ヲ立ツルニハ、幾バクノ腦髓ヲ費ヤストスルカ、然カシテ此ノ意匠慘憺ノ點ニハ、寸毫モ價値ヲ附スルナク、素地ト齊シク、一斤幾バクノ價ヲ附シ去ル是レ豈ニ默過スベキコトナランヤ。夫レ機業者ノ意匠ハ卽チ無形ノ財產ナリ、而カモ一文ノ價値ヲ附セズトハ奇怪モ亦タ太シカラズヤ。歐米ヲ觀ヨ、彼ノ絹織物ハ時好ニ投ズルモノ、最モ需用多シトス。故ニ各々競フテ意匠ヲ凝ラス、彼ノ國ニハ手ヲ機ニカケズ、手ヲ絹ニ觸レズ、單ニ意匠ヲ作ルノミヲ以テ生活シ、意匠家トシテ一家ヲ爲スモノアルニアラズヤ。然ルニ我ガ機業者ガ數十年來ノ經驗ヲ以テ得タル所ノ意匠、卽チ無形ノ財產ヲバ、一文ノ價値ニモ購ハレズトハ、遺憾モ亦タ極マレリ。何スレゾ斯クノ如クナル、畢竟當業者ガ彼レヲ知ラズ、又タ我ヲモ知ラザルニ座スルノミ。我ガ當業者ハ速カニ斯クノ如キ弊害ヲ除去スルヲ勉メザルベカラズ。嗚呼意匠ヲ凝ラセル絹織物ヲ素地ト齊シク賣買ス、我ガ機業者ノ織物商賣ニ於ケル、亦タ未ダ幼稚ナラズヤ。若

シ予ガ斯ノ言ヲ疑ハバ請フ去ツテ之ヲ新約克ノ市場ニ問ヘ。

## 團體利益ハ各個ノ利益ナリ

繰リ返シ々々々希望スル所ハ當業者一致團結シ、各々ガ拔ケ驅ケノ功名ヲ止メ、窃カニ西洋人ノ門ニ出入スルコトヲ廢シ、本場產地ト云フコトヲ忘レズ眼ヲ產地ノ名譽、產地ノ繁盛ニ着ケンコト是レナリ。產地ノ名譽、產地ノ繁盛ハ、卽チ當業者一個人ノ名譽、又タ當業者一個人ノ利益トナルナリ。外國貿易ハ一市ノ人民ヲ利シ、又タ一團體ヲ利スルノ目的ヲ以テ企テザルベカラズ。一團體ヲ利スルノ結果ハ卽チ自己ヲ利シ、併セテ他ヲ利シ延テ國ヲ利スルナリ。拔ケ驅ケハ團體ヲ利セザルノミナラズ、拔ケ驅ケ者自身モ亦タ到底利益ヲ得ザルナリ。何トナレバ拔ケ驅ケノ仕事ハ一時功名ヲ得、利益ヲ獲ベシト雖ドモ、一部ノ毀損ハ全體ヲ毀損シ、一二粗製濫造ノ爲メニ同業者全體ノ販路ヲ閉塞シ全體ノ閉塞ハ遂ニ拔ケ驅ケ者自身ノ閉塞ヲ來タスベケレバナリ。予ガ繰リ返シ一致團結ヲ勸告シ、同業全體ノ利益ヲ謀レト云フモ是レガ爲メナリ。

## 外國直輸出ノ利害

直輸出々々々、是レ我ガ國民ガ多年着手セント欲スル所ニシテ、又タ着手セザルベカラザル所ナリ。去レド直輸出ナルモノハ、其進行ノ途ニ幾多困難ノ横ハルモノナリト覺悟セザルベカラザルナリ。人ハ一考シテ直輸出ハ最モ利益アルモノノ如ク思フト雖モ、實際直輸出ニ從事スルトキハ其利益ノ收メ難キヲ如何セン。是レ從來實驗ノ證スル所、歷史ノ示ス所ナラズヤ。單ニ直輸出ト言ヘバ、中間ニ在ル仲買ノ手ヲ經ズ、直接ニ外國ニ於テ賣買スルカ、又ハ電信ヲ以テ注文ヲ受ケ、郵便ヲ以テ爲替金ヲ送附シ來ルガ如ク、最便至利ナルベク想像セラルヽモ、是レ皮相ノ考ニ過ギズ、請フ左ニ直輸出ノ困難ナル點ヲ擧ゲン。

第一　日本人ハ彼レト人種ヲ異ニセリ。日本人ハ蒙古人種ニシテ、歐米人ハ「コウカシヤン」人種ナリ。異人種間ニ於ケル商賣ハ同國人間ニ於ケル如ク信用セラレザルナリ。例ヘバ西洋人ガ桐生ニ赴キ商賣ヲ始ムルモ、桐生人ハ日本人ノ如クハ之ヲ信用セザルベシ。日本人ガ西洋人ヲ信用セザル如ク日本人ガ外國ニ行クモ、亦タ之ニ異ナラズ、同人種同國民間ニ商賣スルガ如クナラザルナリ。

第二　言語通ゼズ。言語通ゼザレバ、商賣ノ掛引、習慣、其他百般ノ事ニ不便ヲ感ズルコト、宛モ盲者、聾者、啞者ニ似タリ。

第三　商店ノ借料高シ。外國ニ於テ一商店ヲ借ルトキハ我ガ三十圓位ノモノ、彼レニ在テハ三百弗ヲ出サヾルベカラズ之ヲ銀貨ニ換算スルトキハ六百圓位ナリ。彼ノ借家料モ亦タ高カラ

ズヤ。

第四　生計ノ度高シ。我ガ三十圓ニテ足ル生活ハ、彼レニ在テ三百圓ノ生活費ヲ要ス。

第五　商業ノ慣習異ナリ。物品ノ受渡、賣掛代金ノ支拂爲替相場ノ差異、手形ノ書式、帳簿ノ記入方等都テ異ナレリ。

第六　金利ノ差違甚シ。日本ニ於テハ普通一割二分位ノ金利ナルモ米國新約克ニ於テハ五分、英吉利ニ至リテハ二分五厘ナリ。故ニ少シク金錢ノ支拂ヒヲ延期セラルヽトキハ、直ニ金利ノ點ニ於テ損失ヲ來タスナリ。

第七　海陸ノ危險ヲ犯サヾルベカラズ。海陸ノ運搬中ニハ風波ノ危險アリ、又毀損汚染ノ憂アリ、其ノ品ヲ完フシテ需用地ニ達スルコト能ハザルコト、往々ニシテアルナリ。

斯クノ如ク數多ノ困難ハ橫タハルナリ。當業者ノ子孫ニ立派ナル人物ガ養成セラレシトスルモ、尙ホ是レ等ノ不便ハ存在スルナリ。直輸出ト言フモ、忽チ金圓ノ舞フテ入ル如クナラザルナリ。若シ夫外國ニ商店ヲ開キ、不幸ニシテ一タビ失敗スル人アルモ、之ヲ繼續スルモノナシ。彼レ敗ルヽモ、我レ之ヲ成シ遂ゲント言フ人ハ、現今日本國ニ見出ダシ能ハザルナリ。內國ニ於テハ一人失敗スルモ之ヲ繼續スルモノアルモ、一萬里外ノ外國ニ先進者ノ失敗モ恐ルヽ所ナク、其ノ跡ヲ繼デ整理復舊スルコトヲ得ル人ハ中々得難カラン。故ニ直輸出ヲ企ツル人ハ、其ノ失敗ハ同業者進取ノ氣象



ヲ沮喪スルコトヲ鑑ミ愼重叮嚀ニ從事センコトヲ希望スルナリ。

直輸出ハ誠ニ困難ナリ、困難ナレバ其レダケ利益アルモノナリ。今直輸出ノ利益ヲ擧グレバ、

第一　中間ニ在ル仲買ノ手數料ヲ收メタリ、從來本邦ノ外國貿易ハ、中間ニ幾多ノ仲買アリテ非常ナル手數料ヲ收メタリ、直輸出ハ之ヲ減ズルコトヲ得。我ガ機業者ガ織出シタル絹物ハ原價ニ外國ニ賣リ出シ得ラルルナリ。

第二　外國ニ於ケル日本人ノ商店ニ日本品ヲ賣ルコトハ、人種ノ異ナル不便アルダケ、又一種ノ愛嬌アルナリ。例セバ日本ノ羽二重ヲ買フニ西洋人ノ店ヨリハ、寧ロ日本人ノ店ニ於テスルヲ喜ブ。是レ彼レノ人情トシテ然ルナリ。

第三　日本人ノ生活ハ西洋人ヨリ低度ナリ。故ニ外國商人ノ贅澤ナル生活費ニ當ルダルハ、商品ニ口錢ヲ掛ケザルモ可ナリ。從テ日本人ノ商品ハ廉價ニ賣買スルコトヲ得。

第四　內地ノ買ヒ出シ方ニ便宜多シ。西洋人ガ內地ニ入リ來リ、桐生又ハ足利ニ於テ絹物ヲ買ヒ出シテ本國ニ送ルヨリモ、產地ニ於テ同業者ヨリ買ヒ出スハ頗ル容易ナリ、且ツ頗ル廉價ニ頗ル利巧ニ買ヒ出シ得、此ノ點ハ如何ニ外人ガ奮發スルモ、我レニ優ル能ハザルナリ。

直輸出ハ損害モアレバ、又タ利益モアルナリ。明治ノ初年ヨリ今日ニ至ルマデ、直輸出ヲナシタルモノハ多クハ失敗ノ運命ヲ免カレザリキ。之ヲ免カレタルモノハ實ニ鮮シ。去レド同業者ノ固キ

團結成リ、充分ノ注文ヲ引受ケラル、整備成リ、善ク賣込ムノ人物養成セラレ居タランニハ豈ニ成シ遂ゲラレザルコトアランヤ。嗚呼直輸出其ノ順序方法ヲ得バ、決シテ難カラズト思フナリ。

## 事業ハ一定不變ヲ要ス

直輸出ニ關シテ、尚ホ一箇ノ注意スベキコトアリ。抑モ歐米ノ市場ニ於テハ一定不變ノ取引ヲ希望ス。故ニ假令ヒ綺麗ナル絹物ナリト雖モ、時ナラズ不意ニ來ルコトハ、彼レノ望マザル所ナリ。彼レノ希望ハ終始一定不動、宛モ源泉滾々トシテ息マザルガ如ク、一歳中間斷ナク、日本ノ絹物ガ同一ノ數量、同一ノ種類ヲ以テ同一ノ季節ニ來着スルニ在ルナリ。是ニ於テ彼レガ斯ノ希望ヲ滿タスニ足ルベキ鞏固ナル同業組合成ラバ、彼ノ國ニ於ケル販路ノ擴マリテ何ノ邊ニ至ルベキカ料ル可カラザルナリ。彼レ等ニハ需用多シ。然ルニ日本商人ノ欠點トシテ一時好評ノ商品アレバ皆ナ爭フテ其ノ品ヲ出シ、賣崩シテ貿易ノ發達ヲ害ス。少シク評判ヲ墮ストキハ、忽チ皆ナ手ヲ斂メテ、貿易ヲ繼續スルコト能ハザルコト、殆ンド潮ノ滿干ニ似タリ。是レ未ダ文明ノ商人ト稱スルニ足ラザルナリ。我ガ産地ノ同業組合ニ於テ、一定ノ品物ヲ織リ出シ、幾多ノ歳月ヲ經ルモ、粗製濫造ヲ出サズ。斯ノ地ノ人民ハ目前ノ利益ニ走ラズ、産地全體ノ利益及ビ名譽ヲ重ンズルモノナリト、我レ等ガ信用スルト同時ニ、歐米人モ亦タ信用スルニ至ラバ其ノ利益ノ莫大ナル、其事業ノ萬世不易ナル、固ヨリ論ヲ待タザルナリ。冀クハ國家ノ爲メ、産地ノ爲メ、鞏固ナル同業組合ヲ組織シ、歐米絹物ノ供給者トナリ、宇内ノ大得意ヲ得ンコトヲ。

## 漢堡ノ注文至ル

時機ハ日本絹物業者ヲ纏フテ至レリ。近頃獨逸國「ハンブルグ」日本名譽領事ハ、白地羽二重ヲ日本ヨリ直輸出センコトヲ請ヒ來レリ。「ハンブルグ」府ニ於テ、日本ノ白地羽二重ヲ輸入シ、之ヲ染メテ歐米各國ニ輸出シ、又佛國ヨリ輸入スル染地羽二重ト競爭セント企ツル、或ル有力ナル獨逸商會アリ。今回我ガ農商務省ニ依賴シ、我ガ日本ノ羽二重商業家ニ紹介セラレンコトヲ請フト云フ。我ガ機業家ニシテ、鞏固ナル同業組織既ニ成リ、我レ之ヲ引受ケント云フ團體ハ、直チニ彼ノ名譽領事ニ紹介セラルヽナリ。斯ノ獨逸商會ハ果シテ何レノ團體ヲ供給者ト定ムルカ、ソハ彼レノ判定ニ依ルコトナリト雖ドモ、兎ニ角獨逸ヨリシテ日本ニ白地羽二重ノ直輸出ヲ望ミ來リ、其直輸出入アラバ紹介ヲ乞ヒ、其ノ織物ハ横濱ニ出ダスト同時ニ代金ハ正金銀行ヨリシテ領收シ得ルノ途アルナリ。一歩モ海外ニ出デズシテ利益ヲ收ム。我ガ機業者ハ實ニ最好ノ業ヲ執ルモノト言テ可ナリ。

## 生産者請フ奮勵セヨ

縷々千萬言要ハ絹織物ノ前途有望ニシテ絹織物業者ガ現況ノ得失ヲ鑑ミ、大ニ其ノ歩ヲ進ムベキヲ痛言スルニ外ナラザルナリ。鳴呼我ガ絹物ノ生産地ハ、前途多望ナル時機ニ際會シアルナリ。幸運ナル地位ニ在ルナリ。生産者ニシテ彼レヲ知リ我レヲ知リ、熟計熟議鞏固ナル同業團體ヲ組織シテ適應ニ操業セバ、外國直輸出ハ彼等ノ手裡ニ在ルナリ。斯ノ如キ生産者ノ力ニ依テ、産地ノ繁榮ヲ助ケ、進ンデ國家ノ財源ヲ增殖センコト是レ予ガ一片ノ精神ナリ。



# 鹿兒島縣下糖業資金貸下願上申書ノ摘要

第一　鹿兒島縣下大島郡各島ハ氣候風土地味甘蔗栽培ニ必適ナル事。

第二　舊藩時代ニハ特別ノ保護ヲ加ヘアリシヨリ糖業盛大ナリシトノ事（當時ノ砂糖産額ハ二千萬斤）

第三　廢藩後保護ノ制解ケテ一時島民勞働ヲ怠リシニヨリ、遂ニ其資財ヲ破リ、糊口ノ道ヲ立ツルガ爲メ屢〻金圓貸下ヲ願出タルモ條理ヲ說テ受付ケザリシトノ事。

第四　鹿兒島縣支廳ハ嘗テ官吏ヲ各島ニ派遣シテ民情ヲ査察セシメタルニ、之ヲ放任ニ付スルトキハ到底自立ノ狀態ナキコトヲ認定シタル事。

第五　明治十八年ノ現況ニテハ舊藩時代ヨリ甘蔗畑千八、十六町餘砂糖九百三十八萬八千斤ヲ減ジタリトノ事。

第六　今若シ舊藩時代ノ如ク保護ヲ加フルトキハ糖業ノ衰退ヲ挽回スルノミナラズ、之ヲ增殖スベキ考按アルニ由リ、其土地ヲ調査セシメタリシニ、甘蔗畑ニ充ツベキ土地一萬三千百三十一町歩

餘アリ、舊藩時代最モ盛ナル時ハ五千三百九十六町ナレバ、殘餘ハ七千七百三十五町ナリ。故ニ舊藩時代ヨリ增加セシムルコト容易ナルベシトノ事。

第七　其後島民ヲシテ勸農申合規約ヲ作ラシメ品評會ヲ設ケ其競爭心ヲ惹起シタリトノ事。

第八　更ニ勸業委員其他糖業者ヲ集メテ改良ノ道ヲ說諭セシヲ以テ、島民互ニ申合セ反別ヲ定メ甘蔗ヲ增作スルコトニナリタル事。

第九　既ニ申合セハ整ヒタレドモ、不慮ノ災害アル時ハ次條ノ如キ負債多キ人民ナレバ、破產ノ懸念アリ、依テ特別保護ヲ加フルノ必要ナル望ヲ感ゼシ事。

第十　至急ニ保護ヲ要スル譯ハ島民ノ借財現時四十萬圓アリ其貸借方法ハ左ノ如シ。

甲　一金一錢五厘　第一年　砂糖一斤引當ノ借金
乙　一金八厘五毛　第二年　砂糖一斤ノ時價
丙　一金六厘五毛　第二年　砂糖一斤ニ對スル借金

斯ノ如クナレバ滿一ケ年間一錢五厘ニ對スル利子ハ六厘五毛トナルノ割合卽チ六割ナルベシ。假ニ四十萬圓ノ利子ヲ六割ト算スレバ二十四萬圓卽チ元利合セテ金六十四萬圓ノ借財トナル。之ヲ償却スルニ四百萬斤ノ砂糖ヲ以テシ、一斤ヲ三錢ニ賣却スルモノトスレバ一年十二萬圓ヲ償却シ得ベシ然レドモ唯々十二萬圓ヲ一年ニ償却スルノミナレバ三年目ニハ負債八十三萬二千圓四年目ニハ百拾三萬九千二百圓トナル、故ニ甘蔗ヲ作ルモノナキニ至リ甘蔗畑ハ荒蕪地ニ變ズベシトノ事。

第十一　今此生產ヲ促進スルハ主トシテ製糖器ヲ改良スルニ在リ。

(一)　改良絞車　甘蔗百斤ニ付歩留リ八斤　增一斤半
　　在來絞車　同　六斤半

此增一斤半ヲ全島總甘蔗莖二億萬斤ニ乘ズレバ三百萬斤ヲ增ス。

(二)　改良釜竝竈　糖漿一石五斗ニ付歩留リ六十八斤九合　增一斤七合
　　在來同　斷同　斷　六十七斤二合

此增一斤七合ヲ全島總糖漿二萬九千七百三十九石五斗ニ乘ズレバ三十三萬六千九百五十七斤ヲ增ス。

(一)(二)ノ二口改良益ヲ斤數ニ積レバ三百三十三萬六千九百五十七斤トナル。然レドモ未熟ナルヲ以テ假ニ十分ノ四ヲ減ズルモノトスルモ二百萬斤ヲ得ベク、此糖價三錢トスレバ六萬圓ヲ得ベシ。

全島六千六百〇七ノ改良製糖所ナレバ一ケ所ニ付九圓〇八錢一厘ノ利益トナル。

一金五萬九千九百九十八圓十六錢七厘　一ケ所九圓〇八錢一厘ノ利益六千六百〇七ケ所ノ計

五ケ年合計二十九萬九千九百九十圓八十三錢五厘

之ヲ用ヒテ器械代二十六萬四千二百八十圓（一ケ所四十圓六千六百〇七ケ所ノ計）ヲ償却スベシトノ事。

第十二　右各條ノ理由ナルヲ以テ今般金十五萬圓ヲ向六ケ年置据第七年目ヨリ向八ケ年無利子返納ノ定ヲ以テ鹿兒島縣ヘ御貸渡相成タシトノ事ナリ、但シ其資金運用竝返納法等ハ詳細ノ調査書アリ茲ニ之ヲ略ス。

# 横濱正金銀行營業困難ノ件

近來橫濱正金銀行ノ營業頗ル困難ニ至リ、當局者ノ憂慮一方ナラズ、頻リニ囘復救正ノ策ヲ講ズルト聞ク。夫レ正金銀行ノ資本金ハ現在四百五十萬圓積立金四百萬圓併セテ八百五十萬圓ノ富力ヲ有ス。實ニ盛大ト云ベク、然ルニ何ニガ故ニ斯ク困境ニ至リタルヤ、外觀上甚ダ疑訝ニ堪ヘザルナリ。因テ其內部ニ就キ實際ノ事實ヲ見聞スレバ、實ニ當局者ノ苦心無理ナラズ、誠ニ其理由アルナリ。如何トナレバ此大資本ヲ擧テ利益薄キ外國事業ノ一途ニ供スルヲ以テ、其資本ガ概シテ年五朱以下ノ働キヲナスコト是ナリ。然ルニ株ノ配當ハ年一割六分ヲ持續スルハ最モ困難ト云フベシ。抑正金銀行ガ十餘年來ノ繁盛ヲ持續シ來ルハ、當初未曾有ノ事業トシテ政府ノ誘掖保護至ラザルナク、最其外國事業ニ對シテ政府ヨリ特ニ無利息三百萬圓ノ資金ヲ預托セラレテ之レガ需用ヲ足シ、又政府御差加ヘ株ヘハ年六朱ニ限ル配當ノ優遇ヲ得ル等ニヨリ活潑ノ運動ヲ爲セシモ、爾來追々時世ノ變遷ニ從ヒ、政府財政ノ規律モ立サセラレ、前ノ保護恩惠ナルモノ漸々消滅ニ歸シ、今ハ其痕跡ヲダモ留メズ。然ルニ正金銀行條例其物ハ依然現存シテ少シモ政正ノ自由ヲ得セシメズ。是營業退歩ノ一大事實ナル事明ナリ。於是先年政府ヘ對シ外國運用ノ資トシテ日本銀行ヨリ資金借入ノ事ヲ懇

願シ利益ヲ補フノ策ヲ計リ、漸クニシテ日本銀行トノ約束ハ成リタルモ、是ニハ二朱ノ利子ヲ附スルト抵當ヲ要スルトノ規約アルニヨリ、敢テ幇助ノ大ナルモノニ非ズ。加之該約ハ日本銀行ノ都合ニヨリ何時之レヲ謝絶セラルヽヤモ難計、其時ニ於テ之レヲ拒ム權利ナク畢竟姑息ノ策ト云モ可ナリ。然ラバ則永久ノ計ヲナスハ如何セバ可ナランカ、先ヅ當局者ノ意見ヲ聞クニ左ノ考案ヲ抱持スルモノノ如シ。

一、宮内省御持株ヲ原價（一株百圓）ヲ以テ銀行ヘ御拂下ヲ願ヒ、株高ヲ減却スルカ、或ハ最初ノ例ニ復シ御持株ヘ對シ年六朱ニ限ル配當ヲ定ムル事ヲ請願セント云ニアリ。

又株主中ノ意見ニヨレバ本行創立ノ主義ヲ棄却シ、外國ニ係ル事業ハ一切廢止シ、普通私立銀行ノ資格ヲ以テ專ラ内地ノ事業取引ニ從事シ、自由ノ運動ヲ得バ年一割以上ノ利益ヲ得ルハ敢テ難キニアラズト云ノ類ナリ。

右ノ二案ハ何レモ相當ノ理由アル考案ニシテ我輩モ贊成ヲ表スル所ナレドモ、彼宮内省御持株御拂下ゲノ事及配當ニ歩合ヲ限ル事、何レモ今日ノ場合ニ於テ如何アランカ、容易ニ採許ヲ得ラレザルモノト推測ス。又外國事業廢棄ノ件ハ最モ止ヲ得ザル窮策ニシテ、十餘年來外國銀行ノ專横ヲ壓倒シタル功績ヲ一朝水泡ニ歸スルノミナラズ、今正金銀行ガ此取引ヲ廢止スレバ直ニ之ニ代ルモノナカル可カラズ。公私ノ財務上ニ一大影響ヲ及ボスベシ。然レドモ正金銀行ニテ此外國ノ營業ヲ廢



棄シ、試ニ日本銀行ニ於テ之ヲ負擔セラルヽモノトスレバ最モ便宜ニシテ、第一資金運轉ノ自由ヲ得、加ルニ年五朱前後ノ利子ヲ得ルモノトスレバ日本銀行ノ資財トシテハ十分ナル利益ト云ベク、況ンヤ事業ノ上ニ於テモ一層ノ擴張ヲ得ルハ論ヲ待タズト雖ドモ、夫レ中央銀行ノ性質ニ於テ銀行自ラ商業ニ手ヲ下ス事ヲ得ザルベク、又條例規律ノ上ニ於テモ之ヲ許サヾルベシ。

右ノ如ク正金銀行ハ外國營業ハ利益ノ薄キヨリ之ヲ廢セント云ハ至當ノ道理ニシテ、日本銀行ハ資格上之ヲ營ム可カラザルハ亦不得止ナリ。然ラバ則チ如何シテ此事業ヲ維持シ得ベキヤ。請フ試ニ我輩ガ愚案ヲ述ン。

一、元來正金銀行ガ此榮譽アル外國營業ヲ厭忌スルニ至リタルハ全ク利益ノ上ヨリ不得止事ナレバ政府ニ於テモ何トカ之レヲ幇助セラルヽモノト信ズ。依之其方法タルヤ幸ヒ日本銀行ト正金銀行トノ訂約ヲ擴張シ、改メテ日本銀行ヨリ一千萬圓ヲ出資セシメ、正金銀行ハ其資本中ヨリ三百萬圓ヲ向ケ、併セテ一千三百萬圓ヲ外國事業資トシ、其取扱ノ手續ハ舊ニ依リ正金銀行ニ委任シテ日本銀行之ヲ監理スルカ、又ハ正金銀行ノ名義ニヨリ日本銀行自ラ營務ニ當ルカ便宜ニ一任シ、又利益ノ如キモ各金高ニ應ジ配分スル事トスレバ双方ニ故障アラザルベシ。如斯ナレバ日本銀行ハ表面正金銀行ヘ向ケ貸金ヲナスモノニシテ規律ニモ觸レズ又商業干渉ノ嫌モナカルベシ。又正金銀行ハ資本ヲ擧テ薄利ナル事業ニ投ズレバコノ困難ナリトノ不平ヲ唱ルモ此資本ヲ割テ三百萬

圓ヲ外國資トナセバ外ニ五百萬圓ヲ餘スニ至ルベシ。左スレバ聊困難ナク其榮譽ヲモ永遠ニ保ツヲ得テ卽チ前ノ五百萬圓ノ資本ヲ移シテ內地ニ運用スルトセバ、相當ノ利益ヲ收ムルヲ得テ、如何樣ニモ從來ノ配當ヲ繼續スルニ至ルベシ。是一擧兩得ノ策ナラン。且又當局者考案ノ一ナル宮內省御持株御拂下ノ事、原價ヲ以テ請願スルハ少シク穩當ニアラザレ共、實價ヲ以テ御拂下ヲ願ヘバ採許ヲ得ル敢テ難キニ非ザルモノト信ズルナリ。然リ而シテ尙又一ノ希望アルハ抑モ正金銀行ハ當時未曾有ノ事業ヲ起シ公私ノ便益ヲ與ヘタル功績ハ衆目ノ視ル所ナレバ、政府ニ於テモ德義上成シ能フル保護ハ與ヘラレン事是ナリ。目下政府ニ於テ工業銀行設立ノ美擧アル事ヲ聞ク、現今ノ時態ニ於テ、一日モ設立ノ早カラン事ヲ望ム所ナレドモ、其成立ヲ得ルハ第一議會ノ協贊ヲ要シ、然ル後百般ノ準備ヲ整ヘ漸ク資本ノ募集ニ至ル等其設立ヲ見ルニ至ルハ幾多ノ日月ヲ費スヲ以テ頗ル遲漫ノ憾ナキ能ハズ。故ニ其設立ニ至ル迄政府ガ工業銀行ニ對スル所ノ保護條規ヲ正金銀行ニ付與シ、先ヅ正金銀行五百萬圓ノ資本ヲ利用シテ差向營業ヲ開始セシメバ、蓋シ勞ヲ費ス事少ナクシテ功ヲ見ルコト速ナラン。是獨リ正金銀行ノ爲メニ計ルノミナラズ、隨時變通ノ一策ナラン事ヲ信ズルヨリ、敢テ僭越ヲ不顧鄙見ノ儘ヲ吐露ス。若シ參考ノ榮ヲ賜ハバ幸甚ノ至リニ堪ヘザルナリ。



# 農蠶業改良ノ利益

## 農事改良ノ利益

（夏）

田反別二百七十萬町歩　ニ稻ノ木ヲ栽培スルモノトシ

此增穫米二百七十萬石

但シ撰種ノ效ニ由テ播種量ヲ減ジ苗床ノ構造ヲ改良シ以テ其生育ニ便ジ且ツ病蟲害ヲ驅除シ又揷秧及ビ施肥ノ適度ヲ得テ一反歩ニ付一斗ノ增穫ト見積リ本文ノ如シ

（作）

畑反別二百三十萬町歩　ニ甘蔗藍、麻、煙草、綿等ヲ栽培スルモノトシ

此增穫（米ニ換算以下準之）米七十六萬五千九百石

但シ一反歩ニ付三升三合三勺（田ノ三分ノ一）ノ增穫ト見積ル

（冬）

右田畑中二毛作ノ出來得ル反別ヲ二百五十萬町歩トシ之ニ大小裸麥及油菜等栽培スルモノトシ

農蠶業改良ノ利益

此增穫米五十萬石
但シ一反歩毎ニ米二升（稻作ノ五分ノ一）ト見積ル
計米三百九十六萬五千九百石
此價金（一石ニ付七圓ノ割）二千七百七十六萬一千三百圓
但本增穫計算ハ最モ少ナキニ見積リタルモノナリ
堆肥改良ノ利益
但從來ノ堆肥ハ風雨日光ニ曝露シ肥料成分ヲ流失飛散スルヲ以テ之ヲ改良防止セバ左ノ利益ヲ得ベシ
（作
金一千五百萬圓
但田畑反別五百萬ニ對シ夏冬兩作ニ係ル推肥一反歩毎ニ金三十錢ノ積算
總計金四千二百七十六萬一千三百圓
備考　右ハ農區ヲ設置シ、氣候ト植物ノ適否ヲ考ヘ、且ツ地質ヲ詳悉知了シ以テ懇切ニ農產業ノ隆興ヲ奬勵セバ容易ニ得ラルベキナリ。而シテ其資金ハ國庫支辨トシ創立費ヲ除キ經常費十數萬圓ニテ足レリ。尙ホ氣候ノ應用卽チ天氣ノ豫報及ビ警報ノ如キハ些少ノ金額ヲ以テ一般ノ農家ニ至大ノ利便ヲ與ヘ、又航海及ビ漁業者ヲシテ危險ヲ避ケシムル等ノ大效アリ。而シテ地質調査ノ結果ニヨリ地質ノ改良卽チ排水ヲ施スベキハ之ヲ施サシムルニ至ラバ未來ノ生產ハ蓋シ豫想外ノ大利ヲ惹起スベキヲ信ズ。

明治廿七年十一月十九日

自由黨政務調查委員

井上甚太郎

## 蠶絲業改良ノ利益

一、蠶種改良ノ利益

蠶繭十二萬一千四百五十三石

價金三百六十四萬三千五百九十圓（但シ一石三十圓ノ概算）

但シ　蠶種紙一枚卽チ百蛾放卵ノモノヲ飼育上少キニ見積リテ五升ノ增穫アルモノト假定シ蠶卵紙數近年ノ平均枚數二百四十二萬九千〇六十枚ニ乘ジタルモノニ係ル

二、飼育改良ノ利益

農蠶業改良ノ利益

絲量斤數五十四萬斤
價金三百五十萬圓

但シ　産繭一升ヨリ絲量七分二厘ノ增穫ト見積リ近年ノ平均繭産額百二十萬石ニ乘算セリ、尤モ從來繭一升ノ平均絲量ハ九匁七分八厘ナルヲ、將來飼育其宜キヲ得バ其絲量ノ增穫ハ多々ナルベキモ、今最モ少キニ見積リテ十匁五分トセシモノニ係ル。

三、製絲改良ノ利益

金三百九十三萬七千五百圓

但シ　生絲百斤ニ付五十圓ノ增價アリト見積リ、近年ノ平均生絲産額七百八十七萬五千斤ニ乘算セリ尤モ本文ノ利益ヲ得ルニハ生絲檢査所ヲ設置シ、又製絲家ヲ海外ニ派遣シテ生絲需要ノ實況ヲ知ラシムル等ヨリ得ルモノ也。

總計金一千一百〇八萬一千〇九十圓

明治廿七年十一月十九日

自由黨政務調査委員

井上甚太郎



# 農政意見

地質局長　和田維四郎

凡ソ何レノ國ヲ問ハズ、方數千里ノ地ヲ彊リ、人口數千萬ヲ有スルトキハ其國ノ政略農ヲ以テ基礎ト爲サヾルベカラズ。是以歐米ノ强國ヲ歷觀スルモ亦皆然ラザルハナシ。商工業ノ旺盛ナル英國ノ如シト雖モ國ノ基礎ハ又農ニ歸ス。我國ノ如キハ古來農ヲ以テ國ノ基礎トナシ國ヲ今日ニ維持シタルハ殆ンド農ノ力ナリ。維新以來商工ノ業漸ク盛大ニ至ルト雖モ農ノ我國ニ肝要ナルハ亦敢テ外國ノ比ニアラザルナリ。

是ヲ以テ維新以來上下心ヲ勸農ニ焦シ、之ガ爲メ農産其額ヲ增シタルコト最モ著シト謂フベシ。然レドモ亦徒勞ニ屬セシモノナキニ非ラザルガ如シ。今其勸業ノ事業ヲ二種ニ區別スベシ。

一、現在ノ耕地ニ就テ其耕鋤及播種栽培ノ方法ヲ改良シ、又不利ノ植物ニ換フルニ有利ノ植物ヲ以テシ、從前ニ比較スレバ其收獲及利益ヲ增加シタルモノ、桑茶等ノ類是ナリ。

二、從來未開荒蕪ノ原野ヲ開拓シテ耕地ノ境界ヲ廣メタルコト。

從來ノ經驗ニ由レバ第一種ニ屬スル勸農ハ能ク其目的ヲ達シタリト稱スベキカ。然レドモ第二種ニ屬スル勸農ハ其勞其資ニ對シテ果シテ能ク之ニ酬ユルノ結果ヲ得タリヤ否ヤ。

今我國ノ面積ト耕地トヲ比較スルニ、別表ニ示スガ如ク耕地ハ實ニ八分一ニ過ギズ。我國山岳ニ富ムト雖モ之ヲ彼ノ歐洲中山國ノ稱アル瑞西等ニ比シ、又內地ノ地形ヲ按ズルモ、我國耕地ノ境界ハ之ヲ擴張シテ必ズ現今ノ三倍ニ至ラシムルヲ得ベシ。今歐洲強國ノ耕地ヲ對照スルニ、其例英國ハ畑地全面積ノ三割、牧草地ヲ合スレバ五割七分、佛獨ハ各四割九分ノ廣袤ヲ有ス。而シテ其耕地ヲ農民一人ニ配割スレバ我國ハ一人ニ付三反六ヲ耕鋤シ、英國ハ畑牧草地各三町佛國ハ四町三反、獨逸ハ三町ニ當ル。是ヲ以テ之ヲ觀レバ我國ノ農業ハ狹隘ノ耕地ニ歐洲ニ比照シ十倍ノ民力ヲ要シ、而シテ耕地トナルベキ土地ノ四分ノ三ヲシテ空シク荒蕪ニ屬セシムルモノナリ。

今此農況ヲ識ルトキハ將來籌策スベキ我國農政ノ方針ハ自ラ明ナルガ如シ。卽チ一方ニ於テハ未開荒蕪ノ原野ヲ開拓シテ現今耕地ノ面積ニ倍蓰セシムル事ヲ勉メ、他ノ一方ニ於テハ耕鋤ノ方法ヲ改良シテ人力ヲ節シ、其剩餘ノ農夫ヲシテ倍蓰セシ耕地ニ就カシムルヲ計ラザルベカラズ。此二者ノ目的ヲ達セント欲セバ歐洲文明國ガ數十百年經驗シタル所ノ沿革ヲ鑑ミ、我國將來施行セントスル農政ノ標準ヲ定メザルベカラズ。然リト雖モ農民ハ全國人口中最モ多數ヲ占メ。其所有ニ屬スル土地モ亦全國ノ大半ヲ占ム。而シテ其智識ニ至テハ全國人民中最モ低度ニアルモノトス。故ニ遽ニ



歐洲ニ於テ現今目擊スル所ノ農況ニ就キ其標準ヲ得ント欲セバ、啻ニ其目的ヲ達スル能ハザルノミナラズ、却テ我國ノ農業ニ害アルヲ免カレザルベシ。今我國當時ノ農況卽チ耕地ノ組織耕鋤栽培ノ慣習及農民ノ智識等ヲ推考シテ之ヲ歐洲ニ比較スルトキハ、前世紀ノ農況ト相匹敵スベキ歟。是故ニ將來我國農政ノ改良ヲ計ラント欲セバ、歐洲ニ於テ如何ナル方策ヲ施シテ以テ今日ノ農況ニ達セシメタルカ、其沿革ヲ講究シ其利害ヲ稽考シ以テ我國ノ標準ヲ定メザルベカラズ。蓋シ歐洲ニ於テ百年若クハ百五十年ヲ要シタル發達ハ、我國ニ於テ勇進奬勵以テ其道ヲ勉ムルモ亦必ズ數十年ヲ要スルヲ期セザルベカラズ。今我國現在ノ農況ヲ熟察シテ歐洲ノ經驗セシ所ヲ酌量スルニ將來我農政ニ於テ務ムベキモノハ必ズ左ノ要項ニアルベシ。

## 一、正當ナル土地ノ排置法

土地所有ノ不同及其排置ノ如何ハ强國ノ基ニシテ國家ノ安危ニ關スルモノナリ。若シ土地悉ク富豪者ノ兼併スル所トナルトキハ國ノ亡滅ニ歸スルヤ識者ヲ俟タズシテ明ナリ。又貧農多數ヲ占ムルトキハ農業發達セズ、遂ニ其衰退ヲ極ムベシ。要スルニ豪中小農ノ數適當ノ比較ヲナシ、且全國ニ適當ニ排置セシムルコトハ內政ノ基礎ニシテ、農政上ニ於テ將來最モ戒嚴スベキモノトス。今我國將來ノ農政ニ於テ標準トナスベキモノヲ次項ニ擧グ。

一、貴族ノ基礎ハ鞏固ナル不動産ヲ所有スルニアリ。是レ忠良ナル政事社會、官吏、軍人等ヲ養成スルニ必ズ缺クベカラザルモノナリ。而シテ此不動産ハ土地ヲ以テ第一ト爲ス。貴族ガ廣濶ナル私領地ヲ構成スルハ國家ノ爲メ必用ナリトス。

二、然レドモ豪族ノ私領地大數ヲ占ムルトキハ反テ國患ヲ釀スハ現今歐洲ニ在テ目擊スル所ナリ。故ニ耕地ノ强半ハ之ヲ中小農ノ有トナサヾルベカラズ。然シテ小農ハ可及的少數ニ減ズルヲ勉ムベシ。

三、以上二項ヲ約言スレバ土地分配ニ於ケル中庸ノ比準ハ土地十分ノ三四ヲ貴族私領地トシ、六七分ヲ中小農ノ所有トナサシムルハ最モ適當ノ比準ニシテ希望スベキ所ナリ。

我國現今ノ耕地ハ人口稠密且都市ニ接近シ、最モ肥饒ナル地方トス。斯ノ如キ地方ハ歐洲ニ於テモ中小農ノ占有スル所タリ。是レ此ノ如キ地方ニ於テハ狹隘ナル耕地ヲ有スル農民ト雖モ其作業ヲ精密ニスルトキハ收益以テ家計ヲ爲スニ足ルガ故ナリ。之ニ反シ人口稀薄地味瘠惡且都市ニ遠隔セル耕地ハ豪族ノ占有スル所タリ、是レ經濟上自然ノ排置ナリ。我國將來希望スベキ所ノモノハ現今ノ耕地ハ之ヲ從來ノ所有者卽チ中小農ノ所有ニ歸シ、貴族及富豪者ノ土地ヲ以テ家產ノ基礎トナサント欲スルモノハ現今未開ニ屬スル原野荒蕪ノ地ヲ開拓シテ所謂豪族私領地ヲ構成スベシ。現今ノ原野ニ就テ小農之ガ開拓ニ從事スルモ其目的ヲ達スル事能ハザルハ內外ノ例證ニ於テ明ナリ。若シ現今ノ原野ヲ開拓シテ豪族私領地ヲ構成スルトキハ必ズ之ニ農夫ヲ要スルニ現今僅ニ數反歩ヲ所有スル貧農ハ經濟上之ヲ以テ永久ニ家計ヲ維持スル事能ハザレバ、此豪族私領地ニ雇使セラルヽニ至ルベシ。要スルニ現今ノ耕地ハ中小農ノ所有トシ、五六町以上ヲ所有スル者ノ多數ナランコトヲ務ムベシ。

## 二、原野處分

現今ノ原野及荒蕪地ヲ開拓シテ貴族私領地ヲ構成セシメント欲セバ所謂共同秣場ヲ廢止スルヲ以テ必要ナリトス。我國ノ原野廣シト雖トモ四近村落ノ共有秣場トナラザルモノハ殆ンド稀ナリ。元來此共有秣場ノ所有權ヲ論ズルニ、共有村落ノ農民ガ從來秣蔈ヲ刈芟シタルノ慣習アルヲ以テ、地租改正ノ際之ニ共有ナル所有權ヲ附與シタルモノ多シ。然レドモ素ト是レ土地所有權ヲ有セシモノニアラズシテ土地利用權ヲ有セシノミ。而シテ之ニ所有權ヲ與ヘシハ政府ノ處置寬大ニ過ギ、却テ將來農業發達ノ妨トナレリ。今全國ノ公益ヲ計リ此共同所有權ヲ有スルニモ係ハラズ、政府ハ其土地ノ利用ニ就テ斷乎タル處分ヲ決行セザルヲ得ズ。是亦歐洲各國ガ曾テ施行セシ所ニシテ今日モ尙之ニ着手スルモノアリ。而シテ其共有秣場ノ處分ニ於テハ予以テ必要トナス所ノ考按左項ノ如シ。

一、古來所有權ヲ有セシ確證アルモノハ之ヲ其共有各人ニ分割シ、以テ其共有ヲ廢スベシ。然ル

トキハ他人ノ之ヲ開拓セント欲スルモノハ所有者ト商議スルノミニシテ全村落ノ協議ヲ要セザルナリ

二、從來未ダ所有權ヲ有セザルモノハ實際秣場トシテ所要ノ面積（共有村落ノ耕地ニ必要ナル牛馬ノ藁艸ニ充ツルニ足ルノ面積）ヲ村落ノ共有ニ附シ、他ノ部分ハ村民或ハ他人ノ之ガ開拓ヲ望ムモノアルトキハ之ヲ許可スルコト。

三、此原野ノ開拓ニ從事スル者ハ充分ノ資產ヲ有シ、少ナクモ二十町歩以上ノ土地ヲ開拓シ之ヲ維持スルヲ得ルモノニアラザレバ敢テ之ヲ許可スベカラズ。

## 三、交錯地交換處分

現今ノ農況ニ於テハ農產收益甚ダ寡キノミナラズ、精密ノ算法ニヨルトキハ却テ損失ヲ來スモノ多シ。是レ蓋シ各人所有耕地ノ面積過小ナルト、稍大ナル耕地ヲ有スルモノモ、其耕地四方ニ散在シ、他人ノ耕地ト犬牙交錯スルトヲ以テ、牛馬或ハ器械ヲ耕鋤ニ利用セズ、之ヲ利用スルコト能ハザルニ基ツクモノナリ。故ニ此弊ヲ除カント欲セバ宜シク耕地ヲ合一ニシ、一人所有ノ耕地ハ一ケ所ニ團合セシムベキナリ。斯處分ヲ斷行セザレバ營ニ耕地ニ馬耕ヲ施行スルコト能ハザルノミナラズ、其他百般ノ改良皆實行スルコト能ハザルベシ。然レドモ此合一ノ利ハ山脈丘岡ニ接近スル地方ニ於テハ平地ニ於ケルガ如ク大ナラズ、何トナレバ土地急斜ナルヲ以テ牛馬及器械ノ使用最モ困難ナレバナリ。故ニ此合一ノ處分ハ先ヅ之ヲ平地ニ實施スルヲ務ムベシ。

## 四、土地處分ヲ擔任スル官ヲ置クコト

前述ノ耕地交錯地交換及共有秣場處分等ハ其處置最モ宜シキヲ得ルニアラザレバ一時必ズ竹槍席族ノ騷擾ヲ釀スヲ免カレザルベシ。故ニ其處分ハ最モ注意ヲ要ス。其方法ハ普國土地處分ノ方法ヲ採ルコト最モ我國ニ適切ナルベシ。然リ而シテ此普國ノ法ヲ酌酌シ、我國ニ施行スベキ規則ノ編纂及古來慣習ノ調查等ハ皆ナ時日ヲ要スルモノナレバ、主營ノ省ニ於テ時ニ主務ノ官ヲ置キ該事務ヲ調查セシムベシ。其主要ナル職務ハ左ノ事項ニアルベシ。

一、共同秣場ノ所有權及利用權ニ關スル古來ノ慣習ヲ調查スルコト。

一、耕地ノ交錯其他農業發達上障害トナルベキ慣習ノ調查。

一、歐洲ニ於テ交錯地交換及共有地處分ニ關シ發布シタル該法規ノ調查。

一、本邦ニ於テ發布セラルベキ法律規則ノ草按ヲ編製スルコト。

一、開拓シ得ベキ原野荒蕪地ヲ調查シ其概測圖ヲ製シ及其土性、氣美等ヲ調查スルコト。

以上陳スル所ノモノハ余我國農政ノ大綱ニ就テ抱懷スル所ノ意見ナリ。其他興農資本開拓ノ方法

等ニ就テ意見アリト雖ドモ、事枝葉ニ屬スルヲ以テ之ヲ他日ノ具申ニ讓ル。而シテ今陳ル所ノ改良ハ獨リ我國特有情勢ニ就テ必要トナスモノニ非ズ、總テ農業發達ノ進路ニ於テ一回必ズ此革變アルヲ免カレザルモノナリ。海外各國ノ農政及土地沿革ヲ觀ルニ、農業發達ノ順序、土地ニ附帶ノ弊習（交錯地共有地等ノ類）等ハ皆ナ其轍ヲ一ニス。故ニ我國今日ニ於テ施行セント欲スル所ノモノハ彼ノ歐洲ニ於テハ既ニ數十百年以前ニ實行シタルモノナリ。是以テ歐洲農政治革ヲ一讀セバ我國將來ニ採ルベキ農政ハ自ラ明ナルベシ。

## 內外國耕地農民比較表

| | 日本 | 英國 | 獨國 | 佛國 |
|---|---|---|---|---|
| 全面積（ヘクタール） | 三八、二四三、〇〇〇 | 三一、四七七、〇〇〇 | 五四、〇五二、〇〇〇 | 五二、七八九、〇〇〇 |
| 耕地面積　同 | 四、五〇四、五二〇 | 畑 九、四五七、〇〇〇 | 二六、一七七、三五〇 | 二五、五八一、六五九 |
| | | 牧草地 八、六三八、〇〇〇 | | |
| 全面積ノ同百分ニ付 | 一一、七 | 畑 三〇 | 四八、五 | 四九、〇 |
| | | 牧草地 二七ノ五七 | | |
| 全國人口 | 三七、八六八、九八七 | 三一、八〇五、〇〇〇 | 四五、二三四、〇六一 | 三六、一〇〇、〇〇〇 |

| | | 日本 | 英國 | 獨國 | 佛國 |
|---|---|---|---|---|---|
| 農事ニ從事スル人口 | 農作戶主 | 四、三三四、三七六 | | | |
| | 總農民 | 一二、五七〇、九四五 | | | |
| 全人口百ニ付農民ノ數 | | 三三、二 | | | |
| 農民一人ニ付耕地ノ割（ヘクタール） | | 二、九九五、〇〇〇 | 八、六六一、四〇九 | 五、九二二、四七一 | |
| 農作戶主一戶ノ耕耘スル面積（ヘクタール） | 田 | 〇、四七 | 英 | | |
| | 畑 | 〇、三一 | 蘇 | | |
| | 計 | 〇、七八 | 愛 | | |
| 畑 | | 三、一五 | 七、六 | 一九、一 | 一六、四 |
| 牧草地 | | 二、八八 | | | |
| 畑 | | 六、〇三 | | 三、〇一 | 四、三二 |
| 牧草地 | | | | | |

（備考）

表中本邦ノ部ハ第五統計年鑑ニ基キ英佛ハ千八百七十二年獨逸ハ千八百八十二年ノ統計ニ據ル。

本邦農民ノ數年鑑ニ登載ナキヲ以テ假リニ該年鑑登記の農作地主ノ數ニ平均家族の率數四、九二ヲ乘シ而シテ六十歲以上ト十五歲以下ヲ省キタルモノナリ英ノ農民ノ數ニ於テハ實際耕耨ニ從事スルモノヲ擧ゲ十五歲以下ヲ省クモノナリ佛ノ統計ハ明カナラザレ共必ズ英ト同一ナルベシ獨ハ農家ノ總家族一九、二二五四五五內一〇、五六四〇四六ハ該業ニ從事セザルヲ以テ省キタリ。

# 經濟社會ノ現在及將來

## 商事會社（商法ニ依リ株式會社ノミヲ揭ゲテ合名又ハ合資ノ會社ヲ包含セズ）

明治廿九年一月三十一日現在株式會社千百四十社

| | |
|---|---|
| 資本總額 | 一二七、一〇二、五一二圓一五〇 |
| 同拂込額 | 八一、五五八、四五七圓〇五〇 |
| 同未拂込額 | 四五、五四四、〇五五圓一〇〇 |

右ノ內

明治廿八年五月一日（卽チ馬關平和條約締結後）ヨリ廿九年一月三十一日マデ新設ノ株式會社九十七社

| | |
|---|---|
| 資本總額 | 一三、五七五、九〇〇圓〇〇〇 |
| 同拂込額 | 二、四七五、七二〇圓〇〇〇 |
| 同未拂込額 | 一、一〇〇、一八〇圓〇〇〇 |



## 鐵道會社

明治廿九年一月三十一日現在鐵道株式會社

| | |
|---|---|
| 資本總額 | 一一〇、四〇八、〇〇〇圓〇〇〇 |
| 同拂込額 | 七二、六四五、三一〇圓〇〇〇 |
| 同未拂込額 | 三七、七六二、六九〇圓〇〇〇 |

右ノ內

明治廿八年五月一日（卽チ馬關平和條約締結後）ヨリ廿九年一月三十一日マデ新設鐵道株式會社

| | |
|---|---|
| 資本總額 | 一〇、六一五、〇〇〇圓〇〇〇 |
| 同拂込額 | 六九四、三六〇圓〇〇〇 |
| 同未拂込額 | 九、九二〇、六四〇圓〇〇〇 |

## 銀行（銀行法令ニ依リ株式合名合資ノ三會社ヲ併稱ス）

明治廿八年十二月末日現在銀行總計千〇四十八行

| | |
|---|---|
| 資本總額 | 一六九、二四一、七八九圓〇〇〇 |

同拂込額　未詳
同未拂込額　未詳

右ノ內
明治廿八年七月以降同年十二月末日マデ卽チ同年ノ後期ニ新設ノ銀行九十八行
資本總額　三五、七五三、九四〇㊀〇〇〇
資本拂込額　未詳
同未拂込額　未詳

又
明治廿八年六月末日卽チ同年前期現在銀行九百五十行
資本總額類　一三三、四八七、八四九㊀〇〇〇
同拂込類　一〇六、七四〇、一七四㊀〇〇〇
同未拂込額　二六、七四七、六七五㊀〇〇〇

## 商事會社鐵道及銀行ノ三資本合額

資本總額　三七〇、九九八、三六一㊀一五〇
同拂込額　二六〇、九四三、九四一㊀〇五〇
同未拂込額　一一〇、〇五四、四二〇㊀一〇〇

# 戰後經營ニ付農商工等實業ニ關スル演說草按

回顧スレバ昨年六月本大臣ハ各位ト相見ルニ當リ、戰後ノ經濟調理ニ關シ所見ヲ開陳シ、農工商業ノ計畫ニ付テハ力メテ投機又ハ輕擧ノ事業ヲ警戒シ、我實業ヲシテ眞正ナル發達ノ軌轍ニ依ラシメンコトヲ希望スル旨ヲ以テシタリ。

爾來玆ニ一週年、其ノ間我國農工商實業界ノ趨勢ヲ見ルニ、上下相共ニ戒メテ適良ノ範圍ヲ脫セズ。戰後經濟ノ基礎ヲシテ鞏固ナラシムルニ汲々タルモノハ、實ニ當業者ガ輕擧ヲ警メ愼重事ニ從フノ致ス所ナリト雖ドモ、抑モ亦各位ノ監督又ハ誘掖其宜シキヲ得タルノ結果ニ外ナラズト信ズ。是レ本大臣ガ玆ニ各位ニ向テ深謝スル所ナリ。

熟ラ目下我國實業界ノ趨勢ヲ觀察スルニ、內ニ於テハ專ラ文明ノ軌轍ニ依テ殖產興業ノ途ヲ講ジ、以テ國家ノ富源ヲ開發センコトヲ力メ、外ニ向テハ宇內ノ潮流ニ伴ヒ、我邦ノ貿易ヲ擴張センコトニ怠ラズ、既ニ其ノ進路ニ付テハ着々之ガ徵候ヲ見ツツアルハ本大臣ガ國家ノ爲メ各位ト共ニ欣喜ニ堪ヘザル所ナリ。



夫レ國家ノ氣運國民ノ志想既ニ此ノ現象ヲ顯ハス、政府ハ益々之レヲ奬勵誘導シ以テ國利民福ヲ增進スルノ道ヲ講ゼザルベカラズ。而シテ本省ハ專ラ農工商實業ノ發達ヲ誘掖シテ國家ノ富源ヲ增殖スル爲メ內外ノ情況ニ應ジ、各種ノ法令ヲ制定シ、又ハ百般ノ事業ヲ設備シ、以テ戰後ノ經營ヲ全カラシメント欲ス。其ノ設備ノ事業ノ如キハ多クハ試驗的又ハ模範的ニ止メ、當業者ヲシテ其ノ成績ヲ觀察スルノ便ヲ得セシメ、又內外ニ於ケル農工商ノ實況ヲ調查シ、之ガ報告ヲ發布シ當業者ヲシテ各自ノ事業ヲ計畫スルニ當リ、其ノ資料參考ニ供セシメント欲ス。卽チ農事試驗場、蠶業講習所、水產調查所、貿易品陳列館竝ニ海外視察、實業練習、農工商報告等皆此ノ目的ニ出デタルモノナリ。

又不日農商工高等會議ヲ開設シ、戰爭ノ後ヲ承ケ改正條約實施ノ前ニ於テ我貿易ノ擴張上須要ノ事項ヲ諮問シ、又來ル明治三十三年佛國巴里ニ於テ開設スル萬國博覽會ニ贊同シ、以テ我邦ノ海外貿易ヲ發達擴張スルノ道ヲ講ゼシメント欲ス。

又軍事ノ必要ト殖產興業ノ發達ニ伴ヒ、馬匹ノ改良及製鐵ノ起業ハ實ニ目下ノ急務ナルヲ以テ、本省ハ已ニ其ノ計畫ニ著手シタリ。其ノ他鑛山、山林、特許、地質調查等ノ如キ何レモ皆國家ノ富源ヲ增殖スルノ事業ナレバ、之レガ整理ト擴張ニ付キ專ラ其ノ力ヲ盡サント欲ス。

然ルニ政府ガ前陳ノ主意ヲ貫カント欲セバ一ニ人民ニ直接スル地方長官各位ノ援助ニ賴ラザルベ

カラズ。以上本省主管ノ事務ニシテ各位ノ考慮ヲ要スルモノ一ニシテ足ラズト雖モ、就中目下最モ急務ト認ムル所ノ者ハ則チ左ニ開陳スル所ノ諸件ナリトス。

第一、産業組合法案

政府ハ農工業資本ノ融通ヲ圖ル爲メ曩ニ勸業農工ノ兩銀行法ヲ制定セリ。然ルニ此等兩銀行ハ稍々大資本ノ供給ニ便スル所多カルベシト雖モ、我一般農民ノ如キ資産ニ乏シキモノニ至リテハ直接ニ之ガ利益ヲ受ル能ハザルノ憾ナキ能ハズ。依テ信用組合、原料購買組合、製産組合、器具使用組合及販賣組合等各種産業組合ノ組織ヲ明ニシ、其ノ基礎ヲ鞏固ナラシメンガ爲メ、茲ニ産業組合法案ヲ起草セリ。

今該法案ノ要旨ヲ擧グレバ、

一、一種以上ヲ合併シテ設立スルコトヲ禁ズ。

二、有限責任ヲ本體トナス、但特殊ノ場合ニ於テハ無限責任タルベキコトヲ規定ス。

三、農工銀行ト聯絡ヲ通ズ。

四、法人權ヲ授ク。

尙ホ組合ノ權利義務ノ確定ヲシテ郡市役所ノ登記ニ因ラシメ行政權ヲ以テ之レガ監督ヲナス等自ラ地方長官各位ノ考慮ヲ煩ハスベキ點尠シトセズ。

第二、府縣農事試驗場及農事講習所ノ國庫補助。

府縣農事試驗場ハ本省所屬ノ農事試驗場ト互ニ輔車脣齒ノ關係アリテ俱ニ本邦農事ノ改善ヲ圖ルベキノ機關タリ。故ニ本省ハ曩ニ府縣農事試驗場監督ノ途ヲ開キ、現ニ該監督ノ下ニ試驗場ヲ設置スルモノ一府十八縣ニ及ビ、目下尙ホ陸續創設セントスルノ形勢アリ、然ルニ地方ノ事業ハ往々變遷常ナキノ虞アルヲ以テ、永遠ニ之レヲ繼續シテ其ノ效果ヲ收ムルノ必要アル試驗場ノ如キハ今日ニ於テ宜シク之レガ基礎ヲ鞏固ナラシメザル可ラズ。依テ本省ハ漸ヲ以テ進ムノ方針ニ由リ、府縣農事試驗場中創設以來其ノ成績顯著ナルモノニ對シテハ豫算ヲ以テ其ノ經費ノ幾分ヲ補助センコトヲ期ス。又農事講習所國庫補助ノ如キモ亦同一ノ理由ナリトス。

第三、蠶種檢查法案

蠶種ノ檢查ハ去ル明治十九年農商務省々令第九號ニ由ツテ微粒子毒ノ檢查ヲ施行セシガ、爾來當業者ハ單ニ微粒子毒ノミノ檢查ヲ止マラズ、尙ホ進ンデ各般ノ檢查ヲ爲サンコトヲ希望シ、該省令アルニ拘ハラズ各地方ニ於テ蠶種取締規則又ハ蠶種檢查規則ヲ制定シ、本大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ發布セシモノ其ノ數十五縣ノ多キニ至ル。然ルニ各地ニ施行スル檢查ノ方法ハ寬嚴區々ニシテ殆ンド一定セザルガ如シ。故ニ今地方ノ情況ヲ酌量シ、蠶種ノ檢查方法ヲ設ケ、一ハ以テ當業者ノ希望ニ副ヒ一ハ以テ養蠶製絲ノ根本ヲ確實ナラシメント欲ス。

第四、職工ノ保護及取締

本邦工業ノ隆興ト共ニ今ヨリ漸ヲ以テ職工ノ保護及取締ニ關シ必要ナル事項ヲ講究シ、資本家及勞働者間ノ關係ヲ圓滑親密ナラシムルノ必要ヲ認メ左ニ研究スベキ事項ヲ揭記ス。

一、職工ノ逃亡横奪ヲ防グ等專ラ雇傭契約ノ確實ヲ圖ル爲メ法令ヲ布クノ要否。

二、職工殊ニ女子及幼者ノ雇入竝ニ使役ニ關シ雇主ニ多少ノ制限ヲ加ヘテ職工ヲ保護スル爲メ法令ヲ布クノ要否。

三、前項ノ法令ヲ設クルモノトセバ其ノ適用ノ範圍ヲシテ工業全般ニ及ボスベキカ、將タ二三特定ノ工業ニ限ルベキカ。

四、第一項及第二項ノ法令ニ規定スベキ重ナル事項。

第五、水產博覽會

明治十六年初メテ水產博覽會ヲ東京ニ開キシ以來大ニ水產ノ面目ヲ革新セルヲ覺ユ。故ニ今又第二回水產博覽會ヲ開設セバ尙ホ一層ノ進歩ヲ見ルヤ疑ヲ容レズ。依テ地方廳ニ於テハ該會出品ノ準備ヲナスガ爲メ、速ニ委員ヲ設ケ又出品人ニ相當ノ補助ヲ與ヘ以テ本會開設ノ趣旨ヲ全フセラレンコトヲ希望ス。

以上陳述シタル事件ニ付テハ主務官ヲシテ各位ノ質議ニ答ヘシムルベク、又各件ハ本邦農工商ノ實業ニ關シ最モ重要ノ問題ナルガ故ニ、各位御歸任ノ後地方ノ情況ニ照シ、充分之レガ審議ヲ盡シ以テ各位ノ意見ヲ具申アランコト切望ノ至リニ堪ヘザルナリ。



戰後經營ニ付農商工等實業ニ關スル演說草按

金子堅太郎

# 長崎造船所御拂下願



明治十七年以來拜借仕居候長崎造船所之儀ハ、專ラ外國船ノ修繕ニ依頼シテ維持シ來候處、近時上海香港等ニ於テハ同業者ノ競爭益々劇敷相成候而已ナラズ、昨今魯領浦潮斯德港ニ於テモ同國政府ハ大ニ船渠構造ニ盡力罷在候由、就テハ是迄長崎造船所ニ於テ大ニ頼ミテ以テ得意ト致居候魯國軍艦モ追々同港ニテ其修繕ヲ辨候事ニ可相成、且又長崎造船所附屬ノ諸機械ハ頗ル舊樣ノ物ニシテ機械類日新ノ今日改良ヲ加ヘズ此姿ニテ因循姑息歲月ヲ送居候テハ三五年ヲ出ズシテ衰頽維持ス可ラザルノ有樣ニ立到ルベクト痛心ノ至ニ不勝候。就テハ於弊社今日ヨリ機械ヲ改良シ鐵船ヲ新造シ專ラ職工ノ熟練ヲ謀リ内外人ノ信用ヲ厚クシ將來ノ隆盛ヲ企圖仕度候間、右造船所ハ特別ノ御詮議ヲ以テ兼テ御定メノ價格金四拾五萬九千圓ヲ五十ケ年賦トシ御拂下ノ恩典相蒙候樣仕度、斯ク御採用被成下候上ハ飽迄同處隆盛ノ基ヲ鞏固ナラシメ候樣盡力可仕此段謹デ奉願上候也。

明治廿年四月廿五日

三菱社々長
岩崎彌之助

大藏大臣伯爵 松方正義 殿

# 兵庫造船所御引渡後改正竝營業ノ景況



| 元兵庫造船所 | | | 川崎造船所 | | | 減 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務員 | 月給 | 三百拾五圓 | | 月給 | 百〇四圓 | | | |
| 同　雇 | 日給 | 貳百貳拾六圓 | 七人 | 日給 | 百四拾壹圓 | 四人 | 貳百拾壹圓 | 三人 |
| 見廻分竝小使 | 雜給 | 八拾圓 | 十七人 | 雜給 | 四拾七圓 | 九人 | 八拾五圓 | 八人 |
| 技術員 | 月給 | 四百五拾五圓 | 十人 | 月給 | 貳百五拾圓 | 六人 | 三拾三圓 | 四人 |
| 合計 | | 千七拾六圓 | 八人 | | 五百四拾貳圓 | 四人 | 五百三拾四圓 | 四人 |
| | | | 四十三人 | | | 廿三人 | | 十九人 |

一、是迄各職工場ニ技術ノ詰所ヲ置キ是レニ書記小使各附屬致居候處今回中央便宜ノ工場一ケ處ニ纏メ候ニ付都テニ辨利ヲ與ヘ互ニ緩急相助クルガ故ニ技術手竝書記小使ノ人員減少スルモ工事向又帳簿取扱上少シモ差支無御座候。

一、事務員ヲ減少致候得共其事務ハ減少致候譯ニ無御座候卽チ是迄ハ午前八時若クハ九時出頭ノ都合ナリシヲ今回職工同樣ノ時間ニ出頭致シ且殘業シテモ其日ノ事務ヲ其日ニ處辨セザレバ退出スルコトヲ許サヾルガ故ニ事務抵滯ノ患無御座候。

一、諸職工四百人餘日々入場致來候處一旦改正シテ二百五十人ニ減ジ、其後工事ノ隆盛ニ依テ增加シ今日ノ處四百餘人入業致居候得共其工事ハ從前ヨリ相增シ卽チ長百三十尺鐵船（大阪商船會社）長百三十尺川浚器械鐵船（大阪府）長百拾五尺木造汽船宇和島丸（宇和島運輸會社）百尺鐵船機械氣罐（大阪商船會社）百六拾尺船用機械當所用小蒸氣船大阪天滿橋臺鐵物等製造竝ニ豐瑞丸修繕中ニテ此總請負金高拾五萬八千三百圓ニ御座候尤職工ノ配置方ニ注意シ互ニ分業助力スルノ法ヲ定メ卽チ工事ヲ分割シ之ニ加フルニ時間ヲ改正シテ一時間增加致候。

一、時間改正從前ニ據レバ午前五時半入場シ午後三時半退場ノ處午後ヲ四時半ニ改正致候。

一、定傭人夫從前三十三人ノ處二十三人ヲ減ジ且賃錢五錢ヅツ引下ゲ餘ハ臨時入用ノ節雇人夫ヲ使用シ時々職工ニ應ジテ增減シ一定ノ人員ヲ置カズ。

一、臨時人夫元二十錢ノ處十六錢ニ改正シ且從前ハ各工場毎ニ配置シテ使用セシヲ技術手竝ニ書記ノ詰所ヲ一ケ處ニ定メタルヲ以テ卽チ互ヒニ流用シテ使用スル事ニ致候ニ付隨テ人員ヲ減ジ從前百人餘リノモノヲ五拾人餘リニテ用辨致候。

一、所中竝職場消費從前ヨリ餘程減少致シ幾ンド半額ト存候得共御引渡後日淺ク未ダ平均一ケ月ノ額ヲ見ル能ハザレバ製造高ノ何割ニ當ルヤ確然タル事ハ認メ難ク候。

# 景況

一、御引渡ノ後上架料ヲ低價ニ改正致候。

一、上架セシ船舶ハ外國船カムサツカ號（千二百噸）及ビ商船會社安治川丸（四百四十噸）同三保丸（三百四十八噸）復タ安治川丸ヲ上架シ修繕ス以テ大有丸（五百七十八噸）郵船會社浦門丸（五百十六噸）浪花丸（二百五十噸）等ヲ上架ス。

一、半製品ニテ御引繼ノ中曳船會社コツク落成ニ付同社ヘ引渡相濟申候。

一、同大阪商船會社第一期鐵船吉野川丸落成シ再應試運轉ノ上七月廿四日尚ホ試運轉引渡ノ式ヲ爲シ八月十一日全ク引渡相濟速力其外好結果ヲ得申候。

一、同大阪府消毒機械悉皆落成シ同府ヘ送附ノ上右組立ニ取掛リ最早一ト通出來仕候。

一、同大阪商船會社第二期鐵船湊川丸六月「キール」据致シ引續キ「フレーム」組立過半相濟最早外板附着ノ途ニ相進ミ居候。

一、同大阪商船會社第三期鐵船百尺ノ分氣罐機械組建七歩通出來シ船體組立ノ手配中ニ御座候。

一、共榮社第二德山丸ノ修繕致シ又エラルトン氏注文「スクルウプレツク」修繕致シ且神戸製紙所「シヤフト」等製造ス。



一、鹿兒島島津家所有豐瑞丸大修繕ニ取掛リ船體上部腐朽ノ箇所ヲ取離シ且氣罐ト器械ヲ取放シ新製ノ着手中ニ御座候。

一、宇和島運輸會社注文第二宇和島丸木造汽船ニシテ「キール」据付製造方着手中ニ御座候。

一、大坂府注文川浚器械船長百三十尺材料附屬品舶來シ右組立方引請既ニ内外部組立方ニ從事凡ソ三歩通出來仕候。

一、大阪天神橋々臺鐵物請負製造方着手中ニ御座候。

一、兼而破損致居候船架之義小船ヲ曳揚候樣修繕致シ九歩通出來仕候。

一、器械之内第五十號ペンチングメシー號一個ハ御引繼申候得共既ニ破損致居全ク不用ニ付取片付申候又六十二號「ストームハーマ」舊物全ク用ヲ爲サズ依テ相廢シ更ニ新製ノモノ相備申候。

一、在來之倉庫火防ノ用ヲ爲サヾル耳ナラズ汚損シテ甚ダ不安全ニ付右悉ク改造之見込ヲ立テ圖面仕樣取調追テ着手之見込ニ御座候。

右之通

明治十九年九月

兵庫造船所御引渡後改正幷營業ノ景況

別紙兵庫造船所處分ノ件ヲ案ズルニ、右ハ官ニ於テ必要ノ見込ナキニヨリ、之ヲ人民ノ手ニ歸スルトナラバ貸下ノ姑息ナルヲ止メ、斷然拂下ヲ爲スヲ適當ナリトス。然ドモ從來ノ經歷ニヨレバ官有物ノ拂下ハ上納金延滯又ハ拂下人ノ資力其事業維持ニ堪ヘザル等種々ノ弊害アルヲ以テ、該處分ハ尙貸下ノ議ニ歸セシナルベシ。然ルニ從前拂下ニ弊害ノ多キハ畢竟其方法規則ノ不完全ニ由ル者ナレバ、豫メ其方法規則ヲ酌定シ、弊害ヲ生ゼシメザルコトニ注意セザル可ラズ。今兵庫造船所ノ處分ハ頗ル急速ヲ要シ新ニ定ムベキ規則ニ據ル能ハズトスルモ、今後此等ノ處分アルニ當テハ一定ノ規則ナカル可ラザルニヨリ、大約別紙ノ方法ニ據リ官有物拂下ノ規則ヲ設ケラレタリ。猶條款ノ記入スベキ者モ之アルベケレド、先ヅ其大體ヲ揭ゲ意見ヲ玆ニ提出ス。

森　有　禮

## 官有物拂下方法

一、官有物ノ拂下ハ都テ入札法ヲ用ユルコト。

一、拂下ベキ物品ノ實價ヲ評査シ之ニ據リ拂下ノ價額ヲ何程以上ト豫定スルコト。

一、入札ハ左ノ資格アル者ニ限リ之ヲ許ス事。

一、拂下金ノ半額以上ヲ卽時ニ上納シ得ル者。

一、卽時上納金ニテ全額ニ達セザルトキハ其殘額ハ公債證書又ハ確實ナル銀行ノ保證書ヲ以テ幾期ニ分チ上納ノ事ヲ約シ得ル者。

一、前項ノ上納ヲ期限內ニ爲シ能ハザルトキハ其理由如何ニ關セズ官ノ處分ニ服從スベキ旨ヲ豫約シ得ル者。

一、拂下ノ公告ハ三個月前ニ之ヲ發シ前條ノ資格ヲ備ヘタル者ハ入札ノ願ヲ許シ入札法ニ據リ高札ノ者ニ拂下グルコト。

一、高札ノ金額豫定ノ價額ニ達セザルトキハ拂下ヲ中止シ再入札ヲ爲サシムルコト。

拂下ノ物價巨額ニアラザルトキハ本文ノ資格ヲ拂下金ノ全額ヲ卽時ニ上納シ得ル者ニ定ムルコトアルベシ

# 三井組西村虎四郎三池礦山ノ内勝立坑非常天災ノ爲メ廢坑ト相成候ニ付歎願

私儀去ル明治二十一年八月中官有三池鑛山ヲ代金四百五十五萬五千圓十五ヶ年賦上納ヲ以テ落札御拂下相受ケ、同月十八日別紙甲號御命令書ノ旨趣ヲ遵奉仕、代金完納ニ至ルマデノ間ハ單ニ御貸下ノ御契約ヲ以テ去ル明治二十二年一月一日ヨリ御引渡相受ケ引續キ稼行罷在候處、不幸ニモ同年七月九州地方稀有ノ大地震有之、其ガ爲メ本礦山四坑ノ中將來出炭最モ多額ナルノ豫算ニ有之候勝立坑ヲ陷沒セラレ候。其當時人智人力ノ及ブ限リ救護ノ道ヲ相盡候得共、何分ニモ非常ノ湧水ニテ排泄スルニ暇ナク遂ニ廢坑ト相成候事實ハ同年八月三十一日付ヲ以テ上申竝御實驗相願置候（別紙乙號）通リノ次第ニ有之何人モ豫期スル能ハザル非常ノ天災トハ乍申御省ニ對シ奉リ何共奉恐入候義ニ御座候。仍テ私ニ於テハ如此思議スベカラザルノ損害ハ御命令書ノ條項ノ外ニ渉ル非常ノ天災タルコトヲ固信罷在候ニ付、右損害ヲ補償スルニ足ルベキ相當ノ御處分奉仰度謹デ左ニ其事由ノ大要ヲ述ベ併セテ二三ノ例ヲ示擧シ出格ノ御詮議ノ程只管奉懇願候。

第一　損害ノ原因ハ天災タルコト。

明治二十二年八月三十一日付上申竝御實驗願書ニ相盡シ有之候通リ其事ノ起リハ全ク震災ニ因シ、其災害ヲ豫知スルニ由ナキノミナラズ、其事後ニ於テモ百方防護ヲ相盡シ聊カ遺憾意慢無之候事、實ハ當時御省ニ於テモ、亦タ御確認相成候次第ニテ固ヨリ私ニ於テハ反對ノ原因ヲ識認仕候覺毛頭無之候得バ其不慮ノ天災タルハ明々白々ノ儀ト奉存候。

第二　私ノ有シ居リ候モノハ單ニ占有權ニ類シ候事。

明治二十二年一月一日ヨリ場所ノ御引渡シヲ相受ケ候得共、私儀ハ御命令書ノ條項ヲ恪守シ、拜借人トシテ御預仕候姿ニ有之、若シ强ヒテ一個ノ權利ト稱呼致候場合ニハ、所謂占有權ニ相類シ候モノニテ、決シテ眞ノ所有權無之事ハ御命令書ノ條項自ラ其疑ヲ解クニ餘リアリト固ク相信ジ候。

第三　所有權ハ依然御省ニ有之候事。

所有權ヲ有シ居候者ヲコソ所有者ト相稱シ可申候得共私儀ハ自己ノ決意ニ因リ所有者タル權利ヲ行フ能ハザルノミナラズ、意思ノ一部分ヲモ眞所有權ノ所在タル御省ノ御指命ヲ不待シテ行ヒ能ハザル儀ニ付、代金完納ノ後ニ至リ候ハヾ所有權ハ私ニ移リ可申候ヘドモ、其前ニ在リテハ唯ダ賣買ヲ豫約候マデニ相止リ、私儀ハ年賦金ノ千萬ノ一ヲ餘シ候トモ、所有權ヲ得ルニ至

ラズ候。此場合ニハ私ヨリ既納年賦金ハ未ダ代金ノ一部分ト云フベカラズシテ寧ロ一種有條件ノ手附金又ハ背約ニ因リ官沒セラルベキ拜借料タルコトハ御命令書ノ明文ノ通リニ御座候。

右ノ通リ損害ノ原因ハ天災ニシテ人智人力ノ及バザル所ニ有之且私儀ハ假令既納年賦金有之候トモ完納迄ノ間ハ代金ノ一部分ヲ爲ス能ハズ、表面上事實上一個拜借人タル以上ハ、其本物件ノ存廢ノ如キハ必ラズ其所有權ヲ有セラルヽ御省ニ於テ御負擔相成當然ノ儀ト奉恐察候。今左ニ御命令書ノ條項ヲ順序ニ引援シ更ニ其然ル所以ヲ立證可仕候。

第五條　礦山竝付屬物件ハ第三條ノ手續ヲ以テ引渡ト雖ドモ、拂下代金ノ完納ヲ了セザル內ハ貸下ゲトシ、營業權竝付屬物件ノ所有權ハ付與セザルモノトス。

御命令書第一條ニ御指定相成候營業權地所建物諸器械備品其他付屬一切ノ營造物ハ明治二十二年一月一日ノ現形ヲ以テ第三條ノ手續ニ從ヒ同日ヨリ御引渡相受ケ候得共、本條ニ依レバ代金完納ニ至ラザル間ハ單ニ御貸下相成候次第ニテ、營業權及付屬物件ノ所有權ハ依然御省ニ有之候義ハ申迄モ無之候。而シテ御省ニ於テ御所有タルコト明白ニ有之候以上ハ、拜借人タル私ニ於テ他ノ所有ニ係ル物件ノ危險ヲ保チ候謂レ無之、御命令書ノ各條項ヲ參考仕候テモ一モ絕對的ニ斯ル無限ノ責任ヲ私ニ負ハシメラレ候證跡ヲ發見不仕候。

第六條　拂上代金ハ他日何等ノ事情アルモ延期又ハ減額又ハ利引一時上納等其他一切ノ變更ヲ請願スルヲ許サズ。

本條ノ御旨趣ハ私ノ便宜ニ依リ又ハ收支不相償等ノ事由ニ由リ年賦金ノ御延期ヲ願ヒ、又ハ元高タル四百五十五萬五千圓ニ對シ幾許ノ御減却ヲ乞ヒ、又ハ利引一時上納等出願仕候コト無之樣、豫メ此明條ヲ御設ケ相成候義ハ勿論ニ候得共、御省ノ御所有ニ係リ候財產ノ消滅マデモ拜借人ニ負擔セシメラルベキ謂レ無之、既ニ四百五十五萬五千圓ノ總額ヲ組織致シ候本物件天災ノ爲メニ多分ノ缺損ヲ來シ候時ハ、自然ニ御省ノ御所有ノ財產ヲ缺損候譯ニ付、其財產全部ヲ利益ノ本源トシ代金ノ由テ起ル基據ト致候契約豫定ハ皆隨テ變更ヲ免レザル儀ニ有之、假令ヒ御契約ヲ新ニスルモ、代金ニ變更ヲ來スモ、本來必然ノ結果ニシテ決シテ本條ノ限ニ無之候ハ瞭然タル儀ト奉存候。或ハ本條ノ何等ノ事情云々ト有之候ハ一切ノ事情ヲ包容スルモノナリトノ見解モ可有之モ難斗候ヘドモ、字面ヨリ推シ候モ精神ヨリ考ヘ候モ、其事情ハ私ノ便宜都合ニ外ナラズ、尙詳言致候ヘバ炭價ノ下落ノ爲ニ收支不相償場合、又ハ私ニ於テ上納ニ差支候場合ノ如キ、人事有リ得ベキ事情タルハ勿論ノ義ニ有之、決シテ豫メ思議スベカラズ又人智人力ノ得テ救ヒ得ザル非常天災マデモ包含スルニ非ザレハ普通ノ法理ニ可有之ト確信罷在候。故ニ御省ニ於テモ本條ヲ牽引シテ法理上又ハ事實上、當然ニ負荷スベキ所有者ノ損害ヲ拂下ゲ人卽チ拜借人タル私ニ引受ケシメラルヽ如キ御釋義ハ取ラセラレザル儀ト深ク恐察罷在候。

三井組西村虎四郎三池鑛山ノ內勝立坑非常天災ノ爲メ廢坑ト相成候ニ付款願

第七條　年賦金ノ納期ヲ經過シ保證人ニ於テモ其義務ヲ果サズ、半年以上延滯スルトキハ既納ノ證據金及年賦金ハ礦山竝附屬物件ノ貸下料ト見做シ之ヲ返付セズ、直ニ其營業ヲ差止メ附屬物件ハ悉皆之ヲ取上グベシ。若シ紛失又ハ毀損ノ物件アルトキハ相當ノ代價ヲ辨償セシムベシ。

本條ノ明文ハ愈々以テ私ニ所有權ナキヲ明カニスルモノニ御座候。若シ聊カニテモ私ニ所有權有之候ハバ假令少許ノ物品ヲ紛失致候トモ他ヨリ辨償ヲ命ゼラルベキ筈モ無之候ヘドモ、本條ハ反對ニ於テ私自修ノ處置致候節ハ悉ク其償還ノ義務ヲ負ハセラレ候事ヲ確然命ゼラレ候次第ニテ、其拜借物タル根據明白ナルノミナラズ、或ル期限内ニ納賦ヲ怠ルトキハ既納ノ證據金及ビ年賦金ハ礦山竝附屬物件ノ貸下料ト看做サレ基本物件ハ其儘所有者タル御省ノ財產ニシテ、既納ノ金額ハ拜借料トシテ御沒收ニ相成リ私ノ手ニ殘留致候者トテハ一モ無之其上拜借中ニ生ジタル缺失ハ總テ私ニ於テ補充ノ義務ヲ負ヘルモノニ御座候ヘバ、固ヨリ私儀ハ其物件ノ存廢マデモ當然負擔スベキ所有者ニ無之義ハ更ニ贅辨ヲ加ヘズシテ明瞭ノ義ト奉存候。

第十條　鑛山營業權竝附屬物件ハ拂下代金完納以前之ヲ轉貸シ若シクハ鑛山事業外ニ之ヲ使用スルヲ許サズ、若シ之ニ違背シ爲ニ損害ヲ生ジタル時ハ之ヲ償ハシムベシ。

本條ニ於テハ轉貸又ハ附屬物件ヲ他業ニ使用スル儀ヲ被禁候哉ニ御座候。前條ニ於テ既物ノ金額ハ之ヲ貸下料ト見做シテ返付セズト有之候處、本條ハ更ニ一轉シテ明カニ轉貸ヲ禁ゼラレタルモノニシテ、其轉貸ト云フハ一タビ貸下ラレタル私ニ於テ更ニ之ヲ他人ニ貸渡スコトヲ指スモノニシテ、御省ト私トノ間ハ單ニ貸借タルノ事實ハ遂ニ掩フベカラザル次第ニ御座候。若シ私ニシテ拜借人ニアラザレバ、轉貸ノ爲シ得ラルベキ筈無之ハ申マデモ無之、又私ニ於テ所有者ト致候ヘバ轉貸トハ不可申ト固信罷在候。單ニ本條ニ準據スルモ、鑛山其他ノ官物タルハ明白ノ儀ニ御座候。故ニ拂下ゲナル言語ハ將來ノ踐約ヲ豫期シテ稱スルニ來由致シ、決シテ之ヲ以テ眞ノ賣買ト同一視スベキニ無之、隨テ其賣買セラレザルモノノ危險ヲ賣買セザル者ニ負ハスルノ所以更ニ無之ト奉存候。

第十一條　三池鑛山局ニ貯藏スル物件及既ニ採收シタル未販賣ノ石炭ハ、第一條ニ揭グル拂下代金ノ外ニシテ拂受人ハ該當局ノ帳簿ニ記載シアル運送費及其他ノ實費ヲ鑛山引渡ノ際一時ニ上納シ其拂下ゲヲ受クベシ。若シ之ヲ履行セザルトキハ鑛山竝附屬物件ノ引渡ヲ中止スベシ。

本條ハ一面ヨリ觀察スレバ私ヘ一ノ義務ヲ負ハセラレタルモノノ如クニ御座候得共、他ノ一面ニ於テハ全然反對ニ私ニ所有權アル部分ヲ明劃ニ致シ候モノニ有之候。鑛山其他受授ノ際一時ニ代金ヲ完納致候本條ノ物件ニ對シテハ御省ノ御干涉無之ハ勿論、何人モ私ヲ制束致候モノ無之、純粹ニ私ノ所有權ニ屬シ候儀ニ付、素ヨリ其物件ノ危險ハ當然ニ私ノ負荷スベキモノタルヲ證スル

ト同時ニ於テ、本條以外ノ物件ハ私ニ所有權ナキヲ明カニシ、隨テ其天災マデモ危險ヲ保タザルベカラザルノ道理無之事ヲ立證致候モノトニ御座候。

第十四條　鑛山附屬物件ニ係ル一切ノ修理ハ總テ拂受人ニ於テ負擔スベシ、若シ其修理ヲ怠リ爲ニ損害ヲ來タシタル時ハ之ヲ償ハシメタル上更ニ修理ヲナサシムベシ。

本條ニ於テ修理ノ責務ヲ私ニ負ハセラレタル儀ニ有之候。若シ私ヲ以テ假リニ所有者トセバ何ノ必要アリテ修理云々ヲ明記可致哉。是レ則チ他人ノ所有物タルヲ明カニスルモノニ御座候。又修理ヲ怠リ損害ヲ來シト有之候、此損害ヲ來ラセラルベキハ何人ニ可有之歟、言ハズシテ眞所有者タル御省ニ候半ト奉存候。而シテ私ノ負擔スベキ限域ハ單ニ怠慢故意ニヨリ修理不致場合ニ相止リ、反テ廢坑マデモ私ニ於テ修理寧ロ復興又ハ新興致サヾルベカラズトノ絕大命令ヲ含マザルコトヲ證スルニ餘リアリト被存候。然ラバ則チ非常天災ノ大缺損ハ御省自ラ御修補在ラセラルベキ外無之事ハ明白ノ道理ト奉存候。

第十五條　拂下代金完納以前鑛山附屬物件ノ模樣替變換ヲ要スルモノハ該物件ノ種類員數ヲ明記シ圖面ヲ添ヘ豫メ當省ヘ願出ノ上其許可ヲ請クベシ。若シ之ニ違背シテ模樣替變換ヲ爲シタルトキハ原形ニ復サシメ若シクハ損害ヲ償ハシムベシ。

本條ハ拜借人ノ便宜ニ因リ自儘ニ模樣替又ハ變換ヲ禁ズルモノニ有之候。若シ御省卽チ所有者ノ許可ヲ待タズシテ模樣替ヲ爲シ、又ハ變換シタルモノハ原形卽チ御省御所有ノ儘ノ形狀ニ復サシムベシトノ意ニ出候儀ハ字面ニ於テ明瞭ニ御座候。其損害云々ハ拜借人タルノ私ヨリ所有者タル御省ニ對シ奉リ御損害ト可相成儀ニ釀出致候場合ヲ指示セル譯ニテ、御省ノ御財產ノ價格ニ影響スルノ嫌アレバ、一絲一毫モ拜借人ニ於テ專斷施行スル能ハザルハ卽チ何處ニテモ御省ノ御所有タルノ實ヲ明カニスルモノニ有之候。其模樣替變換ヲ自由ニスルハ最上權ヲ有セラル、所有者タル御省ノ外ニ無之儀ハ勿論ニ御座候。

第十六條　拂下代金完納以前鑛山附屬物件ヲ亡失若クハ毀損シタル時ハ、直チニ相當ノ代品ヲ補充シ該物件ノ種類員數及其事由ヲ明記シ三十日以內ニ屆出ベシ。若シ之ニ違背シタルトキハ

第十四條ノ例ニ依リ處分スベシ。

本條モ亦タ御命令書全體ノ精神ヲ自ラ證明致候モノニ有之、拜借人タル私ニ於テ負荷可致責任ハ單ニ附屬物件卽チ建物器具等ニ相止リ候ニ付、此レ等ノ亡失若シクハ毀損シタル場合ニ限リ私ニ於テ相當ノ代品ヲ補充可致ナレドモ、其他ニ關シ候テモ私ノ負擔ノ限リニ無之ト奉存候。是レ卽チ反對ニ於テ附屬物件ナラザル鑛山其物ノ廢坑卽チ事業上ノ亡失又ハ大毀損ハ決シテ拜借人ノ與知スベキ分域ニ非ザルコトヲ明證致候モノト相心得候。

右ハ其重ナルモノヲ擧ゲ候儀ニ御座候得共、尙第八條第九條第十三條及第十七條等ノ各項ニ依遵

致候得バ、私儀ハ御拂下ゲヲ相受ケ候トハ乍申、契約ノ總金額ヲ完納不致前ハ何樣ノ場合ニ於テモ單ニ將來ノ賣買ヲ豫約仕候ニ不過シテ、卽チ其間ハ拜借人タルコトハ明々白々ト奉存候。他言ヲ以テ之ヲ申サバ僅カニ占有權ヲ許サレ候マデニテ決シテ所有權ヲ與ヘラレタルニハ有之間敷候。卑近ノ一二例ヲ擧ゲ候ヘバ、宛モ他人ノ船舶ヲ借入レ運送業ヲ仕居候モノノ如クニ有之、其收支ノ損益ハ借用主タル營業人ノ負フ所ニ候得共、其船舶其物ノ沈沒シタル如キ場合ニアリテハ、格段ナル契約有之候ニ非ザレバ其船舶ノ代金ハ當然ニ船主卽チ所有者ノ損失ニ歸スベキ同一理ト奉存候。又一歩ヲ進メ候テ家屋ヲ買受ケンコトヲ約束致シ、其賣買ノ契約實行ノ期ニ至ルマデハ假ニ貸借ノ約束ト之ヲ認メ、其實行期限ニ至ルマデハ何等ノ名義ヲ以テ之ヲ受授シ居ルモ、其實其金額ノ內ニ賣買代金ノ性質ヲ包含シ、或ル期限ノ間ニ於テ契約ノ總金額ヲ全ク拂終ラバ所有權ヲ移サントノ契約有之場合ニ於テ、其家屋燒失致候節、其既拂ノ金額ハ借家料トシテ家主ヘ相押ヘ、借家人ヘ返戻セザルノ約束有之候ハヾ格別ニ候得共、然ラザル場合ニ於テハ決シテ成立スベカラザルノ要求ニ有之候。尙ホ更ニ近切ノ實例ヲ以テ之ヲ證シ候半ニ、今回濃尾兩國ニ非常ノ大震災有之候處、未ダ其災害ノ起ラザル前ニ於テ或ル人官林ノ御拂下ヲ出願シ、既ニ許可ヲ得テ若干ノ證據金又ハ內金ノ類ヲ上納致シ置キ、追テ完納ノ時ヲ待チテ初メテ所有權ノ移動ヲ來スベキ義ニ御座候處、其前ニ於テ圖ラズモ震災ニ遭ヒテ賣買ノ目的物消滅致候如キ場合有之候ハヾ、此物件ノ消滅ニ於ケル損害何レニ歸スベキ、或ハ未ダ單ニ拂下ノ許可ヲ得タル迄ニシテ所有權ナキ者ノ引受ニ屬スベキカ、私ニ於テハ乍恐多言ヲ費サズシテ其官林ノ所有者タル官府ノ御損失タル事ヲ相疑不申候。若シ假令代金ハ完納セザルモ所有權ハ移ラザルモ、假初ニモ今日賣買ノ契約ヲ爲サバ其契約ノ事ニ依リ將來所有者タラントシタル人ニ於テ一切ノ危險ヲ負フノ義務直ニ相生ジ候ト申サバ、誰カ納得可仕哉。斯樣ノ義申上候儀重々恐入候得共、私ノ今日ノ場合ハ卽チ此借家人ノ地位ニ居リ候者ニ有之候ニ付、御省御所有ノ財產ニ非常ノ天災有之候義ニ候ハヾ、飽マデ其本主タル御省ヘ縋リ可奉外無之仕合ニ御座候。尙ホ私ヨリ既ニ上納仕候事有之候得共、御省ニ於テハ決シテ御取上相成間敷ト奉存候。是レ則チ既納ノ年賦金ト雖ドモ私ノ權利トテハ無之、一旦背約ノ實アレバ拜借料トシテ御沒收可相成筋合ニ付、私儀ハ當ニ物件ニ對シテ幾分ノ所有權ナキノミナラズ、其既納ノ年賦金ニ對シテモ何等ノ所有權無之モノニ御座候。然ルニ所有者ノ外何人ト雖ドモ其損失ヲ蒙ルベキ謂レナキ天災マデモ私ノ負擔ニ歸スベシトノ道理千思萬考致候テモ私ニハ了解仕兼候。

以上ノ理由ニ據リ今般出願仕候儀ハ全ク御命令書ヲ以テ規スベキ常事以外ノ天災タルコト又天災ハ拜借人タル私ニ於テ負擔スベキ道理無之ハ瞭然ノ儀ニ御座候ニ付、御省ニ於テ實情御憐察ノ上、

拜借人ガ最初豫算仕候ノミナラズ御省ニ於テモ永久利益ノ繼續スベキ御見込ヲ以テ組立テラレ候根元ニ遡リ、今後御契約ヲ新ニシ更ニ御命令書御下付相成度偏ニ奉歎願候。試ミニ左ニ情願ノ二三點ヲ奉申上候ニ付其一ヲ御採擇被成下候ハヾ難有仕合ニ奉存候。

第一　勝立坑廢坑ト相成候ニ付御省ニ於テ新坑ヲ開カレ勝立坑ノ代リトシテ御下付相成度事。

但新坑出炭マデノ間ハ勝立坑ノ平均產額（明治二十二年一月一日御引渡ヲ相受ケ候ヨリ同年六月三十日マデ）ニ對シ私ガ當然ニ得ラルベキ利益ヲ明治二十二年七月ヨリ新坑竣功マデノ出炭額ニ乘ジ御下付相成度、且新坑出炭額勝立坑ノ平均出炭額ヨリ少キトキハ年賦金未濟ノ年限中ハ御省ヨリ別ニ時價ニ準ジ御補償相成度。

第二　勝立坑ハ將來最モ多望ノ場所ニ有之、其價額ハ少クトモ全體ノ三分ノ一以上ニ相當リ候處一旦天災ニ由リ廢坑ニ相成候ニ付、同坑ノ代金ヲ百五十萬圓ト積算シ、總代價金四百五十五萬五千圓中ヨリ控除セラレ、更ニ總代價金ヲ三百〇五萬五千圓ト定メ、最前御下渡相成候御命令書ノ年限內ニ漸次賦納可仕コトニ相改メラレ度事。

第三　御省ニ於テ新坑御起業難相成又總代價ヨリ御減却難相成節ハ本年分ヨリ年賦金上納ノ義十五ケ年間御据置相成度事。

但十六ケ年目ヨリ以后ハ御命令書ノ割合年限ヲ以テ引續キ無相違上納可仕候。

右三點ノ內何レヲ御採用相成候トモ素ヨリ私ヨリ異論ケ間敷儀可申出筋合ニ無之、唯ダ實情ヲ具シ非常ノ天災ヲ救フニ非常ノ御特典ヲ以テセラレンコトヲ懇切奉歎願候儀ニ御座候。既ニ昨年八月四日前文ノ趣歎願仕置候處（別紙丙號）其後何等ノ御沙汰無之難澁至極罷在候間、何卒格別ノ御詮議ヲ以テ速ニ御仁慈ノ御沙汰被下置候樣俯伏奉歎願候也。

明治廿四年十一月廿六日

東京市日本橋區駿河町四番地
三井組總代三井高喜代理
西邑虎四郎

大藏大臣伯爵　松方正義殿

（命令書寫）

當省管理筑後國三池郡三池鑛山ノ營業權竝付屬資產今般東京府下京橋區銀座二丁目拾番地平民佐々木八郎ヘ年賦ヲ以テ拂下グルニ付本年四月當省第五十一號及第五十四號告示ニ據リ左ノ條々ヲ命令ス。

三井組西村虎四郎三池鑛山ノ內勝立坑非常天災ノ爲メ廢坑ト相成候ニ付歎願

第一條　三池鑛山ノ營業權竝地所建物船舶諸機械備品其他付屬一切ノ營造物ハ明治二十二年一月一日ノ現形ヲ以テ金四百五十五萬五千圓ニテ拂下グルモノトス。

第二條　前條拂下代金四百五十五萬五千圓ハ無利足十五ケ年賦トシ左ノ割合ヲ以テ上納スベシ。

一金貳拾萬圓　本年月日限證據金トシテ上納スベシ。

一金八拾萬圓　本年十二月十五日限第一回年賦金トシテ上納スベシ。

一金三百五拾五萬五千圓

內

金三百四拾貳萬八千貳拾八圓　明治廿二年六月ヨリ同三十五年六月迄一回金拾貳萬六千九百六拾四圓宛毎年六月十五日十二月十五日限上納スベシ。

金拾貳萬六千九百七拾貳圓　明治三十五年十二月十五日限上納スベシ

第三條　礦山竝付屬物件ハ第二條ニ揭グル證據金及第一回年賦金ノ上納ヲ了シタル上、明治二十二年一月一日ヨリ引渡ニ着手スベシ。

第四條　第二條ニ揭グル第一回年賦金ヲ期限內ニ上納セザルトキハ、此命令ハ總テ無效トナシ、直ニ拂下ヲ取消スベシ。但此場合ニ於テハ既納ノ證據金ハ之ヲ返付セズ。

第五條　礦山竝附屬物件ハ第三條ノ手續ヲ以テ引渡スト雖ドモ、拂下代金ノ完納ヲ了セザル內ハ貸下トシ、營業權竝付屬物件ノ所有權ハ付與セザルモノトス。

第六條　拂下代金ハ他日何等ノ事情アルモ延期又ハ減額又ハ利引一時上納等其他一切ノ變更ヲ請願スルヲ許サズ。

第七條　年賦金ノ納期ヲ經過シ保證人ニ於テモ其義務ヲ果サズ半年以上延滯スルトキハ、既納ノ證據金及年賦金ハ礦山竝附屬物件ノ貸下料ト見做シ之ヲ返付セズ。直ニ其營業ヲ差止メ、付屬物件ハ悉皆之ヲ取上グベシ。若シ紛失又ハ毀損ノ物件アルトキハ相當代價ヲ辨償セシムベシ。

第八條　拂下代金完納以前ハ一ケ年ヲ二期ニ分チ一期中營業ノ成績ヲ毎年二月十五日八月十五日限當省ヘ報告スベシ。

第九條　拂下代金完納以前ハ當省ヨリ臨時監查員ヲ派遣シ、營業ノ實況及付屬物件ノ現狀ヲ檢查セシムベシ。且監查員ヨリ要求アルトキハ何等ノ帳簿物件トイヘドモ其閱覽ヲ拒ムヲ得ズ。

第十條　鑛山營業權竝附屬物件ハ拂下代金完納以前之ヲ轉貸シ若クハ鑛山事業以外ニ之ヲ使用スルヲ許サズ、若シ之ニ違背シ爲メニ損害ヲ生ジタル時ハ之ヲ償ハシムベシ。

第十一條　三池鑛山局ニ貯藏スル物品及ビ既ニ採權シタル未販賣ノ石炭ハ第一條ニ揭グル拂下代金三井組西村虎四郎三池鑛山ノ內勝立坑非常天災ノ爲メ廢坑ト相成候ニ付歎願　二八一

ノ外ニシテ拂受人ハ該局ノ帳簿ニ記載シアル運送費及其他ノ實費ヲ鑛山引渡ノ際一時ニ上納シ其拂下ヲ受クベシ。若シ之ヲ履行セザルトキハ鑛山竝附屬物件ノ引渡ヲ中止スベシ。

第十二條　三池鑛山山局ニ於テ是迄日本郵船會社及ビ三井物産會社ト締結シタル該鑛山産炭運送ノ事業ニ關スル契約ハ總テ拂下人ニ於テ繼續スベシ。

第十三條　拂下代金完納以前採掘石炭販賣等ニ關シ期限ヲ定メザル契約又ハ二ケ年以上ノ期限ヲ定メ契約ヲ結バントスルトキハ該謄本ヲ添ヘ當省ヘ申出認可ヲ請クベシ。若シ之ニ違背シタルトキハ其契約ヲ取消サシムベシ。依テ生ジタル損害ハ總テ拂受人ニ於テ負擔スベシ。

第十四條　鑛山附屬物件ニ係ル一切ノ修理ハ總テ拂受人ニ於テ負擔スベシ。若シ其修理ヲ怠リ爲メニ損害ヲ來シタルトキハ、之ヲ償ハシメタル上更ニ修理ヲ爲サシムベシ。

第十五條　拂下代金完納以前鑛山附屬物件ノ模樣替變換ヲ要スルモノハ該物件ノ種類員數ヲ明記シ、圖面ヲ添ヘ豫メ當省ヘ願出ノ上其許可ヲ請フベシ。若シ之ニ違背シテ模樣替變換ヲ爲シタルトキハ原形ニ復サシメ若クハ損害ヲ償ハシムベシ。

第十六條　拂下代金完納以前鑛山附屬ノ物件ヲ亡失若クハ毀損シタルトキハ、直ニ相當ノ代品ヲ補完シ該物件ノ種類員數及其事由ヲ明記シ三十日內ニ屆出ベシ。若シ之ニ違背シタルトキハ第十四條ノ例ニ依リ處分スベシ。

第十七條　拂下代金完納以前鑛山附屬地ノ樹本ハ一切伐採スルヲ許サズ。但坑業上妨害トナルベキモノハ其種類員數ヲ明記シ當省ヘ申出許可ヲ請フベシ。若シ之ニ違背シタルトキハ相當ノ代價ヲ辨償セシムベシ。

第十八條　拂下代金完納以前拂受人ニ於テ自費ヲ以テ建物ヲ建設シタルトキハ該建物及位置ノ圖面ヲ添ヘ其旨屆出ベシ。

第十九條　拂下代金完納以前日本坑法及坑業ニ關スル法令規則ニ抵觸ノ廉アリト視認ルトキハ直ニ矯正ヲ命ズベシ。

第二十條　拂下代金完納ノ上ハ日本坑法ニ據リ借區ヲ引受クベシ。

第二十一條　拂受人ニ於テ前各條ニ違背シ、又ハ前各條ノ事項ヲ履行スルコトヲ得ザルトキハ、其何等ノ事情ニ起因スルヲ問ハズ、保證人ニ於テ總テ其義務ヲ負擔スベシ。

右之條々堅ク遵守スベシ。

年　月　日

大藏大臣

三井組西村虎四郎三池鑛山ノ內勝立坑非常天災ノ爲メ廢坑ト相成候ニ付救願　二八三

私儀先般落札御拂下相受代金完納ニ至ル迄ノ間御貸下ノ御契約ヲ以テ御引渡相受居候三池鑛山ノ義、震災ノ爲メ廢坑ト相成候勝立坑損害御補償被成下度旨、一昨廿三年八月中歎願仕候得共何等ノ御沙汰無之ニ付、昨廿四年十一月中更ニ其事情ヲ縷述シ歎願仕候處、爾來未ダ御聽許ノ思命ニ接セズ、日夜心痛罷在候。然ルニ頃日御召喚ニヨリ出頭仕候處、此度御省ノ御都合ニヨリ年賦金完納以前、三池鑛山ノ借區權御付與可相成趣御口達ヲ蒙リ難有仕合ニ奉存候得共、熟々本鑛山御拂下當時ノ御趣意ヲ考フルニ、本鑛山ハ御拂下規則第九條ノ期限即チ十五ケ年ヲ經過シタル後、始メテ其借區權ヲ私ニ御付與可相成義ハ廿一年御省告示五十一號ヲ以テ廣ク御公告相成候ノミナラズ、右同樣ノ義御命令書第五條ニ於テモ明ニ御示定相成候ニ付私ニ於テ右ノ御趣旨ヲ奉戴シ御請仕候義ニ有之候。右ノ如ク借區權ノ御付與ヲ十五ケ年後ニ御定相成候義ハ、御省ノ御命令ニ出タル事ニハ御座候得共、本件ハ私ニ於テモ深ク利害ノアル所ヲ熟考御請仕候義ニ有之、其理由ハ年賦金完納以前全然借區權御付與相成候トキハ、之ニ伴フ一切ノ損害ハ勿論借區稅納付ノ義務モ之ヲ負擔セザルヲ得ザル義ニ有之、左候テハ從來ノ約束以外ニ過重ノ義務ヲ負擔仕候樣相成、殊ニ本年六月以降ハ鑛業條例御實施相成、現今ノ借區稅ヨリモ尙ホ多額ノ納稅義務ヲ負擔候樣相成候ニ付　御命令書ノ期限前借區權御付與相成候テハ、私ニ於テ莫大ノ不利益ヲ生ジ候義ニ御座候。且又本件御拂下ノ事タル素ト御命令ニ對シ私ヨリ請求書差出置候義ニ御座候得ハ。申迄モ無御座候得共、双方ノ合意ヲ以テ成立シタル契約ニ基キ候モノニ有之候得バ、今更御省ノ御便宜ノミニ因リテ過重ノ義務ヲ負ハセラレ候義ハ乍恐御命令書ノ精神ニ違ヒ、私ニ於テ迷惑不勘候。依テ前述御內意ノ事柄ハ何分私ニ於テ御受難仕旨口頭ヲ以テ御答申上候次第ニ有之候。尤モ勝立坑歎願ノ義一日モ速ニ御聽許ノ恩命ヲ蒙ラズ候テハ營業上益々困難ニ陷リ候ニ付、出格ノ御詮議ヲ以テ本年ヨリ向フ十七ケ年間年賦金上納ノ義御據置被成下候ハヾ、小ナカラザル納稅額ニハ御座候得共、右恩命ニ報ユル爲メ私ニ於テ其納稅義務負擔可仕候間、何卒目下ノ事情御洞察被下前述歎願ノ通御聽許被成下度此段奉哀願候也。

明治廿五年四月廿二日

東京市日本橋區駿河町四番地
三井組總代三井高喜代理
西邑虎四郎

大藏大臣伯爵松方正義殿

（第八七三號）

三井組西村虎四郎三池鑛山ノ內勝立坑非常天災ノ爲メ廢坑ト相成候ニ付歎願

三池鑛山拂受人三井組總代

## 三井高喜

明治廿三年法律第八十七號鑛業條例本年六月一日ヨリ實施ニ付、明治二十一年八月十八日付三池鑛山拂下命令書第五條第二十條ニ拘ハラズ、今般該鑛山ノ營業權ヲ相移シ候條、該條例ノ實施ニ先チ日本坑法ニ依リ速ニ借區ノ許可ヲ受ケ、該條例實施ノ日ニ至リ差支無之樣豫メ準備スベシ。

但拂下代金ノ完納ヲ了セザル間ハ借區券（鑛業條例實施ノ上ハ採掘權）ヲ大藏省ニ書入ベシ。

明治二十五年四月

大藏大臣伯爵　松方正義

來年六月一日ヨリ鑛業條例御實施相成候ニ付、三池鑛山御拂下御命令書第五條第二十條ニ拘ハラズ、今般右鑛山ノ營業權私ヘ御移シ被下、尙ホ御拂下代金完納ヲ了セザル間ハ借區券ヲ御省ヘ可書入旨一昨廿三日第八七三號ヲ以テ御達ノ趣拜誦仕候得共、本件ニ付テハ既ニ御口達ノ次第モ御座候ニ付、右ニ對シ去ル廿二日哀願書差出置候通リ、御命令書ノ期限ニ先チ借區券御付與相成候テハ、私ニ於テ其損害不尠誠ニ迷惑ノ至ニ御座候間何分御請難仕候。尤モ右哀願書ニ申述置候通リ、年賦金上納ノ義向フ十七ケ年間御据置被成下候ハヾ、今般御達ノ趣謹デ御請可仕候。其委細ハ右哀願書ニ陳述仕置候ニ付、重ネテ玆ニ不申述候得共、何卒右ノ事情篤ト御賢察被成下速カニ歎願ノ義御聽許被成下度此段奉願候也。

明治廿五年四月廿五日

東京市日本橋區駿河町四番地
三井組總代三井高喜代理
西邑虎四郎

## 大藏大臣伯爵　松方正義殿

---

大藏省指令第九〇五號

三井組總代三井高喜代人
西邑虎四郎

明治廿五年四月廿二日竝同月廿五日付ヲ以テ三池礦山營業權付與竝勝立坑ノ件哀願ノ趣左ノ通心得ベシ。

一、勝立坑ニ關スル件ハ追テ何分ノ義指令スベシ。

三井組西村虎四郎三池鑛山ノ内勝立坑非常天災ノ爲メ廢坑ト相成候ニ付歎願

一、營業權付與ニ關スル件ハ本月廿三日第八七三號達ノ通心得ベシ。

但願書中當省ノ都合ニヨリ年賦金完納前借區權付與云々トアルモ、決シテ當省ノ都合ヲ以テ營業權ヲ付與スルモノニ無之、鑛業條例ノ結果トシテ失フベキ拂受人ノ權利ヲ保全セシメン爲メ相達シタル義ト心得ベシ。

明治廿五年四月廿八日

大藏大臣伯爵　松方正義

---

私儀御拂下代金完納以前御貸下ノ譯ヲ以テ御引渡相受居候三池礦山ノ營業權、今般御命令書ノ期限ニ拘ハラズ私ニ御付與被成下候趣御達ヲ蒙リ候ニ付、先日縷々其事情ヲ陳述シ出願仕候處右ハ鑛業條例ノ結果トシテ失フベキ拂受人ノ權利ヲ保全セシメンガ爲メ達シタル義ト心得ベキ旨御指令ヲ蒙リ候得共、抑本件ニ付テハ御命令書第五條第二十條ノ明文モ有之、私ニ於テ代金完納以前ハ全ク御貸下ノ御契約ヲ遵奉シ、營業罷在候次第ニ有之候。政府ニ於テモ右契約御更改被爲遊候義ハ相成間敷ト奉存候。暫ク契約上ノ權義如何ハ之ヲ擱クモ、其營業ノ實際ニ至リテハ今般御省ノ御指令ニ從ヒ、鑛業條例ニ依リ營業權御引受申候トキハ御命令書ノ範圍外ニ納稅ノ義務ヲ負擔スベキ義ト相成、私ニ於テ意外ノ損失ヲ被リ、當初代金完納以前御貸下ノ御契約ヲ以テ御引受申上居候從來ノ計畫ト齟齬シ、私ノ迷惑無此上次第ニ有之候。單ニ一方ヨリ考フルトキハ代金完納以前ニ營業權御付與可相成トノ事ニ有之候ヘバ、名義上ニ於テハ命令書以外ノ權利ヲ私ニ付與セラレ、私ノ爲メ利益ト可相成樣相見候得共、事實上ニ於テ命令書ノ範圍外ニ莫大ノ納稅義務ヲ負ヒ、私ニ於テ非常ノ損失ト可相成次第ニ付、折角ノ御乘命ニ候ヘドモ私ニ於テ從來ノ命令ヲ遵奉シ、代金完納前ハ御貸下ノ御契約ヲ以テ營業仕度奉存候。然レドモ鑛業條例御實施ノ爲メ從前ノ御命令書ヲバ、御變更可相成義政府ノ御便宜ニ有之候ヘバ、契約者相互ノ承諾ノ上之ニ對シ別段ノ補償ヲ給セラレ、或ハ其他ノ方法ヲ以テ御處置相成候ハ格別妄リニ私ヲシテ納稅ノ義務ヲ負擔セシメラルベキ筋ニ無之ト乍恐愚考仕候。加之ナラズ勝立坑曩キニ震災ノ爲メ廢坑ト相成莫大ノ損失ヲ被リ、非常ノ迷惑仕居、種々出願仕置候次第ニ有之今復タ意外ノ負擔ニ任ズベキ樣相成候テハ、當初御命令ヲ遵奉シ該礦山營業ノ爲ニ設備シタル計畫ハ一朝ニシテ瓦崩シ、今日ニ至ル迄莫大ノ資本ヲ投ジ候モノハ一夕ニシテ水泡ニ屬シ、殆ンド三井一家ノ存亡ニモ關シ候次第ニ有之候間、何卒前文ノ二件ニ對シ最前出願仕置候通御拂下代金年賦金ヲ本年ヨリ向十七ケ年間御据置被成下度奉願候。萬々一本願御聽許不被下シテ營業權御付與ヲ命ゼラルヽモ斷然私ニ於テ御請仕兼候。何卒前述ノ情理御洞察速ニ願意御聞屆被成下度此段奉願候也。

三井組西村虎四郎三池鑛山ノ內勝立坑非常天災ノ爲メ廢坑ト相成候ニ付歎願　二八九

明治廿五年五月二十三日

# 大藏大臣伯爵　松方正義殿

東京市日本橋區駿河町四番地
三井高喜代理
西邑虎四郎

大藏省指令第一一二號

三池礦山拂受人三井組總代三井高喜代理
西邑虎四郎

明治二十五年五月二十三日付願三池礦山營業權付與ノ件ハ同年四月二十三日第八七三號達及同月二十八日第九〇五號指令ノ通心得ベシ。

但營業權付與ノ件ハ政府ノ都合上若クハ便宜上相達シタルモノノ如ク願書中申立ツルモ、右ニ付テハ本年四月廿八日第九〇五號指令ノ通、決シテ政府ノ都合上ヨリ相達シタルモノニアラズシテ、鑛業條例實施ノ後拂受人ノ權利ヲ全カラシメ、以テ當初拂下ノ趣旨ヲ貫徹スル爲ニ有之又營業權利引受ノ上ハ納稅義務ヲ負擔セザルベカラザルニ至リ迷惑ナル旨申立ツルモ、右ハ法律ノ命ズル義務ニシテ政府ガ妄リニ之ヲ負擔セシムルモノニアラザル義ト心得ベシ。

明治二十五年五月二十八日

大藏大臣伯爵　松方正義

私儀去ル明治廿一年四月御省告示第五十一號及第五十四號竝三池炭礦收支概算書ニ基キ、將來營業上ノ見込相立其代金四百五十五萬五千圓ニテ落札御拂下相受ケ、右御命令書相受仕特ニ其第五條ニ於テ拂下代金ノ完納ヲ了セザル內ハ貸下トシ、營業權竝附屬物件ノ所有權ヲ付與セザル旨御契約仕候ノミナラズ、同第二十條ニ於テモ拂下代金完納ノ上ハ日本坑法ニヨリ借區ヲ引受クベキ旨御約束仕候ニ付、私ニ於テハ厚ク其御趣意ヲ奉戴シ、年賦金完納前ハ拜借人ノ資格ヲ以テ營業仕其期限滿了代金完納ノ節初メテ全ク營業權ヲ付與セラレ候義ト確信罷在候處、此度右御命令書第五條及第二十條ニ拘ハラズ、私ニ營業權御付與被成下候趣突然御達ヲ蒙リ誠ニ意外ノ事ニ奉存候。此事タル御命令書ノ範圍ヲ超越シテ差向キ私ニ分外ノ納稅義務ヲ負擔セシメラレ、之ガ爲ニ當初ノ見込大ニ齟齬シ、所謂約因ニ相違ヲ來シ候義ト奉存候ニ付、去ル四月二十二日同廿五日ノ兩日ヲ以テ其事情

三井組西村虎四郎三池鑛山ノ內勝立坑非常天災ノ爲メ廢坑ト相成候ニ付歎願

ヲ陳述シ出願仕候處、同月廿八日年賦金完納以前營業權ヲ付與スルハ決シテ當省ノ都合ニ出タル義ニ無之、鑛業條例ノ結果トシテ失フベキ拂受人ノ權利ヲ保全セシメンガ爲メ達シタル義ト心得ベキ旨御指令ヲ蒙リ候ニ付更ニ本月廿三日付ヲ以テ御命令書ノ變更ハ双方ノ承諾ヲ必要トスル事、竝其變更ヲ行ハセラルヽニハ之ニ伴フテ生ズル損失ノ補償ヲ給セラルベキ事等委細出願仕置候間何分ノ御指令被成下候義ト奉存候處、再ビ一昨廿八日御省指令千百十二號ヲ以テ御達ノ趣モ有之、私ニ於テ敬承仕兼候得共、鑛業條例實施ノ期ハ既ニ明後日ニ差迫居候。此儘打過候時ハ他人ヨリ借區券ノ下附ヲ願出ベキヤモ難斗、萬一法律上ノ解釋ニ依リ從來何等ノ干繫モナキ第三者ノ出願ヲ聽許セラルヽガ如キアラバ、御省ハ勿論莫大ノ資金ヲ投ジ孜々經營仕居候私ニ於テモ、亦今日ノ因難ニ加フルニ更ニ一層ノ事端ヲ滋シ、實以容易ナラザル次第ニ陷リ可申、前途憂慮ニ不堪候ニ付、將來ノ紛爭ヲ未然ニ相防候爲ニハ兎モ角モ借區券出願ノ事ハ枉テ御省ノ垂命ニ從ヒ、其手續ヲ盡シ置候ヨリ外無之ト決心仕候。乍去假令此際借區券ノ御付與ヲ受クルモ納稅金額ノ負擔ハ勿論從來御省ノ御負擔ニ屬シタル所有者ノ負フベキ義務ハ、代金完納以前ハ當初御契約仕候通リ御省ニ於テ御負擔可相成筋ト乍恐愚考仕候ニ付、何分ノ御詮議可奉仰候ヘドモ、前述ノ事情ニ差迫居候ニ付此際三池礦山借區券下附之義本日農商務大臣ヘ出願仕置候間爲念右之次第申上置候。

上來陳述仕候通リノ次第ニ付借區券御引受上申候トモ之ガ爲メニ私ノ請求權ハ勿論勝立坑其他事項ニ關シ先頃中ヨリ出願仕候事項ハ私ニ於テ棄捐シタル義ニ無之候條、速ニ御聽許被成下度此段奉願候也。

明治廿五年五月三十日

東京市日本橋區駿河町四番地
三井組總代三井高喜代理
西邑虎四郎

大藏大臣伯爵　松方正義殿

---

第一三九四號

三池鑛山拂受人三井組總代三井高喜代理
西邑虎四郎

本年四月二十三日附第八七三號當省達ニ依リ三池鑛山借區券下付ノ義農商務大臣ヘ願出ノ趣本年五月三十日附ヲ以テ屆出ニ付該達但書ノ旨趣ニ基キ右採掘權書入ノ手續取運方ノ義官房第四課長ヨリ

三井組西村虎四郎三池鑛山ノ內勝立坑非常天災ノ爲メ廢坑ト相成候ニ付歎願

リ申談ノ件ニ對シ云々申出ノ趣モ有之候處、右ハ第八七三號達ノ旨趣ニ背馳スルモノニ付難聞屆候條至急書入ノ手續ヲ爲スベシ。

明治廿五年七月十六日

大藏大臣伯爵　松　方　正　義

三池鑛山採掘權至急書入ノ手續ヲナスベキ旨御達ノ趣敬承仕候得共、右ハ曩キニ借區券ノ御付與ヲ受ケ候節御省ヘ差出候書面ニ委細申述候通リ、其御付與ヲ受ケ候事ハ私ノ本意ニ出タル義ニ無之期日切迫ノ爲メ不得已枉ゲテ其事ノミ御垂命ニ從ヒ候義ニ付、書入ノ義ニ付テハ未ダ御受仕タル事無之候間、其手續履行仕候義務無之ト存候。尤モ右御受仕ラザルモノハ本件ハ御命令書ノ範圍外ニ涉ル義ニ付、之ヲ履行スレバ御命令書ノ變更ヲ承諾スルト同一ニ付、左候テハ當初御命令ノ御趣意ニモ背戻可仕ト奉存候間、何分御受難仕候此段答申仕候也。

明治廿五年七月二十日

三池鑛山拂受人三井組總代

三井高喜代理

大藏大臣伯爵　松　方　正　義　殿

西邑虎四郎

三井組西村虎四郎三池鑛山ノ內勝立坑非常天災ノ爲メ廢坑ト相成候ニ付歎願

# 産馬場ヲ設クル事



日本ニ産馬場ヲ設クル必要ハ則チ必要ナリ。然レドモ目下他ニ資本ヲ要スル事件夥多ナルヲ以テ、到底之ヲ第二流ニ置カザルヲ得ズ。而シテ奥州地方ハ從來牧馬業ヲ營ムノ地ナレバ、一個ノ種牡馬場ヲ彼ノ地ニ設クルハ當々ニ産馬場ノ如キ多額ノ資本ヲ藉ラザルノミナラズ、反テ必ズ大效益アリト信認セリ。駒場農學校教師「ヤンソン」氏ハ牧馬學ニ明達セル者ナリ。農商務省ハ教師職外更ニ該氏ヲ牧場顧問官ノ職ニ當ラシメバ其益ヲ得ル蓋シ鮮少ナラザルベシ。且ツ種牡馬場長ハ牧馬錬達ノ士ヲ撰擇セザレバ不可ナリ。念フニ元孛國騎兵士官ニシテ久シク獨國公使館ノ象胥ニ當ラレシ「フオン、オステン」氏ヲ其任ニ當ラレシメバ適當ナラン。同氏モ亦應サニ喜ビテ其任ニ當ルヲ辭セザルベシ。而シテ種牡馬場管理者ハ駒場農學校卒業獸醫ヲ以テ之ニ充ツルヲ可トス。何ントナレバ牧馬ノ術ニ精ク且ツ喜ビテ其職ニ從事スルニ非ザレバ牧馬方法ヲ奬勵スル能ハザレバナリ。其人物ノ適否ハ「ヤンソン」氏ヲシテ撰バシメバ其レ大差ナカランカ。其下僚ハ牧馬ニ熟練ナル騎兵士官兵卒ヲ以テ之ニ充ツ可シ。孛國産馬場ハ農商務省ノ直轄ニ係リ、其事務ハ通例牧馬ニ熟練ナル騎兵將官ヲ以テ之ヲ處辨セシム。目下孛國ニ於テ十五ノ種牡馬場ト三個ノ産馬場トアリ、種牡場ハ毎一州ニ之ヲ置キ各々其長アリ。是亦農商務省ノ管轄ニ係リ、種牡馬場長ハ獸醫又ハ騎兵士官ヲ以テ之ニ充テ其他役員モ亦騎兵ヨリ採用スルヲ例トス。種牡馬ヲ飼養シ、人民ノ請願ニ應ジテ之ヲ貸與シ、以テ馬類ヲ改良ス。其種牡馬數ハ總計二三千頭アリ。而シテ産馬場ハ必要ナル牡馬外ニ又六七百ノ牝馬ヲ飼養セリ。故ニ日本ニシテ牧馬場ヲ設ケントセバ宜ク孛國ノ組織ニ倣ヒテ之ヲ設立スベシ。然レドモ牧馬場ハ多數ノ資本ヲ要スル者ナレバ、先ヅ第一着ニ一個ノ種牡馬場ヲ設立シテ其當否ヲ試驗シ、以テ漸次ニ其歩ヲ進ムベシトス

# 長崎造船所貸渡條約書



工部省所管ノ長崎縣下肥前國彼杵郡浦上淵村字飽ノ浦郷同字岩瀬郷南添地同字岩瀬道郷北添地同字飽ノ浦郷同字岩瀬郷南添地同字岩瀬道郷北添地同字飽ノ浦郷波戸場脇同字飽ノ浦郷同字瀬ノ脇同戸町村字小管同字立神郷同字善光寺谷ニアル造船所有形ノ儘一式ヲ貸渡スニ付工部卿ノ命ヲ奉ジ工部大書記官林董ト、借受人郵便汽船三菱會社々長岩崎彌太郎トノ間ニ取結ノ條約如左。

第壹條

一、長崎縣下肥前國彼杵郡浦上淵村飽ノ浦郷同字岩瀬郷南添地同字岩瀬道郷北添地同字飽ノ浦郷波戸場脇同字飽ノ浦郷同字瀬ノ脇同字飽ノ浦郷同戸町村字小管同字立神郷同字善光寺谷造船所地所建物器械用具等別紙圖面及ビ目錄ノ通明治十七年七月七日ヨリ同四拾貳年七月七日迄滿貳拾五年間貸渡營業セシムル事。

第貳條

一、貸渡年限中該工場地所建物諸器械用具等ノ價格金四拾五萬九千圓ト假定シ、其貳拾分ノ壹乃チ貳萬貳千九百五拾圓ニ當ル公債證書ヲ保證トシテ借受人ヨリ差出シ之ヲ工部省ニ預リ置クベキ事。

第參條

一、同所ニ現在スル一切ノ製造需用品ハ貳拾ケ年賦ヲ以テ拂下グルニ付、借受人ニ於テハ右代金ヲ拾七年ヨリ三拾六ニ割合年々十二月二十日限工部省ヘ上納スベキ事。

第四條

一、貸渡年限中ハ同所引渡ノ日ヨリ該地所及ビ建物ニ係ル一切ノ費用ハ借受人ニ於テ負擔スベキ事。

第五條

一、貸渡年限中ハ同所引渡ノ日ヨリ地所建物諸器械用具等大小ノ修繕ハ一切借受人ニ於テ負擔スベキハ勿論、若シ借受人ノ不注意ヨリ地所頽敗潰崩セシメ、或ハ建物諸器械用具等毀損シ、或ハ紛失燒亡シタルモノアルトキハ借受人ニ於テ負擔ノ原形ニ復スベキ事。

但人力ノ防護スベカラザル非常ノ災害ニ遭遇シタル證跡判明セシトキハ、工部省ニ於テ詮議ノ上相當處出スル事アルベシ。

第六條

一、借用年限中諸器械用具等ノ使用ハ借受人ノ勝手タルベシト雖ドモ、之ヲ變換セントスルトキハ工部省ノ許可ヲ受クベキ事。

第七條

一、借受人營業ノ都合ニ依リ恣ニ地形建物等ヲ變換模樣換スルコトヲ許サズ。若シ本業經營ニ付必要ノ場合アルトキハ工部省ノ許可ヲ受クベキ事。

第八條

一、貸渡年限中ハ時々工部省ヨリ官員ヲ派出シ貸渡品ノ現況ヲ始メ一切事業ノ景況ヲ監査セシムベキ事。

第九條

一、貸渡年限中ハ毎年三月廿日九月廿日限リ、兩度前期營業ノ景況損益勘定ヲ工部省ヘ報告スベキ事。

第拾條

一、工部省ノ許可ヲ得ルニアラザレバ第壹條ニ掲グル物件ヲ他人ニ賣渡シ貸渡シ又ハ質入スベカラザル事。

第拾壹條

一、貸渡年限中ハ工部省ノ許可ヲ受クルニアラザレバ借受人ニ於テ勝手ニ該營業ヲ廢停スベカラザル事。



第拾貳條

一、借受人ニ於テ此條約ニ相違アルヲ認ムルトキハ、年限内ト雖ドモ同所一式ヲ返上セシメ且之ガタメ生ジタル損失等ハ工部省ニ於テ第貳條ノ公債證書ヲ公賣シ、其代價ヲ以テ直ニ之ニ充テ、若シ不足スルトキハ拜借人及ビ保證人ヨリ更ニ出金辨償セシムベキ事。

第拾三條

一、非常戰時ニ際シテハ借受人ノ都合ヲ問ハズ、卽時同所一切ノ返上ヲ命ズルカ、或ハ船舶及ビ器械等ノ新調修繕ヲ命ズル事アルベシ。借受人ニ於テ何等ノ事故アルモ違背スベカラザル事。但新調修繕等ヲ命ジタルトキハ其實費ヲ給スベシ。又返上ヲ命ジタルトキハ平和ノ後再ビ之ヲ貸渡スベシ。

第拾四條

一、借受人ニ於テ豫テ工部省ニ於テ同所將來擴張ノタメ計畫セル後ノ工事ヲ漸次着手起工スベキ事。

一、自飽ノ浦工場至立神船渠ノ間ニ堅固ナル一條ノ隧道ヲ鑿設シ兩間往復ヲ便ニスル事。

一、立神船渠前海底浚鑿ヲナシ船舶ノ出入ヲ自由ニスル事。

一、立神ノ船渠附近ノ地ニ漸次鋳船製造ノ器械ヲ備設シ以テ將來營業ヲ擴張スル事。

一、立神船渠左側石垣ヲ築造スル事。

第拾五條

一、第拾四條ノ備設ヲナスノ費用ハ第拾貳條第拾三條ノ場合ニアリテ返上ヲ命ズルモ一切給セザルモノトス。

第拾六條

一、第拾貳條第拾三條及ビ滿期解約ノ場合ニ於テ當初貸渡シタル建物器械用具等ヲ使用消滅シ、或ハ毀損シ又ハ員數ニ不足アルトキハ、借受人ハ工部省ヨリ命ズル所ノ相當代價ヲ以テ辨償スベキ事。

右ノ條款確守スル爲メ双方記名調印スルモノ也。

明治十七年六月二十四日

工部大書記官　林　董　㊞

郵便汽船三菱會社長

本人　岩崎彌太郎　㊞

證人　莊田平五郎　㊞



## 添條約書

一金八萬圓也

右者長崎造船所貸渡條約書第三條ニ定ル製造需用品賣渡代價當明治十七年ヨリ同三十六年迄乃チ貳拾ケ年ニ割合年々十二月二十日限リ入納可致因而右確守スル爲メ本條約書ニ添ヘ双方記名調印スル者也。

明治十七年七月廿八日

工部大書記官　林　董　㊞

郵便汽船三菱會社長

本人　岩崎彌太郎　㊞

證人　莊田平五郎　㊞

十八年三月三十日
甲令第四一一號

弊社長岩崎彌太郎儀先般病死候ニ付私儀社長ノ任相續仕候就テハ是迄御命令ノ事柄ハ都テ私負擔

御用相勤可申候間此段御屆仕候也

明治十八年三月二十九日

郵便汽船三菱會社長

岩崎彌之助 印

工部卿伯爵 佐々木高行殿



# 銀行報告計表略解

原表八九十十一十二月分凡五枚アレ𪜈其勘定較相似タルヲ以テ八九十十一月ノ四枚ヲ略シ十二月ノ分ヲ存シテ其要ヲ示ス。

## 第一書式　銀行本店毎月實際報告

此表ハ本店毎月ノ貸借損益請渡等一切ノ事務ニ付景況ヲ表スル者ニシテ借方トアル左ノ面ハ都テ本店ニ請取タルモノ及ビ其所有物ヲ記セル者ナリ。貸方トアル右ノ面ハ都テ本店ヨリ拂出シタル者及ビ他ヘ貸タル者ナリ。兩方共金額ノ桁ハ唯内譯ノミヲ書シ總計ノ桁ハ其惣計及び内譯ナキ者ノ高ヲ記セル者ニシテ、貸方合計ノ下ニ差引有高ヲ掲グルハ下端比較總計ニ符合セシメンガ爲メ、摘要ノ桁横線ヲ引者ハ實際事務ノ大綱ニシテ其細目ト明瞭ニ識別センガ爲ナリ以下之ニ倣フ。

原表ハ第三書式等四書式ノ混合表ナレ𪜈今本店ト各支店トヲ區分シ一表之中ニ

## 第二書式　銀行半季實際報告

此表ハ銀行本店枝店總體ノ資産權利ト負債義務トヲ分記スル者ニシテ借方ノ面ハ現在銀行ニ有スル者及ビ結局銀行ノ所有トナルベキ者、貸方ノ面ハ都テ他方ヘ拂フ可キモノナリ。此表貸借ノ序ヲ下ス所以ハ摘要ノ部ヲ主ト定メタル者ニシテ假令バ借方諸抵當公債證書ハ銀行ヨリ借タル者

ト見做シ貸方株金ハ銀行ヘ貸タル者ト見ナセバナリ。

合載シテ第三第四書式ヲ省ケリ。

## 第三書式　銀行本店半季實際報告

此表ハ本店ノミノ總勘定ヲ顯ス者ニシテ記入方法第二書式ト異ナルヿナシ。唯此表ニハ本店枝店爲換ノ貸借其他取引ヲモ登記スルノ差ナリ。

之ヲ略ス註上ニ見ヘタリ。

## 第四書式　銀行各出店半季報告

此表ハ各枝店ノ總勘定ヲ顯スモノニシテ本店竝ニ他枝店ノ取引ヲ記セル者ナリ

之ヲ略ス註上ニ見ヘタリ。

## 第五書式　銀行半季利益金割合報告

此表ハ甲乙二葉ニ分ケ共ニ半季惣體ノ損益ヲ表スル者ニシテ甲ハ本店枝店ノ損益ヲ分記シ乙ハ之ヲ合載スル而已ニテ記入方法ニ葉異ナルヿナシ。貸方利益ノ總計ヨリ借方諸入費利息拂損失等ノ總計ヲ減ケバ差引殘高純益トナル此純益ハ都テ別段積金又ハ割賦等ニ用フベキ者ナレバ其總計及ビ內譯ヲ借方ノ面ニ分記シ又貸方ヘ揭ゲテ比較總計ヲ顯スナリ。

但シ乙ノ方ヘハ別段純益ノ總計ヲ顯サス故ニ貸方ヘモ記入セザルナリ。

原表ハ甲乙二葉アレドモ大同小異ナルヲ以テ甲ヲ存シ乙ヲ略ス。



表中〃ヲ用フル者ハ同ノ序ノ符號ニシテ假令ハ本店役員月給旅費ノ下ニ〃〃諸雜費トアルハ本店諸雜費ト云意也又7ノ印ハ空白ノ所ヲ塡メテ以テ比較總計ヲ見ルニ便ナラシメンガ爲ナリ。

## 第六書式　銀行半季平均高報告

此表ハ毎月及ビ半季々々出納ノ平均ヲ表スル者ニシテ一月間毎日多少ノ出納ヲ加算シ三十若クハ三十一〔大ノ月ナレバ〕ヲ以テ之ヲ除シ一月間ノ平均ヲ得又半季六ケ月ノ平均高ヲ加算シ六ヲ以テ之ヲ除シ半季ノ平均高ヲ得タル者ナリ。

此表第六書式半季ト題セル部ト同シキヲ以テ之ヲ略ス。

## 第七書式　銀行年中平均高報告

此表ハ上下半季及ビ一年間ノ平均ヲ表スル者ニシテ既ニ第六書式ニ於テ得タル二半季ノ平均高ヲ加算シ二ヲ以テ除シ得タル者ナリ

但シ明治六年ハ七月創業ノ故ヲ以テ一年ノ平均ヲ顯サズ唯下半季ノ平均高ヲ揭グル而已

## 第八書式　銀行株主姓名表

此表ハ株主ノ姓名住所株數及ビ其現價ヲ顯ハス而已ナリ。

此表ハ作年寫眞ヲ以テ示シタル者ト同ジキヲ

以テ今之ヲ略ス。

## 式外第一　銀行役員等級一覽表

此表ハ本店枝店共上頭取取締ヨリ下小供小使ニ至ルマデ等ヲ分テ之ヲ載ス下端總計ハ本店及各枝店ノ總員ヲ顯ハシ右端ノ總計ハ等級總計ヲ顯スモノナリ。

此表ハ勘定モ些少ニシテ格別要用ナラザルニヨリ今之ヲ略ス。

## 式外第二　銀行雜費月表

此表ハ毎月賄方ニ於テ拂出シタル雜費ノ內譯ニシテ定式臨時ヲ分ケ明細ニ記入セシ者ナリ。



# 內外用達會社規則書

紀元二千五百三十三年十月開業

## 內外用達會社前途標

第一　亞細亞洲之商法ハ現物引替之賣買ニシテ品物運輸形替等甚ダ遲滯ス是ニ依テ品物高價ニシテ商法盛大ナル事ヲ得ス內外之通商從テ衰耗ス是レ商法ノ立ザル所以也今此ノ用達會社其間ニ中立シ名義正律ヲ以テ通商ヲ盛大セシムベシ。

第二　通商ハ其國內之物品ヲ博見シテ言語度量衡之相違ヲ了解セザル時ハ雙方之利益少ナカルベシ今ヤ用達會社是ニ通ジテ賣買之密法ヲ補佐スベシ。

第三　諸品賣買ニ付無益之勞費アレバ利益少クシテ物價從テ高直ナリ故ニ用達會社是等之煩冗ヲ省キ賣買輕便ニシテ人々ニ大利ヲ得セシムベシ。

第四　商賣ハ事物變化運輸出入之多少ニ依テ諸處盛衰アレバ其起ル處ニ於テ日夜是ヲ算視セズンバ有ベカラズ依テ用達會社枝店ヲ大坂長崎英佛米都及び其他ニ分置シ諸所之事情物品ヲ博見シ內外

人民ノ諸務ニ當ラバ用達會社之利益而已ナラズ諸民之便利モ亦大ナラン。

第五　巨商ニ大利有リ小商ニ小利有ル譯ニテ自已固陋之小商ハ利甚ダ少シ又他ヲ利スルニ至ラズ依テ會社之株割ヲ小ニシ貴賤ヲ問ズ此商法ニ基キ規律ヲ嚴ニシ數百人合併智力ヲ廣合シ前條ノ目途ニ進歩セバ內外人民之便利ヲ增シ通商利國之數件擧テ言フカラズ。

## 內外用達會社商務

第一　社名ヲ內外用達會社ト號ス。

第二　元金拾萬圓ヲ一萬株ニ割リ一株拾圓ト定ムル事。

第三　本社ヲ東京ニ置ク事。

第四　依便宜內外御條約之有ル諸國ニ枝店或ハ名代店ヲ置ク事。

### 通信部

一、書帳電信類ヲ飜譯シ或ハ郵便役所ニ依テ夫々內外諸國ヘ送屆或ハ受屆。

二、條約書新聞誌書物類飜譯、

三、訴訟賣買等ニ付通辨、

### 運輸部

四、內外諸會社之蒸氣車竝ニ蒸氣船切手賣捌

五、荷物藏入

六、內外諸會社ニ依テ荷物類ヲ內外諸國ヘ受屆或ハ送屆

七、內外諸會社ニ依テ荷物家屋海上火難人命請合

### 貨幣部

八、外國諸金銀兩替

九、內外諸銀行ヘ預ケ金等諸事之世話

十、內外諸銀行之世界爲替手形類賣買

### 依賴部

十一、內外諸品見本取置多小ニ不限賣買

十二、內外諸品現金誂引受

## 社則

常例支配方

商社大會法則

## 第一條

左ニ記スル處之權力ハ商社大會ニ於テ配行スベシ

イ、社名ヲ改革スル事

但シ政府之免許ヲ受ベキ事

ロ、社則ヲ改メ或ハ變革スル事

ハ、社元金ヲ增減スル事

ニ、元株割方ヲ增減スル事

ホ、利益分配之事

ヘ、會社ニ屬スル品物ヲ賣拂ヒ或ハ質物ヲ出シ借金ヲスル事

ト、社則ニ順シ諸商會之株ヲ買入ル事

チ、會社商法之中ヲ他人ニ賣或ハ讓ル事

リ、會社大會ニ於テ定議シタル社則等ヲ變改スル事

ヌ、諸勘定書ヲ株主或ハ他ノ金主等ニ見分セシムルノ規則ヲ定ル事

ル、時々支配人之數ヲ增減シ又其支配人ハ如何樣ナル規則ヲ以テ進退スベキ事

ヲ、支配人ヲ役座ヨリ進退セシムル事



ワ、支配人ヲ命シ職務分課セシムル事

カ、支配人之月給ヲ定ムル事

ヨ、中立勘定役ヲ選ミ其月給ヲ定メ又其人之他出退役之時ハ他人ヲ撰ム事

會社同意之上商法ヲ止ル時ハ如左

タ、止商

レ、始末方ヲ引受ル役人ヲ撰フ事

ソ、始末方役人他出退出之節ハ代ヲ撰フ事

ツ、止商之目途ニ依テ會社所持之品物ヲ賣出ス事

ネ、商社株金之可呼集ヲ呼集メ社内外諸勘定之事

ナ、他ノ商社ニ有ル株ヲ引取金拂ヒ之處ニ拂ヒ或ハ其株ヲ他ニ賣事

ラ、其外株主ナラデハ難決事務或ハ於法度免許シ有ル處之權力丈ケ施行スベシ

## 第二條

右ニ認ムル處之「イロ」ヨリ「ナラ」印ノ社權ハ商社支配人之法則ニ從ヒ會議ヲ設ルニ依テ施行セラルヽ事。

## 第三條

右之大會ヲ呼テ大常會ト號シ其大會ニ於テ定ムル次ノ日ニ施行スル會モ大常會ト稱スル也。

第　四　條

第一之大會ハ毎年第一月十五日タルベシ。

第　五　條

支配人ハ何時ニテモ社事ニ付大會ヲ呼ブベシ又株主之數少シトモ五分之一ヨリ會議ヲ願望スレバ支配人是ヲ受ケテ大會ヲ設クベシ是ノ會ヲシテ非常會ト稱スル也。

第　六　條

支配人ハ其願望書ヲ受ケ直ニ非常會ヲ設クベシ若シ支配人其願望書受取日ヨリ二十一日延引スル時ハ其願望ヲ爲ス規定人數而已ニテ非常會ヲ施行スベシ。

大常會始末之事

第　七　條

支配人ハ規紙ヲ以テ七日前ニ會スル場所月日刻限且又其商務ノ件々ヲ認メ株主ニ布告スベシ。

第　八　條

株主其觸書ヲ不受シテ株主全數來會セズト雖モ其會ヲ止ムル事ナシ。

第　九　條

會議ノ節定數之株主集會無キ時ハ商務取扱フベカラズ其定數ヲ明算スルノ規則左之如シ譬ハ全社株主之數十人ニ不過時ハ其定數五人也若シ十人ヲ過レバ十人毎ニ一人ヲ加フベシ。

第　十　條

若シ定限シタル時刻ヨリ一時間後ニ其定數之株主集會セザル時ハ其日延引トシテ其次之一週中ノ同日ニ再會スベシ又其次之集會ニ定數不會之節モ前律ニ順スベシ。

第十一條

社頭ハ會議之節議長タルベシ。

第十二條

若シ議長會議之刻限ヨリ三十分以上着座遲延スル時ハ會中ヨリ相當之者ヲ撰ビ議長ト爲スベシ。

第十三條

議長ハ集會之許可ヲ受ケ會議ヲ延引スル事有ト雖モ其後日ニ議ス商務ハ前日延引シタル商務ナルベシ。

第十四條

大會ニ於テ株主五人以上否ノ發言無キ時ハ兼テ定ムル處之助言數ニ不係議長ヨリ議定スル處ヲ會

議扣帳竝ニ仔細帳ニ認メ入ルレバ其商務決定之證也。

第十五條

若シ株主五人以上否之發言スル時ハ議長ノ勘考ニ任セ其會議ハ一旦決定セシトス萬一助言數平均スル時ハ議長タル者其商務ノ議ヲ決スベシ。

株主論權之事

第十六條

株主タル者ハ十株ニ至迄ハ一株毎ニ一論十株以上百株ニ至ル迄五株毎ニ一論百株以上十株毎ニ一論議スベシ。

第十七條

若シ株主狂氣或ハ不具ナラバ當人之親族ニテモ論權ヲ取ベシ。

第十八條

若シ兩人或ハ數人ニテ株ヲ持スレバ其筆頭ニ論權ヲ與ヘ他人ヘ與フ可ラズ。

第十九條

株殘金ヲ呼ブノ後若シ株主ヨリ其金ヲ拂ハザレバ論權ナシ又他人株之讓リヲ受ケテ株主トナリ其株ヲ一ケ月以上自持セズンバ會議ニ入事ヲ得ズ。



第二十條

論權ハ名代ニテモ取ル事ヲ得ベシト雖モ其名代人ハ必ズ株主ナルベシ。

第二十一條

名代人ヲ命ズル株主ハ其次第ヲ自筆ヲ以テ認メ又株主會社ナラバ社印ヲ用ヒ證人ヲ立ベシ。

第二十二條

其名代人ヲ命ズル所之一書ハ速或ハ會議之三日前會社ヘ屆ズンバ其既ニ來ル處之會議ニ無用タルベシ。

第二十三條

名代人ヲ命ズル書則如左

内外用達會社

拙者儀何府縣何國郡何姓何某内外用達會社何數ノ株主ニシテ論權有ルニ付何府縣何國何郡何姓何某ヲ名代ニ命ジ大常非常會何月何日何時何處ニ施行セラルヽニ依テ出勤助言可致樣相賴申候此後之會ニ於テモ同樣相賴申候。

第二十四條

内外用達會社規則書

何府縣何國何郡　前書何姓某
證人何姓某

名代人ヲ命ズル人其名代人ヲ止メ或ハ他人ニ變ズル時ハ其次第ヲ會社ニ書ヲ以テ如前條届クベシ。

第二十五條

名代人ハ會上ニ於テ其名代タル人ノ姓名ヲ告ゲ出勤ヲ示ス可シ。

支配人之事

第二十六條

會社之商務ハ惣テ支配人ニ依テ取扱フベシ。

第二十七條

常務支配人ハ三人ニ不過ト雖モ便宜ニ依テ加增スベシ。

第二十八條

非常勤支配人ノ數定限無シ。

第二十九條

支配人ハ會社株主會議ノ上株主中ヨリ撰擧スベシ今年撰ブ處ノ支配人ハ來年第一月十五日ノ大會迄繼承シ其大會ニ於テ再擧或ハ他人ヲ其役ニ撰擧スベシ。

第三十條

支配人ハ社頭竝支配人二級ニ別ツベシ。

第三十一條

株主ハ第一月十五日ニハ支配人撰擧ノ爲メ會議スベシ。

第三十二條

退役ノ支配人ハ再ビ撰擧スル事アル可シ。

第三十三條

支配人撰擧或ハ再擧スベキ會議ノ節ニ至テ前支配人退役シ其代人無キ時ハ其代人ノ定ル迄前支配人其役ヲ勤ムベシ。

第三十四條

支配人ノ役ヲ命ズルヲ得ザル者之條件

商社ニ於テ一百株ヲ自持セザル者

社中ニ於テ他ノ役ヲ勤メ月給ヲ受ル者

世帶限リ閉戸之者

會社之商務ニ付口錢ヲ取ル者

病氣等ニ付三ケ月不勤スル者

格別之願書ヲ以テ社中ヘ退役ヲ賴ミ社中是ヲ許諾スル者

## 支配人權力之事

### 第三十五條

支配人中病氣或ハ他行之節ハ其人之分課商務ハ殘ル支配人ニ依テ役席ヲ守勤スベシ商務不欠樣自分自分ニ工夫ヲ設クベシ。

### 第三十六條

支配人ハ枝店用或ハ他用ニ付世話人ヲ社中ヨリ撰ビ其役人之月給ヲ定ムベシ世話人ハ大會ニ於テ助言之權無ク又支配人之會ニ不可入ト雖モ自分之氣附ヲ謂之權有リ此役人ハ何時ニテモ支配人之存意ニ仕セテ進退スベシ。

### 第三十七條

支配人ハ會社之定ル規則ニ順シ商務ヲ企テ又夫ヲ施行之權力アリ。

### 第三十八條

支配人ハ社之質物ヲ出シ金ヲ借リ其必要スル商務ニ當テ其金ニ利足ヲ可拂ト雖モ社則第一條ニ順スベシ。

### 第三十九條

支配人ハ便宜ニ依テ社則ニ順シ世界各國諸所ニ枝店ヲ組ミ立ツベシ。



### 第四十條

支配人ハ支配人中ヨリ人物ヲ撰擧シ調議人ヲ命ジ支配人之權力竝ニ其要務ヲ引渡シ又其役ヲ勤ムルノ間相當之月給ヲ定ムベシ。

### 第四十一條

支配人ハ其調議人ヲ諸所ニ遣シ其要務ヲ取捌或ハ調整セシムベシ。

### 第四十二條

支配人ハ社則ニ順シ便宜ニ依リ社之小則ヲ定ムル可シ。

### 第四十三條

支配人ハ政府ヨリ支配人タル者ニ與フル權力ヲ會社ノ便利ヲ計リ施張スベシ。

## 支配人職務之事

### 第四十四條

支配人ノ職務左ノ如シ。

政府之法度ニ不反會社ノ規則ニ順シ又大會ニ於テ決定スル事件ニ違背無キ樣會社之商務ヲ起シ

支配ス可シ

支配人ハ左ノ書冊ヲ守衛シ公覽ニ備フル等ノ節容易ナサシムル可シ

一、支配人所業明細書
一、日記
一、四部出入勘定書
一、其他之諸勘定書
一、枝店諸勘定書
一、差引勘定書
一、其他規則ニ依テ設ル書冊

第四十五條

支配人調議役或ハ支配人會議或ハ支配人一箇ニテ施行セシ所業ニ付後ヨリ不相當有ルヲ發明スルト雖モ其調議役或ハ其會議或ハ支配人一箇之落度タラズ全社ニ關係シ其人々ハ職務ニ當レリト爲スベシ最モ社則ニ順スルヲ要スルナリ。

支配人會議之事

第四十六條

商務ニ付支配人之會議スルアリ其決末ハ助言數之多少ニ依テ決定スベシ若シ其數平均スル時ハ議長ニ依テ決ヲ取ベシ議長ハ何時ニテモ會議ヲ呼ベシ。



第四十七條

社頭ハ會議之議長タル可シ若シ定ムル會議之時刻ニ當人不勤之部ハ會中一人ヲ撰ビ議長ト爲ベシ。

調議人會議之事

第四十八條

調議人ハ議長ヲ定メ議決ヲ取ベシ若シ其會議ニ議長不勤之節ハ會中ヨリ相當之人ヲ撰ムベシ。

第四十九條

難決事務ハ助言數ニ依テ判斷ス可シ若シ助言數平均スル時ハ議長是等ヲ決定スベシ。

施則之事

第五十條

會社之役員ハ支配人社頭一人常勤支配人二人書記八人ト定ムト雖モ商務之便宜ニ依テ增減スル有リ右支配人以下ハ社頭支配人之命ニ從テ進退スベシ。

第五十一條

調議ニ二通有リ一ツハ商務調議一ツハ中立調議也商務調議人ハ支配人ニ依テ役員中ヨリ撰擧スベシト雖モ會社之役員ハ中立調議人ニ撰ブベカラズ必ズ株主中ヨリ撰擧スベシ。

第五十二條

商務調議ハ每日出勤シ日々其ノ商務ヲ等考スベシ役人其調議人之兌許ヲ不受シテ金銀出入ヲ爲スベカラズ最モ細密ナル詳書ヲ日々ニ認メ記スベシ。

第五十三條

中立調議人ハ少クトモ半年每ニ會社之書類勘定書所持之品物ヲ檢查スベシ又調議人之方便ニ任セ支配人之許諾ヲ受ケ人ヲ枝店或ハ諸國ニ遣シ其所ノ事物勘定等ヲ取調スベシ調議人ハ半年ニ一度或ハ數度左之條々ヲ擧テ支配人ニ忠告スベシ。

一、會社本店枝店ニ有ル建物品物竝其價明細書。
二、質物之出入明細書
三、正金之出入明細書
四、可拂金高其可拂次第ヲ遂一認ル細書
五、利益金竝損失金之細書最モ前半年勘定ヨリ後ノ勘定之事
六、會社諸勘定ノ有樣又其會計之要務ニ付氣附明細書

第五十四條

中立調議人ハ支配人之許可ヲ受ケ諸所枝店ニ於テ同樣ナル中立調議人ヲ撰ブベシ其調議人ハ貳人以上ニシテ權力惣テ支配人ヨリ直ニ命ジタル者ト同樣也

枝店竝ニ名代店之事

第五十五條

支配人ハ爲會社株金ヲ募リ諸國ニ於テ必用ナル場ヘ枝店或ハ名代店ヲ開クベシ其枝店或ハ名代店ハ左ノ條件ニ順フテ開業スベシ。

一、其枝店之規則等ハ本店之規則ニ順シ一致タルベシ。
二、枝店之基本金ハ本店元株之內ヲ募ルベシ株主ハ大概其處之居住人タルヲ肝要トス。
三、其枝店之商務ハ本店ト同樣タルベシ改ル時ハ改メ變スル時ハ可變事。
四、其枝店之社名勿論同樣タルベシ。
五、本店之元株五百株ヲ自得スル者或ハ貳千五百圓質物トシテ出ス者ナラデハ名代店ヲ開キ諸事枝店之商務ヲ取扱フヲ得ズ
六、其質金ヘハ相當之利足ヲ拂フベシ。

商則

元株之事

第五十六條

會社之株證券ハ正紙一葉ニシテ表ニ會社ヨリ株主ニ幾株ヲ引渡ス事ヲ證明シ裏ハ横五行ニ横線ヲ

入其株金拂次第ニ會社其金高請取ヲ證明スル也。

雛形左之如シ　　曲尺ニテ竪九寸六分

（表）

| 株數 | 何株 | 內外用達會社元株證券 | 何號 |
|---|---|---|---|
| 何府縣管下何國何郡何村産 | | 何姓何某 | |

右者當社ノ規則ニ順シ元株何〇〇〇〇番ヨリ第〇〇〇〇〇番迄

何〇〇〇〇株之發起持主タル事ヲ證明スル者也

社印

紀元二千五百何十何年

社頭　何姓何某　自印
支配人　何姓何某　自印
書記　何姓何某　自印

横四寸一分





（裏）

| 株金受取證券表書 | |
|---|---|
| 金何圓 | |
| 右何分ノ何<br>金何圓<br>請取<br>年號<br>月日<br>印紙 | 社頭<br>支配人何何<br>書記何何<br>姓姓<br>何何<br>某某<br>自印<br>自印<br>自印 |
| | |
| | |
| | |

第五十七條

株主規則通リ株金ヲ拂ニ於テハ其株數又株數ニ付拂ヒ金受取ヲ詳明シタル元株證券ヲ得ベシ。

第五十八條

若シ株ヲ數人ニ而引受ル時ハ其筆頭一人元株證券ヲ可受。

第五十九條

若シ其證券ヲ紛失セシ時ハ一枚ニ付手數料貳拾五錢ヲ拂ヒ直ニ證券再受スベシ。

株金出方之事

第六十條

一、當時元株金高之四分之一ヲ可拂

二、殘金ハ商法入用之節三ケ月前ニ布告スベシ。

三、株金全額ヲ先拂ヒスル者勝手次第タルベシ。

第六十一條

支配人前途之目算ヲ立テ株金出シ方或ハ株ヲ賣出ス方法ハ會社之便宜ニ依テ增減スベシ。

第六十二條

株金殘金呼立之日ハ支配人之議決セシ日ヨリ始ムルト心得ベシ。



第六十三條

殘金呼立拂出ス日ヲ三月前ニ布告シ其日ニ至テ不拂出ハ其日ヨリ月二分之利足ヲ可拂。

第六十四條

株金全員ヲ先拂スレバ其先拂ニ當ル處之員數ニ相當之利足ヲ可拂。

元株買賣之事

第六十五條

株主變スル節ハ賣主ヨリ社中へ手數料トシテ一株ニ付十五錢ヲ可拂

第六十六條

元株賣買ハ賣買兩主立合ニテ執行セラルヽト雖モ賣主之姓名元株張ヲ退ク迄ハ賣主ハ猶社中之株主タリ。

第六十七條

元株ハ左之規書ニ依テ賣買ヲ得ル也。

内外用達會社

拙者何府縣何國何郡何村何姓何某何府縣何國何郡何村何姓何某ヨリ金何圓受取ニ付當人へ拙者ノ

會社ニ有ル株何員番數ヲ相賣候上ハ拙者承知之社則ニ順シ當人之子孫家族其外之爲ニ守持スベシ
又拙者前書何某前文之如ク社則ニ順シ右元株ヲ守持スベシ。

月　日

賣主　何姓何某
買主　何姓何某
證人　何姓何某

第六十八條

何人ニテモ社則ニ順シ元株之讓リヲ請ル上ハ其讓リヲ受ル以前會社觸達セシ事件或ハ諸規則ハ其前主ト同樣兼テ承知スベシ

第六十九條

若シ株主ヨリ會社ヘ可拂金錢有リテ其金ヲ不拂時ハ株ヲ他人ニ讓ル事能ハズ。

第七十條



株讓方法ハ每第一月十五日竝ニ第七月十五日前後中取行フベカラズ。

元株讓方之事

第七十一條

死去シタル株主之株ヲ受次者ハ其人之子孫家族之外他無シト定ムベシ。

第七十二條

何人ニテモ株主之死去或ハ身帶限或ハ女株主婚姻ニ付讓ヲ受ケハ其之證成證書ヲ照シテ會社株主之帳冊ニ加フベシ。

第七十三條

右人等自分之姓名ヲ元株帳ニ入ズンバ其名代人ヲ撰ビ株主タラシムル事ヲ得ベシ。

第七十四條

右人等他人ヲシテ名代タラシムルニ付テハ其當人ト賣買規書ヲ認ムベシ。

第七十五條

讓株規書者賣買兩主一同會社ニ持參シ支配人試檢之上株主帳冊ニ入ベシ。

元株取上之事

第七十六條

萬一株主タル者株ニ付可拂金定日ニ非拂ル時ハ支配人ハ其金ニ利足其外其不拂ニ付起ル處之雜費ヲ附立當人ヘ催促スベシ。

第七十七條

其催促之一書ニ其金ヲ可拂日限又場所ヲ認メ若シ其日限ニ其處ニ於テ拂無キ時ハ右株取上之事ヲ報スベシ。

第七十八條

其取上ル處之株ハ會社之所用トナシ大會之上他人ヘ賣出等ヲ決スベシ乍去萬一大會前其當人ヨリ全金拂出ス上ハ支配人是ヲ受ケ取上之無キ始未ニナシ以前之如ク當人ヲ株主ニ定ムル事支配人ノ職務タルベシ。

第七十九條

株主元株全金ヲ不拂ニ付其株ヲ取上ルト雖モ其殘金ハ向後ニ至ツテモ拂フベシ。

第八十條

株主全金不拂ニ付其株ヲ取上ゲ其後右殘金ヲ取立テ會社ヨリ其前株主ヘ受取書出セバ愈株ヲ取上ル證ニシテ其後他人ニ賣出ストモ一最故障無カルベシ。

元金ヲ加增スル事



第八十一條

支配人ハ大會ニ依テ許諾ヲ受ケ新株ヲ出シ元金ヲ加增スベシ其金高其株數等大會ニ依テ差圖無クハ支配人相當之所分ヲ爲スベシ。

第八十二條

大會ニ於テ株主中其新株ヲ舊株之數ニ依テ引受之諾言有ラバ書面ヲ以相當數ヲ布告スベシ又殘株ハ會社之方便ニ依テ賣捌クベシ。

第八十三條

新元株主トナル者ハ舊元株主ト同樣タルベシ尤モ元株之施行方法ニ依テ同樣ナラザルコト有リ。

利益分配乏事

第八十四條

支配人ハ大會之許可ヲ請ケ株數ニ順シ會社之利益ヲ分配ス可シ

第八十五條

會社商務ニ付拂出スル利益之外分配スベカラズ尤金高ハ支配人ヨリ大會ヘ忠告スル員數ヨリ不可過ナリ。

第八十六條

支配人ハ分配スル金高ヲ大會ニ忠告スル前正當部分ヲ利益金中ヨリ常備金トシ引除ケ將來之事務ニ備フベシ。

第八十七條

株主株金ヲ拂フ上ハ利益分配金其株金ノ幾倍ニ至レリト雖モ規則通分配ヲ受クベシ。

第八十八條

利益分配ノ金高ハ後ニ記スル觸達書規則ニ依テ報知スベシ若シ株主其日ヨリ一ケ年之間其金ヲ受取ラザル時ハ支配人社之利益帳ニ納ムベシ。

第八十九條

分配金ニ利足ヲ附スル事無シト雖モ其金ヲ以テ元株ヲ買事ヲ得ベシ。

中立勘定之事

第九十條

少クモ一年間ニ一度ハ中立勘定人ニ依テ會社諸勘定ヲ取調又差引勘定ヲ明細ニ認メシムベシ。

第九十一條

中立勘定人ハ大常會ニ於テ撰擧スベシ。

第九十二條



中立勘定人ハ會社株主中ヨリ撰擧ス可ク會社諸役人或ハ會社ヨリ兼テ月給ヲ取ル者ヲ撰擧スベカラズ。

第九十三條

中立勘定人ヲ撰擧シ命ズル事モ毎年大常會ニ依テ沙汰スベシ。

第九十四條

中立勘定人ノ月給ハ大常會ニ於テ決定ス可シ。

第九十五條

中立勘定人ハ一端退役スト雖モ再擧ヲ得可シ。

第九十六條

萬一中立勘定人不意ニ退役ノ節ハ支配人非常會ヲ設ケ他人ヲ撰ブベシ。

第九十七條

萬一株主中ヨリ中立勘定人ヲ撰擧スル不能時ハ月給ヲ受ル株主中ヨリ撰擧スル事ヲ得ベシ。

第九十八條

中立勘定人之職務ハ會社諸勘定ヲ明細ニ取調スル者也。

第九十九條

中立勘定人ハ諸勘定書之數扣ヲ調ヘ時々依便宜其諸勘定書ヲ細密ニ取調スベシ是等之事件ニ付テハ社頭ヨリ書記ニ至ル迄中立勘定人之窮問試驗ヲ受クベシ。

第百條

中立勘定人ハ諸勘定書又會社會計事務ニ付氣附ヲ認メ支配人之見込書ト一同大會ニ於テ株主ニ忠告スベシ。

## 觸達之事

第百一條

觸達ハ支配人手記或ハ支配人ヨリ命ズル人ニ依テ自記スベシ。

第百二條

觸達ハ株主ヘ可手渡或ハ當人之居所迄以郵便送ルベシ。

第百三條

株主會社建立之都府外ニ住居シ都内ニ取次所ヲ定メズバ會社ヨリ觸達ヲ送ラス當人之入來ヲ待ツベシ。

第百四條

元株ヲ數人ニテ守持スル時ハ株帳之筆頭タル者ニ觸達セバ殘リ人數ニ觸達セシ事ト心得ベシ。



第百五條

以郵便送出ス觸達書ハ其送出ス時ヨリ當人ニ報知セシト定ムベシ。

第百六條

支配人撰擧又株金事件ニ付會ヲ設ル觸達書ハ株主毎ニ手渡スベシ或ハ其株主ノ府外居住エハ格別ニ報知スベシ。

## 註標

支配人トハ社頭ヨリ平常支配人迄ヲ號シ書記トハ會社四部分課之事務ヲ取扱者ヨリ平常書記役迄ヲ號ス也

## 內外用達會社差引勘定規書

| 出勘定 | | 入勘定 | |
|---|---|---|---|
| 一、質物有ル借金 | | 一、元株金受取高 | |
| 二、枝店之費用 | | 二、土地 | |

| | |
|---|---|
| 三、名代店賃金高 | |
| 四、銀行へ掛金 | 三、家屋 |
| 五、株金先拂等之預金 | 四、家具其外 |
| 六、蒸氣船會社へ掛 | 五、手形ノ類 |
| 七、荷物運輸會社掛 | 六、諸社ヨリ可拂金 |
| 八、新聞紙屋之掛 | 七、銀行へノ預ケ金 |
| 九、諸小商人へ掛 | 八、手元之正金 |
| 十、土地等之雜費 | 九、通信部 |
| 十一、諸月給ヲ拂渡掛 | 十、運輸部 |
| | 十一、貨幣部 |





| | |
|---|---|
| 十二、開業前雜費 | 爲利益分配可拂高 |
| 十三、可拂金高 | |
| 十二、依賴部 | 常備金トシテ引除高 |
| 十三、諸雜事 | 十五、可受金高 |
| | 十四、可賣品物金高 |

右者何年何月何日ヨリ今年何月何日迄惣勘定ニ而相違無之爲メ拙者共調印スル者也

何月何日

社頭
支配人
中立勘定人

秘書類纂 實業關係資料 終



秘書類纂 實業關係資料

# 人名索引


《イ》

伊藤博文 一一、二〇、一九六
稲垣滿次郎 一六
石井新三郎 三〇
伊藤清治 三〇
岩木次郎 三一
石井久藏 三七
井上甚太郎 二三九、二四〇
岩崎彌之助 二六〇
岩崎彌太郎 二九八、三〇三、三〇五、三〇四

《ハ》

林田彌三郎 二七
原口次郎 三一
林董 二九八、三〇二、三〇三

《ニ》

西邑虎四郎 二六八、二七九、二八五、二八七、二九〇、二九三、二九五

《ホ》

堀越善重郎 二二三、二二四

《ヘ》

彼理 一五

《チ》

チヤールス、アイ、ヘルス 三三、四〇

《ル》

ルボン 一八三

《ヲ》

大山米治 三〇
オクスト、ゼ、ゼゼン 三四
オレークリ 三六

太田松太　三七
《ワ》
和田維四郎　二四一
《カ》
カロル　三
カブール　一九
片山佐四郎　二七
金子堅太郎　一九七、二九五
《ヨ》
米木次郎松　三〇
《タ》
田村勝之助　三七
ダレマークリン　四八
高根義人　一七〇
《ソ》
副島種臣　二、三〇
《ツ》
ツンコフスキー　一八
《ナ》
中川房太郎　二九、三九
中村弓馬　三一
《ウ》
上田熊吉　三一
ウイリヤム、ユーエル　三五
梅謙二郎　一七〇、一七四
《ク》
黒田清隆　六九
クーバー　一七八
《ヤ》
ヤンソン　二九六
《マ》
間所歳五郎　二七
松方正義　二六一、二七九、二八五、二八六、二八七、二八八、二九〇、二九一、二九三、二九四、二九五



《フ》
ブーレン　一五九
フオン、オステン　二九六
《コ》
小島辨藏　二九
《エ》
越後彦右衞門　三一
エービーランセン　三二
《テ》
寺島宗則　三
《ア》
アツトーホリハルタ　二六
アレドルラウサン　三四
アンドリウ、レトソン　四八
《サ》
佐々木高行　三〇四
《キ》
キヤフランス　二六
岸田乙太郎　三〇
木下淺太郎　四四
《ユ》
ユール　三三
《ミ》
三井高喜　二七九、二八五、二八六、二八七、二九〇、二九三、二九四
《シ》
庄司勇藏　二九
清水磯吉　三六
莊田平五郎　三〇三、三〇三
《ヒ》
平賀　一九八
《モ》
森岡昌純　六九
森有禮　二六六
《セ》
ゼービーブラウン　三八

# 工業關係資料

秘書類纂

# 工業關係資料

目次


鐵鑛ノ調査……一
製鋼所設置ニ關スル書類……三
製鋼事業調査委員ノ議決書……六
製鋼事業調査委員復申書……一一
製鐵原料ノ調査……一四
製銑及製鋼試製ノ成績……二三
製鋼事業調査報告……三〇
製鐵所豫算……五〇
製鐵所營業豫算……五〇
製鐵所職員……五七

鐵　考……有島　武……六〇
製鐵ノ必要……河瀨眞孝……六七
鐵　工……添田壽一……七〇
製鐵所ノ設立ハ急務ナリ……小花冬吉……七五
製鐵所建設論……小花冬吉……七五
本邦鐵鑛産地……小花冬吉……八九
製鐵所設立計畫豫算……小花冬吉……九八
釜石四近鐵鑛床調……大塚專一……一三五
我國製鐵ノ材料ハ如何……大塚專一……一三三
日本ノ鐵業……杉村次郎……一四三
釜石鐵山精礦ノ景況……杉山輯吉……一四六
二十二年鐵類供給額及需用額內國鐵類產額府縣別表內國主要產鐵地……農商務省……一五六
伊國「グレゴリニー」鑄鐵竝本邦釜石鑄鐵ヲ以製造セル彈丸ノ比較試驗報告……大阪砲兵工廠……一六〇
釜石製鐵所調查報告……陸軍砲兵少佐加藤泰久……一六五
丹波國船井郡八木滿俺鑛山實視報告……澤邊春水……一七六
內國產銑鐵使用ノ結果……常喜秀五郎……一九〇
シーメンマルチン式ニテ製鋼シタル種類……大阪砲兵工廠……一九三
鐵業調……野呂景義……一九八
釜石鐵山ノ近況……野呂景義……二三四
鑛業條例……
坑法意見書……カール・ルードルフ……二五八

目次了

秘書類纂

# 工業關係資料

## 鐵鑛ノ調査

鐵鑛存在地ニシテ本年既ニ實地ノ調査ヲ終リタルモノハ釜石ノ外、岩手縣和賀郡仙人鑛山、新潟縣蒲原郡赤谷鐵山、北海道砂鐵、山陰山陽ニ於テ數ケ所、長崎下多比良鐵山等ニシテ、目下各地鐵鑛ノ現存量測算中ナレバ本月二十日頃マデニハ悉ク其結果ヲ報告シ得ベシ。今其概況ヲ擧グレバ

一、釜石　最多量銑鐵ニテ六百五十萬噸、

一、仙人（岩手縣和賀郡）釜石ニ次デ多量　五里半ニテ黒澤尻ニ達ス。

一、赤谷（新潟縣）仙人ニ次デ多量川船ニテ運送スルヲ得。

一、北海道鐵砂　ハ其量少カラズ、室蘭港ニ熔鑛所ヲ設ケナバ最モ輕便ナルモノナリ。

一、山陰山陽ノ地方ニハ彼ノ無盡藏ト稱スル鐵砂ノ外ニ出雲石見長門等ニ磁鐵鑛アリテ運搬ノ便

利ナルモノアリ。

（此外ニ長崎縣下多比良鑛山ヲ調査シタルモ甚貧鑛ニシテ且ツ分量多カラズ、製鐵ノ用ニ供シ難キモノト認定セリ。

右ニ列記シタル鐵山ノミニテモ如何ナル盛大ナル製鐵所ヲ設クルモ原料ニ不足ヲ告グルコトナキハ確實ナリトス。

重ナル産出地ヨリ鐵鑛ヲ採集シ、銑鐵ヲ試製シ、又其銑鐵ヨリ鋼鐵ヲ試製シタルニ良結果ヲ得タリ。

製鐵所ニ關スル委員ノ報告書ハ本月中ニ整頓スベシ。



# 製鋼所設置ニ關スル書類

內閣批第八號

明治廿五年七月二日官房甲第二九號

製鋼事業調査委員議決ニ關スル件請議ノ通。

明治廿五年八月三日

內閣總理大臣伯爵 松方正義

官房甲第二九號

明治二十五年七月一日

大臣 印　次官 印

鑛山局長

庶務課長 印

製鋼事業調査委員ノ議決ニ付閣議ニ提出ノ件

製鋼所設置ニ關スル書類

七月二日施行

製鋼事業調査委員ヨリ別紙ノ通議決書提出相成候ニ付テハ左案ヲ以テ閣議ニ提出相成可然哉。

閣議提出案

別紙製鋼事業調査委員議決ニ關スル件提出ス。

年　月　日

内閣總理大臣宛

大臣名

## 請議案

製鋼事業調査委員議決ニ關スル件

製鋼事業調査委員ヨリ別紙議決書提出候ニ付、審査候處委員議決ノ大體ニ於テハ本大臣ハ至當ナリト認メ候條調査ノ時日切迫候間至急閣議ニ於テ決定アランコトヲ請フ。

年　月　日

大臣名

製鋼事業調査委員等製鐵原料ノ調査其試驗竝ニ製鐵所組織ニ就テ反覆審議ノ末別紙ノ通議決致候尚製鐵所ノ組織竝ニ其設立ニ要スル諸經費ニ就テハ、政府ニ於テ製鐵所設立ノ目的ヲ決定セラレタル上ニアラザレバ議スル能ハザルヲ以テ委員等ノ意見御參酌ノ上至急裁決アランコトヲ請フ。其裁決ヲ俟チテ更ニ製鐵所ノ組織等ヲ審議シ原料ノ調査及試驗ノ結果ト共ニ製鐵所設置ニ關スル意見書ヲ編成シ本年九月ヲ期シ復命可仕候也。

明治二十五年七月一日

工學博士　長谷川芳之助

海軍大技士子爵　内藤政共

工科大學教授工學博士　野呂景義

農商務省鑛山局長　和田維四郎

大藏省國債局長　有島武

陸軍少將　牧野毅

農商務大臣　河野敏鎌　殿

追テ委員中海軍大技監原田宗助ハ出張中ニ有之委員會ニ參列セザリシヲ以テ此段申添置候也。

# 製鋼事業調査委員ノ議決書

製鋼原料ノ調査試驗及製鐵所組織ニ關スル事項ヲ調査スル爲メ委員等協議ノ上左ノ事項ニ就テ審議ヲ遂ゲタリ。

## 一、製鐵原料ノ調査

本年九月迄ニ完結スベキ見込ヲ以テ實地ノ調査ヲナスベキ各地ノ鐵山。

鑛山局及地質調査所技師ニ委任シ釜石鐵山ヲ再調シ、尙其他ニ左ノ鐵山ニ就テ鐵鑛ノ分量、運搬ノ便否及薪炭ノ供給等ヲ調査スルコトニ議決ス。

一、岩手縣下仙人鐵山
一、新潟縣ト赤谷鐵山
一、長崎縣下多比良鐵山
一、中國ノ砂鐵
一、北海道ノ砂鐵



一、南海各地ノ硫化鐵鑛
一、其他各地存在スル鐵鑛ニシテ技師ノ實驗セシモノハ其報告ヲ蒐集スルコト。

## 二、製銑及製鋼ノ試驗

各地ノ鐵鑛ヨリ銑鐵ヲ試製シ及其銑鐵ヨリ鋼鐵ヲ試製スルコト。

各種ノ鐵鑛ヲ採集シ是ヨリ銑鐵ヲ試製シ其銑鐵ヲ以テ陸海軍所屬ノ工場ニ於テ鋼鐵ヲ試驗スベシ。

## 三、製鐵所ノ組織

（一）製鐵所ノ目的。

（甲）軍用ノミヲ主トスルカ。

（乙）軍用ノミナラズ汎ク國家ノ需要ニ應ズル製鐵所ヲ設置スルコトニ決シタリ。其理由審議ノ末單ニ軍用ノミナラズ汎ク國家ノ需要ニ應ズルヲ目的トシ、其一ケ年ノ製出高僅カニ八千噸ニ過ギズ。然ルニ我國ニ於ケル鐵ノ需要ハ年ヲ遂テ增加シ、大要ヲ述ベンニ、海軍省ヨリ議會ニ提出シタル製鋼所ハ主トシテ海陸軍ノ需要ニ應ズルヲ目的ノ毎年十餘萬噸ノ供給ヲ外國ニ仰ギ內地ノ產出ハ僅カニ二萬噸ニ過ギズ。今ヤ鐵道敷設法ノ實施ニ

依テ全國ノ鐵道ヲ擴張スルニ於テハ、其敷設及將來維持ノ爲メ要スル所ノ鐵量亦尠ナカラズ。此ノ如ク其需要ノ大ニシテ年々增加スル鐵ヲシテ悉ク外國ノ輸入ニ仰グハ、國家經濟上甚ダ不利ナリ。故ニ我國ニ設置スベキ製鐵所ハ獨リ軍用ノミナラズ、汎ク國家ノ需要ニ應ズルヲ以テ目的トシ、少クモ一ケ年五萬噸ノ鐵類ヲ製出シ、尙漸次其製出額ヲ增加スルヲ以テ必要ナリト確信スルニアリ。

（二）製鐵所設立ノ方法

甲　民設トスルカ。

乙　官設トスルカ、若シ官設トセバ何レノ官廳ニテ管理スベキヤ。

委員ハ審議ノ末官設トシ、農商務省ノ管理ニ附スベキモノト決シタリ。其理由ヲ述ベンニ、今回設置スベキ製鐵所ハ更ニ大ナランコトヲ欲ス。今此ノ大事業ヲ民設ニ俟タンカ、巨額ノ資本ヲ要シ其收益ハ永遠ニ期セザルベカラズ。故ニ若シ之ヲ民設トセバ政府ヨリ充分ノ補助ヲ與フルモ、株式組織ノ會社ニ委任スルコト能ハザルハ從來ノ株式會社ノ成績ニ依テ多言ヲ要セズシテ明ナリトス。又一個人ニ於テ此大事業ヲ起工スルガ如キ大資本家ニシテ且適當ナル人物ヲ得ルコトハ我國甚ダ其人ニ乏シク、到底行フベカラザルモノナリトス。

之ヲ官設トスルトキハ民設ニ於ケルガ如ク收益ヲ以テ目的トセズ、軍事上ノ必要ト國家經濟上ニ利益アルコトヲ以テ國家事業トシテ之ヲ官設スルヲ適當ナリト認メタルナリ。其官設製鐵所ノ所管ニ至テハ何レノ官廳ニ於テ之ヲ管理スルモ、固ヨリ其目的ノ變更セザル以上ハ妨ナシト雖ドモ、汎ク國家ノ需要ニ應ズルヲ以テ目的トスルトキハ、海軍ノ軍務ノミヲ主管スル海軍省ノ所管トスルヨリハ寧ロ汎ク全國ノ產業ヲ管理スル所ノ農商務省ノ所轄トスルヲ以テ適當ナリト認ムルナリ。

（三）製鐵所ニ製銑工場ヲ加フベキヤ。

製鐵ニ要スル原料ヲ外國ニ仰グハ軍事上國家經濟上共ニ不利ナルコトハ多言ヲ要セズシテ明カナリ。殊ニ我國各地ニ於テ鐵鑛ノ存在スル量莫大ナルヲ以テ、其原料ヲ內地ノ鐵鑛ニ仰グヲ以テ目的トスベキハ勿論ナリトス。然ルニ各地ノ鐵山中製鐵ノ業ヲナスモノハ僅カニ釜石鐵山ト中國地方ノ砂鐵ノミナルヲ以テ、各地存在ノ鐵鑛ヲ製鐵所ノ原料ニ供給セント欲セバ之ヨリ銑鐵ヲ製スルノ工場ナカルベカラズ。故ニ製鐵所ニ附屬トシテ製銑工場ヲ設置スルノ必要ヲ認ムルナリ。然レドモ若シ各地ノ鐵山ニ於テ幸ニ民設ノ製銑ノ業ヲ興スニ於テハ、製鐵所ハ其銑鐵ヲ購求スルニ止メ銑鐵工場ノ建設ヲ要セザルベシ。

（四）官立廣島鐵山ヲ製鐵所ニ合併スベキヤ。

官立廣島鐵山ヲ現今ノ組織ニテ將來ニ持續スレバ其維持上多少ノ困難アルベク、若シ之ヲ製鐵所ニ附屬セシムルトキハ製鐵所ハ其需要ニ應ズベキ銑鐵ヲ製造セシムルコトヲ得ベキヲ以テ、該鐵山

ヲ製鐵所ニ附屬セシムルハ双方ノ便宜ナリト信ズ。

（五）製鐵所設立ノ位置

之ヲ審按スルニ製鐵所ヲ設立スベキ地ハ海陸運ノ便アリテ原料ヲ廉價ニ得ベキ地ニシテ、工場ニ要スル水料ヲ供給シ、且防禦線内ニアリテ有事ノ時ト雖ドモ安全ナル位置ヲ占メザルベカラズ。今斯ノ如キ地ヲ求ムルニ大阪神戸若クハ下關海峽内ニアラン歟。然レドモ其何レノ地最モ此設立ニ適當ナルヤハ實地調査ノ上ニアラザレバ確定シ難シ、故ニ委員中ニ於テ實地ノ調査ヲ遂ゲタル上確定スルコトニ決シタリ。

（六）製鐵所設立ニ要スル諸經費ノ豫算

前文陳述スル如ク製鐵所設立ノ目的ヲシテ汎ク國家ノ需要ニ應ズルモノトスルトキハ、從來海軍省ヨリ議會ニ提出シタル製鋼所豫算ハ其組織ヲ改ムルト共ニ變更セザルヲ得ズ。故ニ政府ニ於テ製鐵所設立ノ目的ヲ決定セラレタル上、更ニ製鐵所ノ豫算ヲ審議スベシ。若シ製鐵所ノ目的ヲシテ委員決議ノ如クシ、且製鐵所中更ニ製銑工場ヲ設置シ、又官立廣島鐵山ヲ附屬セシムルモノト假定セバ、製鐵所設立ノ經費ハ大凡三百萬圓ヲ要スベシ。



# 製鋼事業調査委員復申書

製鐵事業調査ノ方針ニ關シ、委員等本年七月一日付ヲ以テ意見ヲ開陳シ内閣ノ裁可ヲ經タルヲ以テ、茲ニ其方針ニ基キ調査シタル結果ヲ開陳セン。

一、製鐵原料ノ調査ハ（別紙第一號）好結果ヲ得、釜石仙人赤谷及北海道砂鐵ノ四ケ所ニ於テ存在スル鑛量千五百六十五萬餘噸、之ヨリ得ル所ノ銑鐵少クモ七百三十六萬餘噸アリ。此他未ダ測定セザルモ鐵鑛ノ多量ニ産出スル所少ナカラズ。我國製鐵ノ供給ニ不足ヲ告グルコトナキハ斷ジテ疑ナシ。況ンヤ製鐵業起レバ隨テ益々其原料ヲ發見スベキニ於テオヤ。

二、製鐵及製鋼試驗ノ成績ハ（別紙第二號）最モ好結果ヲ得、外國輸入品ト比較シ更ニ優劣ナシ。製鐵業ノ基礎トナルベキ原料ノ調査及試驗ノ成績此好結果アリ、製鐵所ヲ興スモ更ニ顧慮スル所ナシ。

三、製鐵所設立ニ要スル諸經費ノ豫算ハ別紙第三號ノ如シ。其二十五年度ニ於テ議會ニ提出シタル豫算ト相違アルハ、設立ノ目的ヲ改メ軍用ニ止マラズ汎ク國家ノ需要ニ供スルモノトシ、其規模ヲ大ニシタルト、製銑業ヲ加ヘ又廣島鐵山ヲ附屬セシメタルトニ依ルモノナリ。而シテ其

損益ニ至リテハ應分ノ利益アルハ疑ヲ容レズ。製鐵所設立ノ位置ハ大阪神戸若クハ門司海峽ノ內ニ於テ撰擇スルヲ以テ適當ト認ム。然レドモ其設立ヲ議定セラレタル後ニ非ラザレバ確定シ難キ事項アルヲ以テ、其位置ハ當局者ニ委任スベキモノト思考ス。又製鐵所職員ノ組織ハ別紙第四號ノ如ク定メラレ適當ナルベシ。

右及報告候也

明治二十五年九月三十日

工學博士　長谷川芳之助
海軍大技士子爵　內藤政共
工科大學教授工學博士　野呂景義
海軍少技監　宮原二郎
農商務省鑛山局長　和田維四郎
海軍大技監　原田宗助
大藏省國債局長　有島武
陸軍少將　牧野毅





農商務大臣伯爵　後藤象二郎殿

追テ製鐵事業調查ニ關スル詳細ノ報告書ハ編纂ノ上進達可仕候也。

（第一號）

# 製鐵原料ノ調査

製鐵ノ原料トナルベキ鐵鑛ノ調査ハ農商務省ニ於テ技師ヲシテ之ニ從事セシメタリ。其調査報告ニ依リ茲ニ其結果ノ大要ヲ述ブベシ。

調査ノ方法ハ鐵鑛存在ノ地ニ就テ第一ニ詳密ナル地形測量ヲ爲シ、其實測圖ニ依テ鐵鑛存在ノ區域ヲ劃定シ、普通鑛床ノ檢定ニ使用スル器具ヲ以テ區域ヲ劃定シ、普通鑛床ノ檢定ニ使用スル器具ヲ以テ鑛床ノ形狀厚薄等ヲ査定シ、其ノ其標品ヲ分析試驗シ、其品位ヲ定ムルニアリ。此方法ニ依リ詳密ニ調査シタル鑛山ハ（一）岩手縣下南閉伊郡釜石鐵山及其四近ノ地（二）岩手縣下和賀郡仙人鐵山（三）新潟縣下北蒲原郡赤谷鐵山（四）北海道膽振國山越郡山越内地方（五）長崎縣下西彼杵郡多比良鐵山等ナリ。

## 一、釜石鐵山

釜石地方ノ鐵鑛存在地ハ四里乃至七里ニシテ、釜石港ニ達シ、運搬ハ便利ナリ。其産出スル鐵鑛



ハ磁鐵鑛ニシテ數ケ所ニ鐵床ヲ爲セリ。其産地及鐵鑛ノ概測量ヲ擧グレバ左ノ如シ。

（一）氣仙郡小牧倉及栗木鐵山近傍ノ磁鐵鑛床

（イ）蛇ノ鼻磁鐵鑛床（小牧倉鐵山ノ借區ニ係ル）

鐵鑛量二萬九千百五十五噸（四割半ノ銑鐵ヲ得ベシ）

（ロ）小牧倉及栗木磁鐵鑛床

鐵鑛量六萬三百五十三噸（四割半ノ銑鐵ヲ得ベシ）

（二）南閉伊郡青木及赤岩磁鐵鑛床

鐵鑛量百四十五萬二千三百八十三床（五割半ノ銑鐵ヲ得ベシ）

（三）南閉伊郡釜石及其近傍ニ散在スル磁鐵鑛床

（イ）大仙磁鐵鑛床（新發見ニ係ル鐵鑛床）

鐵鑛量四百九十七萬四千四十八噸（四割半ノ銑鐵ヲ得ベシ）

（ロ）新山ヨリ新元山ニ至ル間ノ磁鐵鑛床

鐵鑛量二百四十二萬四千二百三十五噸（五割半ノ銑鐵ヲ得ベシ）

（ハ）新山ヨリ硫黄洞ニ至ル間ノ磁鐵鑛床

鐵鑛量六十一萬五千七百八十八噸（五割半ノ銑鐵ヲ得ベシ）

（ニ）硫黄洞ヨリ大瀧洞ニ至ル間ノ磁鐵鑛床

鐵鑛量十九萬五千三百八十六噸（四割半ノ銑鐵ヲ得ベシ）

（ホ）大瀧ノ洞

鐵鑛量二萬九千百十八噸（五割ノ銑鐵ヲ得ベシ）

（ヘ）新元山ヨリ佐比内ニ至ル間ノ磁鐵鑛床

鐵鑛量二萬五千七百十六噸（五割半ノ銑鐵ヲ得ベシ）

（四）佐比内磁鐵鑛床（西閉伊郡）

鐵鑛量四百二十三萬二千三百四十三噸（五割ノ銑鐵ヲ得ベシ）

鐵鑛量合計千四百三萬八千五百二十五噸

此鐵鑛ノ品位ハ佳良ニシテ少クモ平均五割ノ銑鐵ヲ製出シ得ベシ。此鑛量ハ地表ニ露出シテ最モ採掘シ易キ部分、卽チ地表ヨリ四十尺乃至七十尺以内ニ存在スル鑛量ノミヲ計算シタルモノナレバ、實際之ヲ採掘スルニ當リテハ此概測額ヨリ遙ニ多量ノ産出アルハ更ニ疑ヲ容レザルナリ。今假リニ此鑛量ニ對シ精製シ得ベキ銑鐵ノ量ヲ概算スレバ少クモ六百五十萬噸ヲ得ベシ。



## 二、仙人鐵山

仙人鐵山ハ東和賀郡黒澤尻ヨリ五里半ニアリ。鐵山ヨリ黒澤尻ニ至ルノ道路ハ平坦ニシテ陸運容易ニシテ黒澤尻ヨリハ河運若クハ鐵道ノ便アリ。其産出スル鐵鑛ハ赤鐵鑛卽チ酸化鐵ナリ。品位ハ佳良ニシテ四割五分乃至六割八分強ノ鐵ヲ含ム其鑛量ノ概測量ヲ擧グレバ左ノ如シ。

（一）矢立澤

鐵鑛量五萬八千八百四十二噸（五割ノ銑鐵ヲ得ベシ）

（二）矢立澤（一）ノ下部

鐵鑛量一萬二十二噸（五割ノ銑鐵ヲ得ベシ）

（三）カナハダト姥杉ヒドノ間

鐵鑛量三千七百五十七噸（四割半ノ銑鐵ヲ得ベシ）

（四）姥杉ヒドノ北邊

鐵鑛量三萬五千五百十五噸（四割半ノ銑鐵ヲ得ベシ）

（五）千枚鞍ノ北邊

鐵鑛量八千七百三十八噸（四割半ノ銑鐵ヲ得ベシ）

（六）遠平山

鐵鑛量七十二萬四千九百十噸（五割半ノ銑鐵ヲ得ベシ）

鐵鑛量合計八十四萬一千七百餘噸
此鑛量ヨリ得ル所ノ銑鐵ハ少クモ四十五萬餘噸

## 三、赤谷鐵山

赤谷鐵山ハ飯出川ノ上流ニ在リテ、産出地ヨリ上赤谷村ニ至ル二里餘ノ道路ハ自今陸運ノ便宜シカラズト雖ドモ、同處ヨリハ飯出川ニ由テ運搬自在ナリ。此地ノ鐵鑛ハ仙人鐵山ノ如ク赤鐵鑛ナリ。其品位殊ニ佳良ニシテ五割半乃至六割九分強ノ鐵ヲ含ミ、最モ上等ノ鐵鑛ナリ。其概測量ヲ擧グレバ左ノ如シ。

（一）源兵衛安鐵鑛床

鐵鑛量七千四百七十二噸（五割ノ銑鐵ヲ得ベシ）

（二）大簀立澤ト水ナシ簀立澤トノ間ニ在ル鑛床ノ南部

鐵鑛量四千二百十六噸（五割ノ銑鐵ヲ得ベシ）

（三）簀立銅山近傍

（イ）簀立銅山事務所ノ北ニ挿間セル鑛床

鐵鑛量一萬五千九百三噸（六割ノ銑鐵ヲ得ベシ）



（ロ）簀立銅山事務所ノ前ニ露出スル鑛床

鐵鑛量二千九十二噸（六割半ノ銑鐵ヲ得ベシ）

（ハ）事務所ノ南水ナシ簀立澤ノ西邊ニ露ハル、鑛床

鐵鑛量一千九百九十三噸（六割ノ銑鐵ヲ得ベシ）

（ニ）事務所ノ南（ロ）床ノ西南ニ露出スル鑛床

鐵鑛量一萬七千七百四十七噸（五割半ノ銑鐵ヲ得ベシ）

（ホ）舊坑近傍ノ鑛床（下部）

鐵鑛量四萬〇五百二十六噸（六割ノ銑鐵ヲ得ベシ）

（ヘ）同上（上部）

鐵鑛量二萬四千五百〇七噸（六割ノ銑鐵ヲ得ベシ）

（四）バワリ澤鐵鑛床

鐵鑛量十一萬〇五百二十八噸（五割ノ銑鐵ヲ得ベシ）

（五）小又銅山近傍

（イ）小又澤ノ南邊ニ布衍スル鐵鑛床

鐵鑛量十二萬〇二百六十四噸（五割ノ銑鐵ヲ得ベシ）

（ロ）小又澤ノ北邊ニ布衍スル鐵鑛床

鐵鑛量二萬八千五百二十四噸（五割ノ銑鐵ヲ得ベシ）

鐵鑛量合計三十七萬三千七百七十三噸

右鑛量ヨリハ少クモ銑鐵十九萬六千餘噸ヲ得ベシ

## 四、北海道ノ砂鐵

北海道ノ砂鐵ハ膽振國噴火灣ノ海岸ヲ主トシ、其他函館古武井間若クハ網走等ノ海岸ニ產出スルヲ以テ運搬量モ便利ナリ。其品位ハ佳良ニシテ概シテ五割ノ鐵ヲ得ベシ。其概測シタル鑛量ヲ擧グレバ左ノ如シ。

（一）黑岩八雲間

鐵鑛量十二萬四千噸

（二）八雲山越內間

鐵鑛量十萬七千噸

（三）山越內落部間

鐵鑛量六萬三千噸



（四）落部茅部間

鐵鑛量三萬噸

（五）茅部森間

鐵鑛量二萬八千噸

（六）函館古武井間

鐵鑛量四萬噸

（七）網走地方

鐵鑛量八千噸

鐵鑛量合計四十萬噸

此他長崎縣下多比良鐵山ヲ調查シタリト雖ドモ、該地ノ鐵鑛ハ品位佳良ナラズ、且其產量一定セザルヲ以テ目下ノ情況ニ於テハ製鐵ノ用ニ供給スルハ不利ナリト認メタリ。

今此精密ナル調查ヲ經タル四ケ處ノ鐵鑛量ヲ概算スルニ、其表面ニ接近シ容易ニ採掘シ得ベキモノ千五百六十五萬餘噸ニシテ、之ヨリ得ル所ノ銑鐵ハ實ニ七百三十六萬餘噸ヨリ少カラズ。之ニ加フルニ未ダ實測セザル地ニシテ多量ノ鐵鑛ヲ存在スル所アリ。卽チ新潟縣下東蒲原郡朽掘室谷及島根縣下鹿足郡津和野地方ノ如キ是ナリ。又彼ノ山陰山陽地方ニ於ケル鐵砂ハ殆ンド無盡ト稱スベク

又南海地方ノ銅鑛中ニハ多量ノ鐵ヲ含ムヲ以テ、先ヅ銅ヲ收メタル後其殘滓ガ能ク製鐵ノ原料ニ適スルコトハ別子銅山ニ於テ施行シタル實驗ニ依テ明ナリ。此他鐵鑛ノ存在スル個處ニ至リテハ殆ンド枚擧スベカラザルヲ以テ製鐵ノ材料ニ於テハ決シテ缺乏ノ憂ナクシテ寧ロ餘裕アリト認ムベシ。

元來世人ガ我國ヲ稱シテ鐵鑛ニ貧ナリト爲スハ誤ナリトス。我國ニ於テハ英國若クハ佛獨等ニ於テ多量ニ產出スル所ノ炭酸鐵ヨリ變生シタル鐵鑛類ヲ產出セズト雖ドモ、是等ノ鐵鑛類ヨリ品質ノ佳良ナル磁鐵鑛及赤鐵鑛ニ富裕ナリト明言シ得ベシ。彼ノ英佛獨等ノ鐵鑛ハ其品位多クハ佳良ナラザルヲ以テ、外國ヨリ品位ノ佳良ナル酸化鐵鑛ヲ輸入シ補充スルモノアリ。然ルニ我國ハ此諸國ガ外國ヨリ輸入ヲ仰グ所ノ品質ノ佳良ナル鐵鑛ニ最モ富裕ナルヲ以テ品位ノ佳良ナル鐵類ヲ精製スルニ於テハ我國ハ反テ彼ノ諸國ニ勝ルモノト云フベシ。且ツ我國ニハ未ダ製鐵所起ラズ、鐵鑛ノ需用殆ンド杜絕セルヲ以テ、其產出地ノ世上ニ顯ハルヽモノ尙甚ダ少シト雖ドモ、一朝製鐵所ヲ設ケ鐵鑛需用ノ途開クルニ於テハ世人ノ未ダ知ラザル地方ニ於テ多量ノ存在ヲ發見シ得ルハ他ノ經驗ニ徵シテ確信スル所ナリトス。



（第二號）

# 製銑及製鋼試製ノ成績

本邦產砂鐵及釜石產磁鐵鑛ヲ以テ製造セル銑鐵ハ汎ク世用ニ供給セラレ、大阪砲兵工廠ノ如キモ從來用ヒタル外國輸入ノ銑鐵ヲ廢シ、目今ハ悉ク內國產ノモノヲ用ユルニ至レリ。而シテ製鐵所ヲ興スニ於テハ其原料トシテ銑鐵ノ需用著シク增加スルヲ以テ、未ダ銑鐵ヲ製造セシコトナキ鐵鑛ニシテ品位佳良且多量ニ存在スルモノニ就テ銑鐵ヲ試製シ、其銑鐵ヲ以テ鋼鐵ヲ試製シタリ。今其成績ヲ看ルニ實ニ良好ニシテ獨リ外國品ニ劣ラザルノミナラズ、其業ノ熟練スルニ至テハ遙カニ外國品ニ優レル鋼鐵ヲ製出スルニ至ルハ期シテ俟ツベキナリ。次ニ其成績大要ヲ擧グ。

## 仙人及赤谷產赤鐵鑛及釜石中佐比內大仙外四ケ所產磁鐵鑛ヲ以テ銑鐵ヲ精製シタル成績

仙人山赤谷及釜石鐵山中佐比內、大仙山、外四ケ所ノ鐵鑛ハ其量多ク其質善良ナルヲ以テ、能ク製銑ノ原料ニ適スルコト學理上明白ナルモ未ダ之ヲ以テ製銑ノ業ヲ試ミザルヲ以テ、實地ニ銑鐵ヲ

製造セント欲シ、本年七月ヨリ釜石鐵山ニ於テ右八種ノ鐵鑛ヲ用ヒ、銑鐵ヲ試製シタルニ好結果ヲ得タリ。試製ニ用ヒタル鑛名製品ノ種類等ハ左表ノ如シ。

| 種目 | 熔製高爐番號 | 壹回裝入物合 | 品位 |
|---|---|---|---|
| 佐比內鑛 | 第五 | 佐比內鑛 二三、〇〇〇<br>前山鑛 二、〇〇〇<br>石灰石 二、〇〇〇 | 上等一號 |
| 硫黃洞鑛 | 第五 | 硫黃洞鑛 二二、〇〇〇<br>前山鑛 二、〇〇〇<br>石灰石 一、〇〇〇 | 同 |
| 大仙山鑛 | 第五 | 大仙山鑛 二〇、〇〇〇<br>前山鑛 一、〇〇〇<br>石灰石 一、〇〇〇 | 同 |
| 前山鑛 | 第五 | 前山鑛 一三、〇<br>石灰石 一、五 | 同 |
| 元山鑛 | 第六 | 元山鑛 一三、〇<br>石灰石 一、五 | 同 |
| 瘦駒鑛 | 第一 | 鑛石石灰石等ノ割合前條ニ同ジ | 同 |



| | | | |
|---|---|---|---|
| 仙人山鑛 | 第四 | 仙人山鑛 一三、〇<br>石灰石 二、二<br>柄身 〇、五 | 上等二號 |
| 赤谷鑛 | 第五 | 赤谷鑛 一七、〇<br>佐比內鑛 一、八<br>石灰石 三、二 | 上等一號 |

各鑛石ニ前山鑛ヲ加裝シタル理由ハ、鎔解ノ度ヲ進ムルニアリ。又仙人山鑛及赤谷鑛ハ他鑛ニ比シ硅石ノ含有多キガ故隨テ亦タ多量ノ石灰石ヲ加ヘタリ。

其結果ニ依テ看レバ此銑鐵ハ品質最モ善良ニシテ、當ニ製鋼ノ原料ニ適スルノミナラズ、又鑄造用ニ使用シ最モ良材ナリト云フベシ。

## 横須賀海軍鎭守府造船部ニ於テ製造中ノ乙號巡航艦ノ機關部用トシテ內國產ノ原料ヲ以テ精煉シタル軟鋼ノ成績（內國產ノミヲ以テ製鋼シタルハ之ヲ以テ創メトス）

一、此ノ軟鋼ハ陸中佐比內產銑鐵ト伯州產錬鐵ヲ以テ精製シタルモノニシテ、其配合ハ佐比內銑鐵

百ニ付三十伯州鐵百ニ付七十ノ割ナリ。

製鋼爐ハ一回ニ二噸ヲ熔製スル石油爐ナリ。

一、試驗棒ハ四本ニシテ張力及延伸試驗ニ各二本ヲ使用セリ。

左ニ揭グル者ハ其ノ平均ヲ示スモノナリ。

一、緊張力（引張ルニ抵抗スル力ヲ云フ）一平方吋ニ付　三十四噸强

一、伸　長　百ニ付　二十・一

一、屈曲ノ度　二十四ミル角棒ニテ殆ンド百八十度

（見本ヲ參照スベシ）

摘　要

該鋼ハ其力甚ダ强ナルニ比シ其柔軟ナルコト實ニ美ニシテ造船材料用最良ノ質ヲ有スルモノナリ。今之ヲ歐洲製同種ノ軟鋼ニ比スルニ、歐洲製ハ其緊張力三十四乃至五噸位ヲ有スル者ナレバ、百度以上ニ屈曲セザル中ニ破壞スルヲ以テ通常トス。

前揭ノ製鋼後陸中硫黃洞產銑鐵ヲ以テ前陳軍艦材料ヲ製造セリ。而シテ其結果佐比內ニ優ルトモ劣ラザル良材ヲ得タリ。



## 大阪砲兵工廠ニ於ケル內國產銑鐵使用ノ結果

上州中小阪產銑鐵ヲ各種ノ鑄造ニ供用シタルニ、流動滑カニシテ白色性ヲ顯ハサズ、且ツ氣泡ヲ生ズル尠シ。鏇削ノ工事ニ於テモ容易ニシテ其質良好全ク鼠色鑄鐵ニシテ鑄造用ニ適セリ。之ヲ以テ鑄造シタル處ノ七珊米榴霰彈ヲ砲兵第四聯隊ニ於テ二十二年秋期射的演習ニ發射シタル實驗報告ニ徵スルニ、腔發ノ憂ナカリシ。該銑ハ當時多量ニ需要シタリシガ、中途ニシテ廢業セシ爲メ爾後需要ニ應ジ得ザリシ。

雲州產銑鐵ハ之レヲ鎚破シ、其狀ヲ試視スルニ全ク白色銑鐵ニシテ、其質堅硬鑄造ニ用ユルコト能ハズ。然レドモ之ヲ精煉シ適當ナル性能ヲ與フレバ製鋼ニ適スルヲ以テ、試ミニ坩堝ニ於テ熔解精煉ヲ施シ製鋼シタルニ結果良好ナルヲ得タリ。

廣島產銑鐵ハ其質堅固斷面ニ於テ鼠色中ニ點々白色ノ存在スルヲ見ル。之レヲ鑄造ニ用ユルニ白色ヲ帶ビ鏇削ニ困難ニシテ氣泡ノ患アルヲ免レザルナリ。然レドモ他ノ銑鐵ニ配合シ用ユルニ於テハ鑄造ニ供シ所用ノ種類ニ據リ大ニ適スルヲ見ル。

釜石產銑鐵ハ最初海岸砲用堅鐵彈鑄造ニ供セントセシガ、未ダ以テ粗製ニシテ其用ニ堪ユル能ハザルヨリ、該銑ニ過酸化滿俺ヲ配合シ、精製ノ業ヲ起シ、其目的トスル處專ラ之レガ鑄造ニ供シ從

來用ユル外國品ニ換シトスルニ在リシ。

海岸砲用各種堅鐵彈ヲ該精製銑ヲ以テ鑄造スルニ、孰レモ健淬適度ヲ得タリ。且耐力試驗機ヲ以テ二十四珊米堅鐵彈ヲ破碎スルニ、第一回六米突第二回七米突第三回八米突ノ高サニ逐次上昇シテ始メテ破碎シ得タリ。尤モ七米突ノトキハ該彈圓壔部殆ンド楕圓形ヲ爲セリ之レヲ「グレゴリニー」銑四米突高ニテ破碎スルニ比スレバ其耐力知ルベシ。

以上製スル處ノ各種堅鐵彈ハ泉州大津川ニ於テ鐵的ニ向テ射擊試驗シタルニ、其結果ノ良好ナル山野砲彈丸ハ初メ堅鐵彈用ニ適スル精製銑ヲ以テ試製シタルニ、葩環ノ周圍ニ於ケル彈ノ外體一密「グレゴリニー」銑鑄造ノモノニ優劣アルヲ見ズ。其製造價格ノ低廉ナルハ殆ンド半バニ相當セリ。理餘ノ白色ヲ帶ビ、健淬ノ狀ヲ顯ハセリ。是レ帶溝ヲ穿ツニ困難ナルヲ恐レ、更ニ精製ニ要スル滿俺ノ量ヲ減少シ精製シタル銑ヲ以テ製スルニ、前顯ノ如ク白色竝ニ健淬ノ狀ナシ頗ル其結果ヲ得タリ。追破シテ其斷面ヲ試視セントスルニ、追擊四五回ノ後初メテ破碎ス。之ヲ「カーチセリー」銑彈二三回ノ後追破サルヽニ較レバ稍々優ナルモノノ如シ。

抑モ小野砲彈ノ重量公差ノ如キハ前後五十瓦ナリ。而シテ「カーチセリー」銑彈ニハ公差ノ如キニ出ヅルコト最モ尠シ。然ルニ釜石精製銑ヲ以テ製シタル彈ハ、公差重キニ出ズルコト平均三四十瓦ナリ。以テ其彈ノ緻密ニシテ火藥瓦斯ノ彈壓ニ耐フルコトヲ知ルベシ。

釜石銑ハ當初鑄造上供用ニ流動宜シキヲ得ズ、且ツ氣泡ヲ生ズル等有リ甚ダ困難ナリシガ、目下ニ於テハ大ニ之レガ使用ニ熟シ、外國品ヲ廢シ總テノ鑄造ニ供用スルニ至レリ。使用ノ結果前記ノ如クニシテ現今釜石銑ハ其主ニ居ル。依テ左ニ二十四年度中ニ製造シタル物件ノ重ナル數量ヲ揭ゲ以テ參考ニ供ス。

| | |
|---|---|
| 山野砲彈丸 | 八萬九千四百五十二個 |
| 攻守城砲彈丸 | 九百八十八個 |
| 海岸砲彈丸 | 五千〇四十一個 |
| 二十四珊米加農中心軸砲架一式 | 十門 |
| 二十八珊米榴彈砲々架鑄物諸器械鑄造ノ量 | 二十門 |
| 此彈丸數ハ試驗射擊ニ用ヒタル分モ含有セリ。 | 六萬八千二百七十一吉魯四九六 |

# 製鋼事業調査報告

製鋼事業調査委員ヨリ別紙寫ノ通復申書差出候間不取敢供御内覽候尙詳細ノ義ハ閣議ノ日ヲ以テ開申可爲致爲念申添候也

明治廿五年十月十日

農商務大臣伯爵 後藤象二郎

内閣總理大臣伯爵 伊藤博文殿

## 大阪砲兵工廠ニ於ケル製鋼ノ成績

明治二十二年七月始メテ坩堝ヲ用ヒテ製鋼ノ業ヲ試ミタリ。其金屬ノ配合タル第一法雲州産白色鉄ニ酸化鐵過酸化滿俺若干ヲ加ヘタルモノ、第二法山陰山陽兩道ニ於ケル産出鐵ニ釜石鉄滿俺鐵ヲ加ヘタルモノ、第三法雲州白色鉄ヲ「ピユドラーシ」法ニ依テ海綿狀ノ鋼ト爲シ滿俺鐵ヲ加ヘタルモノ、以上三種各硬軟優劣アリト雖ドモ其軟鋼ノ如キハ伸金機ヲ用テ鋼鈑ヲ製シ、七珊米霰發彈皮



套ニ用ヒテ之ヲ射撃シ、毫モ破碎ノ恐レナシ。其硬鋼ノ如キハ鑿ニ製シテ彈丸鏃造ノ刃ニ充ツ、約スルニ鋼材試製ノ正鵠ヲ失ハザルモノト確認ス。依テ翌廿三年八月ヲ以テ「シーメンマルチン」式爐ノ小形ニシテ凡二百五十古瓦ヲ製獲セラルヽモノヲ創設セリ。而シテ其爐ヲ使用スルヤ、其金屬配合ノ如キハ則チ大約前日坩堝ニテ試製スル所ノモノニ資ル。然ルニ其着手ニ於テ坩堝試製ノトキト大ニ其趣ヲ異ニシ、障礙百出一モ其目的ヲ達スルコトヲ得ズ。請フ其一二ヲ述ベン。該爐使用ニ方テ金屬ヲ爐内ニ積入タル後チ、熱度ヲ與フル凡ソ十數時間ニ至ルモ金屬依然トシテ毫モ其鎔解ノ景況ヲ呈セズ。或ハ稍々鎔解ノ度ニ至ルモ爐壁爐底ノ粘土ニ作用シテ多クノ屑湯ヲ釀生ス。之ヲ排出セント欲スレバ外氣湯口ヨリ交感シ來リ、爲メニ忽チ其熱度ヲ低降シ、流動セル金屬モ亦タ遂ニ爐底ニ固着スルニ至ル。或ハ金屬充分ノ鎔解ヲ呈スルモ爐底ノ耐火粘土其高熱ニ耐ヘズ、底ノ周圍遂ニ侵竄セラレテ鎔鋼爐外ニ迸出スルニ至ル。或ハ前數種ノ景況ヲ爐内ノ金屬未ダ製鋼ノ時期ニ達セザルニ先ツテ注出セシコトアリ其質ヲ檢スルニ鉄ノ精製シタルモノニ異ナラズ。爐ニ着手シテヨリ如斯スルコト凡ソ一年艱難亦極レリ。依テ案ズルニ其使用スル所ノ爐ヲシテ冶金學諸書ニ記載シタルモノニ參照スルニ、爐内ノ容積頗ル少量ニシテ其比例ヲ得ザルガ爲メニ如斯ノ不結果ヲ見ルニ至ルナラント、茲ニ於テ客歳九月該爐修繕ニ際シ前顯ノ害ヲ避ケント欲シ、蓄熱器ノ瓦量ヲ增加シ、爐内ノ容積ヲ增大シ凡ソ六百吉瓦ヲ製出シ得ラルヽモノト爲ス。而シテ使用スルコト爾來凡ソ數月、

然レドモ修繕前ノ爐ト毫モ異ナラズ。動モスレバ金屬爐底ニ固着シ、或ハ熱度侵竄ノ爲メ爐底ノ破壞ヲ免レズ、間々製出シ得ラルヽモ毎回其質ヲ異ニシ、術路亦ダ其意ノ如クナラズ。百方苦辛遂ニ本年三月ニ至テ始テ該爐使用ノ目的ヲ達シ、製出シタル鋼材モ亦タ稍々硬軟其宜キヲ見ルニ至ル。蓋シ使用ニ方テ金屬積入レノ遲速、空氣ノ增減、燒材ノ斤量、爐底準備ノ巧拙等幾多ノ習熟ヲ要シタルノ致ス所ナラン。爾來使用スル數月未ダ曾テ一モ前顯ノ如ク其爐ヲ誤用シタルコトナシ。既ニ製出シタルモノハ廿四珊米加農中心軸砲架滑動輪及七珊米霰發彈皮套其他鋼鈑方材等數種アリ。要スルニ猶一層齊等良質ノ鋼材ヲ獲ント欲セバ爐內ノ容積ヲ增加シ、汽鎚竝ニ伸金機ノ大ナルモノヲ設ケテ之レガ鍛鍊ヲ施スニ在リ。目下配合ノ材料ハ概シテ佐比內銑、製砲用釜石銑、雲州白色銑、廣島滿俺鐵、和洋鐵屑ヲ用フ。只硬軟其目的ニ因テ前數種ノモノヲ增減取捨シテ配合スルニ過ギズ。

左ニ數表ヲ抄出シテ參照ニ供ス。

## 坩堝製鑄鋼試驗成績

| 年月日 | 健淬溫度 | 彈力定限 | 破壞力 | 延伸 百ミリニ付 | 製鋼元料 |
|---|---|---|---|---|---|
| 廿四年二月十八日 | 紅色ニ熱灼シ空中ニ冷却 四〇 | 三七壹 五〇〇 | 七七 〇〇〇 | 四二一〇 | 雲州製海綿狀鋼 四〇 |
| 同 | 同 | 三六 〇〇〇 | 七九 〇〇〇 | 四五七〇 | |
| 同 | 紅色ニ熔キ空中ニ放冷 四〇 | 二七 〇〇〇 | 六五 〇〇〇 | 一二 〇〇〇 | 前同樣鋼 四〇 |
| 同 | 同 | 二八 〇〇〇 | 六八 五〇〇 | 五二 五〇 | 滿俺銑 〇、六 |
| 同 | 同 | 一九 〇〇〇 | 七七 〇〇〇 | 四四六〇 | 滿俺銑 一、二 |

## シーメンスチツフン鋼鎔解爐鑄鋼試成績

| 年月日 | 健淬溫度 | 彈力定限 | 破壞力 | 延伸 百ミリニ付 | 製鋼元料 |
|---|---|---|---|---|---|
| 廿四年九月十八日 | 六 | 三七五〇〇 | 五二五〇〇 | 三五〇〇 | 雲州白銑 二〇〇 |
| 同 | 四 | 四四〇〇〇 | 六六〇〇〇 | 二一〇〇 | 釜石鼠色銑 一〇〇 |
| 同 | 《 | 四四〇〇〇 | 六一〇〇〇 | 一五〇〇 | 滿俺銑 三 |
| 廿四年十月五日 | 六〇 | 三七五〇〇 | 六〇五〇〇 | 三一〇〇 | 釜石鼠色銑 一一七 |
| 同 | 六〇 | 二一〇〇〇 | 六四〇〇〇 | 一五〇〇 | 鋼鑿屑 二三三 |
| 同 | 《 | | 五七〇〇〇 | 一〇〇 | 雲州白銑 三 |
| 同 | 十月十日 四〇 | 三一〇〇〇 | 六五五〇〇 | 三一五〇 | 鋼鑿屑 二五〇 |
| 同 | 四〇 | 三五〇〇〇 | 六一〇〇〇 | 四五〇〇 | 雲州白銑 五〇〇 |
| 同 | 《 | 三七五〇〇 | 七〇五〇〇 | 四五〇〇 | 滿俺銑 五 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 廿五年六月十六日 | 四〇 | 三五 | 〇〇〇 | 五〇 | 〇〇〇 | 一七 | 〇〇〇 | 釜石銑、鐵屑、鋼屑、滿俺銑 | 三七〇、五〇〇、三〇〇、六 |
| 同 四月七日 | 四〇 | 三三 | 三三三 | 四〇 | 九三三 | 二 | 〇〇〇 | 鐵屑、鋼屑、釜石銑、滿俺屑 | 三〇〇、三〇〇、四〇〇、六〇 |
| 同 | 四〇 | 三三 | 三三三 | 六六 | 〇〇〇 | | 七五〇 | | |
| 同 八月一日 | 四〇 | 三〇 | 〇〇〇 | 四二 | 〇〇〇 | 《 | | 釜石鼠色銑、廣島滿俺銑、雲州銑、鋼屑、鐵屑、滿俺屑 | 三六〇、二〇、、、一〇〇、一二 |
| 同 | 四〇 | 四四 | 〇〇〇 | 六二 | 〇〇〇 | 八 | 七五〇 | | |
| 同 七月廿三日 | 四〇 | 三〇 | 〇〇〇 | 三七 | 〇〇〇 | 五 | 二五〇 | 鐵屑、釜石鼠色銑、滿俺銑 | 六〇〇、五〇〇、二五 |
| 同 | 四〇 | 四〇 | 〇〇〇 | 六二 | 五〇〇 | 六 | 五五〇 | | |
| 同 | 四〇 | 四〇 | 〇〇〇 | 六四 | 〇〇〇 | 七 | 〇〇〇 | | |

備考

坩堝製ニテハ蓋ヲ以テ覆フガ爲メニ金屬中ニ他ノ瓦斯體ノ侵入ヲ防禦シ從テ鑄注ノ物品ニ氣泡僅少ナリ

八月一日ノモノハ軟鋼ノ目的ニ因リ製造七月廿三日ハ中心軸泡架滑動輪地金ナリ

是試驗捍ハ坩堝製ノ外ハ氣泡ヲ免レズ蓋シ爐內ノ容積狹小ニシテ鎔解物少量ナルガ爲其變化速ニシテ鑄注ノ際充分ノ流動ヲナサヽルモノ其一原因ナラン





## 當廠製鋼百斤ニ付材料竝工銀

| 品目 | 斤數 | 代價 |
|---|---|---|
| 釜石銑 | 四〇斤 | 五〇八 |
| 鐵屑 | 三〇斤 | 一三五 |
| 鋼屑 | 三〇斤 | 四五〇 |
| 滿俺 | 一斤 | 〇七〇 |
| 燧石 | 一〇斤 | 〇四七 |
| 唐津石炭 | 一二〇斤 | 二三四 |
| 熊野炭 | 五分ノ一俵 | 〇七四 |
| 松炭 | 十分ノ一俵 | 〇一八 |
| 三池石炭 | 二〇〇斤 | 四九八 |
| 松薪 | 四貫目 | 〇五四 |
| 黑鉛 | 百目 | 〇一九 |
| ガニスター | 四斤 | 一一六 |

| 工合 | 銀 | 二五七二 |
|---|---|---|
| | 計 | 四七九五 |

備考　是鐵屑鋼屑ヲ釜石銑鐵ニ配合シテ製造シタルモノ擧テ一百斤ニ就テノ價格ヲ揭グルモノナリ雲州産白色銑ヲ用ヒテ製造スルモノモ亦價格ニ於テハ大差アルコトナシ依テ玆ニ贅セズ



## 當廠製鋼ト歐洲製鋼ノ比較

| | | 彈力定限 | 破壞力 | 延伸百斤ニ付 |
|---|---|---|---|---|
| 當廠製 エーチ、レミー會社鑄鋼 | | 一密米平方ニ付吉三七五〇〇 | 上同 七七〇〇〇 | 四二一 |
| | | 四三五〇〇 | 七二三九〇 | 三四二 |
| 當廠製 クルツプ鋼 | | 同 二九六六 | 上同 四二八〇〇 | 一二一二 |
| | | 二七〇〇 | 六五〇〇〇 | 一二〇〇 |

備考　エーチ、レミー會社ノ鑄鋼ハ鏇削等ノ道具ニ適シ代價十七圓六十七錢ナリクルツプ鋼ハ柔軟ナルモノニシテ代價五圓七十錢ナリ當廠製ノモノハ硬軟ニ因リ高下アリト雖ドモ前表ニ着ハセル如ク四圓五十錢以上五圓內外ナリ以上ノ代價ハ形狀ノ類似セル方圓ノ扞鋼ヲ云フナリ

## 瓦斯爐ニ於テ製鋼豫算

但三十日間晝夜就業一晝夜ニ一回注出

| 品目 | 數量 | 代價 |
|---|---|---|
| 唐津石炭 | 六〇〇〇〇吉 | 二〇九圓 |
| 釜石銑 | 〇〇〇 | 五八〇 |
| 鐵屑 | 五四四三〃 | 一五二四〇一 |
| 蕭俺銑 | 二〇〇 | 四五八一〇 |
| 熊野炭 | 四〇八二〃 | 二一〇〇〇 |
| 松炭 | 一三六〃 | 二二四四〇 |
| 松薪 | 〇八〇 | 一四一一八 |
| 黑鉛 | 六〇俵 | 三四六五 |
| 硅石 | 〇〇〇 | 二九一四 |
| 勝間土 | 九〇〇吉 | 一五〇〇〇 |
| 杉山土 | 〇〇〇 | 〇六〇 |
| | 九〇〃 | 六二五 |
| | 〇〇〇 | |
| | 六〇〃 | |
| | 〇〇〇 | |
| | 九〇〇吉 | |
| | 〇〇〇 | |
| | 一五〇〇〃 | |
| | 〇〇〇 | |
| | 合 一〇〇 | |
| | 二〃 五〇〇 | |